

開発版

リファレンスマニュアル

バージョン:5.1.*.*





《法的な注意事項》

本書に記載した内容は、将来予告なしに変更することがあります。

本ドキュメントの作成にあたっては細心の注意を払っていますが、本書マニュアルの記載事項の誤り、または欠落により発生した損害については責任を負いかねますのでご了承ください。

本書は、株式会社ニューコムが事前に承諾している場合を除き、製品の使用許諾契約書に記載の条件に同意をされたライセンス所有者に対してのみ供給されるものです。

《著作権表示》

本書に関する著作権は、株式会社ニューコムへ独占的に帰属します。

株式会社ニューコムが事前に承諾している場合を除き、形態および手段を問わず、本書またはその一部を無断で複製・転載・ 改編することを禁止します。

《商標表示》

本書に記載されている「dbSheetClient実行版」、「dbSheetClient開発版」、「dbSheetClientサーバ版」は株式会社ニューコムの製品です。

本書に記載されているマイクロソフト製品(Windows、Office、Excel等)は、米国Microsoft Corporationの米国および その他の国における登録商標または商標です。

その他記載の各社の社名、製品名およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。





§ はじめに

本書は、「dbSheetClient 開発版」を使用して、Web アプリケーションの開発をするための手順や操作などを理解し、スムーズに開発を進められるようにするためのものです。

本書は、次の3つのスキルを習得している方を前提としています。

- Windows の基本的な操作を習得している方
- ▲ Microsoft Excel の基本的な操作を習得している方
- ♣ データベース(SQL文)を理解している方

本書は、「dbSheetOlient 開発版」を理解していただくために2部構成になっています。

第1部 <u>アプリケーション開発ガイド</u>

Web アプリケーションの開発手順を理解することを目的としています。

第2部 <u>dbSheetClient 開発版リファレンス</u>

「dbSheetClient 開発版」は、パラメータ入力方式でプログラミングします。 プログラミングする時に表示する画面の名称や入力する情報について説明しています。

本書以外に開発・運用に必要なマニュアルを用意していますので、本書と合わせて活用してください。

『タスクタイプリファレンスマニュアル』

『開発版テクニカルリファレンスマニュアル』

『サーバ版操作マニュアル』

『システム管理者用マニュアル』





§ 目次

§	はし	プめに	3
§	Ħ	次	4
第	1部	アプリケーション開発ガイド	11
	■開	発の流れと各章の概要	11
	■必	要なスキル	12
第	1章	サンプル Web アプリケーションの概要	13
1.1	١.	アプリケーションの概要	14
	1.1.	1. メニューとボタンの配置と表示するシートの関係	14
1.2	<u>)</u> .	データベースの概要	15
	1.2.	1. データベースとテーブルの定義情報	15
1.3	3.	Excel シートの概要	17
	1.3.	1. UI シート	17
		2. 制御シート	
	1.3.	3. パラメータシート	18
		4. パラメータシートの使用例	
第	2 章	dbSheetClient によるアプリケーション開発の準備作業	22
2.1	١.	データベースの設定	23
2.2	<u>)</u> .	リソース情報の登録	24
	2.2.	1. プロジェクト登録	24
	2.2.	2. グループ登録	24
	2.2.	3. ユーザ登録(開発ユーザ新規登録)	25
	2.2.	4. データベース登録	25
2.3	3.	リソース情報の割当て	26
	2.3.	1 _. グループ管理(ユーザ参加)	26
	2.3.	2. プロジェクト管理(グループ参加)	26
	2.3.	3. プロジェクト管理(エイリアス参加)	27





第3章	草 dbSheetClient による Web アフリケーションの開発開発	28
3.1.	dbSheetClient の特徴	29
3.	1.1. dbSheetClient の Web アプリケーション的特徴	29
3.	1.2. データベースのデータと Excel シートのデータの同期	30
3.	1.3. 変数領域や作業用テーブルは Excel シート	30
3.2.	定義シートの種類と役割	31
3.2	2.1. 14種類の定義シート	31
3.2	2.2. タスクの実行タイミング	32
3.2	2.3. 14 種類の定義シートと実行時の連携イメージ	33
3.3.	Web アプリケーションの開発	34
2 ′	3.1. 開発の初めに定義する定義シート	24
	3.2. サイクル開発しながら定義する定義シート	
	3.3. メニュー定義の設定	
	3.4. ボタン定義の設定	
	3.5. タスク定義の設定	
	3.6. クエリー定義の設定	
3.3	3.7. 展開定義の設定	41
3.6	3.8. ポータルシート(トップシート)表示のために設定	41
3.0	3.9. 編集用シート(得意先マスタ)を表示するための設定	42
第 4 章	章 テスト及びデバッグ作業	46
4.1.	Excel でのテスト及びデバッグ作業	47
4.2.	デバッグ実行によるテスト及びデバッグ作業	48
4.2	2.1. デバッグ実行の起動	48
4.2	2.2. タスク実行時のエラー画面	48
4.2	2.3. 実行版のログ出力について	50
4.3.	その他のデバッグ作業	51
第5章	章 アプリケーションの公開作業	53
5.1.	Excel シートの仕上げ作業	54
5.1	1.1. 仕上げ作業	54





5.2.	プロジェクトの定義情報の確認作業	55
5.3.	プロジェクト定義情報と Excel シートのアップロード作業	55
5.4.	本番での動作確認作業	55
5.5.	再公開のための作業	55
第2部	dbSheetClient 開発版リ ファレンス	56
■名	S章の概要	56
第1章	i dbSheetClient の開発手順	60
1.1.	プロジェクト開発の流れ	61
1.2.	開発の準備作業	62
第2章	: ログイン画面	64
2.1.	開発版ログイン画面	65
2.2.	ヘルプ画面	66
2.2.	.1. 製品情報	67
2.2.	.2. 障害対策	68
2.3.	環境設定画面	70
2.3.	.1. ユーザカスタマイズ設定	71
2.3.	.2. 端末情報の初期化と組織切替	74
2.3.	.3. マルチプロジェクト管理の設定	76
2.4.	オフラインで開発と実行	79
2.5.	オンライン接続時のセッション切断に関する注意点	81
第3章	・メイン操作画面とプロジェクト定義ファイル	82
3.1.	dbSheetClient メイン操作画面の説明	83
3.1.	.1. コマンドボタン	85
	.2. プロジェクト情報	
	.3. 実行用フォルダ	
	.4. 開発用フォルダ	
3.1.	.5. 開発用フォルダにプロジェクト定義ファイルをコピーする	88





3.2.	プロジェクト定義ファイル	89
第 4 章	章 定義編集画面の操作方法	90
4.1.	定義シートの種類	91
4.1	1.1. 14 種類の定義シート	91
4.2.	各定義と実行画面の制御関係	92
4.3.	定義編集画面の説明	93
4.3	3.1. 定義編集ボタンエリア	94
4.3	3.2. ツリー表示エリア	97
4.3	3.3. メニュー・ツリー表示	99
4.3	3.4. 定義編集シートエリア	100
4.3	3.5. 情報表示/SQL編集エリア	102
4.4.	定義編集のシート切り替え方法	103
4.4	4.1. ツリー表示エリアの定義情報をクリックする	103
4.4	4.2. ツリー表示エリアの定義情報を右ボタンでクリックする	104
4.4	4.3. アクティブ表示の定義編集ボタンをクリックする	105
4.5.	定義シート編集保護解除方法	106
4.6.	定義シートの操作ボタン説明	107
46	6.1. 終了ボタン	107
	6.2. 選択/参照ボタン	
	6.4. 全ボタン	
	6.5. Excel	
4.6	6.6. フォント	111
4.6	6.7. ヘルプメニュー	112
4.7.	各定義の編集方法	116
4.7	7.1. データベース定義	117
	7.2. DB運用定義	
	7.3. ブックファイル定義	
	7.4. ブック運用定義	
	7.5. メニュー定義	
4.7	7.6. ボタン定義	129





4.	7.7. タスク定義	132
4.	7.8. クエリー定義	140
4.	7.9. 展開定義	145
4.	7.10. 開始終了定義	151
4.	7.11. ボタンー覧定義	154
4.	7.12. タスクー覧定義	155
4.	7.13. 展開一覧定義	156
4.8.	IOTG(アイオーティージー)	157
4.8	8.1. IOTG の概要	157
4.8	8.2. IOTG の操作手順	158
4.8	8.3. IOTG の動作確認	163
第5章	章 DB 自動作成と MDB アップロードの操作方法	166
5.1.	DB 自動作成画面の説明	167
5.	1.1. DB 自動作成するための準備	167
5.	1.2. 【DB 自動作成】画面の説明	170
5.	1.3. DB 作成インデックスシートの説明	174
5.2.	MDB ファイルから DB サーバにデータをアップロードする手順	175
5.2	2.1. DB アップ(F3)の説明	176
第6章	章 デバッグのためのテスト環境	179
6.1.	デバッグ実行	180
6.	1.1. 通常実行	180
6.	1.2. ステップ実行	181
6.1	1.3. ステップ実行の操作	182
6.2.	SQLテスト実行	183
6.3.	リファレンス作成	184
第7章	章 プロジェクト定義情報と Excel ブックのアップロード	185
7.1.	プロジェクト定義情報をアップロードするための前提条件	186
7.2.	プロジェクト定義情報のアップロード	190
72	2.1. プロジェクト定義情報のアップロード画面の起動	190





7.	.2.2. プロジェクト定義情報のアップロード操作手順	192
7.	.2.3. プロジェクトアップロード内の保守機能について	193
7.3.	Excel ブックのアップロード	195
7:	.3.1. Excel ブックのアップロード画面の起動	195
	.3.2. Excel ブックのアップロード操作手順	
 0 =	去 → 6/2 内内学	100
弗 Ö J	章 データ保守定義	198
8.1.	データ保守定義のための準備	199
8.2.	データ保守定義の登録	200
8	.2.1. データ保守定義画面の起動	200
	.2.2. データ保守定義画面の説明	
8.	.2.3. データ保守画面サンプルの説明	203
8.	.2.4. データ保守定義の手順(新規登録)	205
8.3	.2.5. データ保守定義の手順(編集)	207
8.3.	データ保守定義を実行する手順	209
8.3	.3.1. タスク定義	209
8.	3.2. タスクを実行	210
第9章	章 メンテナンス機能	212
9.1.	パスワードの設定	213
9.	.1.1. パスワードの設定の概要	213
9.	.1.2. パスワードの設定の操作手順	213
9.2.	プロジェクトの初期化	215
9.	.2.1. プロジェクトの初期化の概要	215
9.	.2.2. プロジェクトの初期化の操作手順	215
9.3.	プロジェクトの強制入替	218
a.	.3.1. プロジェクトの強制入替の概要	212
	.3.2. プロジェクトの強制入替の操作手順	
9.4.	プロジェクトの複製	221
O	.4.1. プロジェクトの複製の概要	221
J.	.ㅜ. լ. ノロノエノー ツノ饺衣♥ノ゙ルル女	∠∠ I







(9.4.2. プロジェクトの複製の操作手順	221
9.5.	デモプロジェクトの取込	225
Q	9.5.1. デモプロジェクトの取込の概要	225
	9.5.2. デモプロジェクトの取込の操作手順	
9.6.	外部プロジェクトの取込	230
(9.6.1. 他社製品プロジェクトの取込の概要	230
ξ	9.6.2. 他社製品プロジェクトの取込の操作手順	230
9.7.	プロジェクトの比較レポート作成	236
Ç	9.7.1. プロジェクト定義情報の比較レポート作成の概要	236
Ş	9.7.2. プロジェクト定義情報の比較レポート作成の操作手順	236
(9.7.3. プロジェクト定義情報の比較レポートの読み方	240
ξ	9.7.4. プロジェクト定義情報の比較レポートを Excel ファイルとして保存する操作手順	241
(9.7.5. プロジェクト定義情報の比較レポートに「更新日付」を表示させる操作手順	242
9.8.	プロジェクトのマージ	243
Ç	9.8.1. プロジェクト定義情報のマージの概要	243
ξ	9.8.2. プロジェクト定義情報のマージの操作手順	244
9.9.	定義情報のマイグレーション	251
(9.9.1. プロジェクト定義情報のマイグレーションの概要	251
ξ	9.9.2. プロジェクト定義情報のマイグレーションの操作手順	251
§	付 録	256
^	가(CERT	057





第1部 アプリケーション開発ガイド

第1部は、プロジェクトの登録からアプリケーションの公開までの「Webアプリケーション開発の手順」を、サンプルWebアプリケーションの開発を例に説明します。「dbSheetClient開発版」によるWebアプリケーションの開発スタイルについて理解します。

■ 開発の流れと各章の概要

Web アプリケーションの開発は、システム管理者と開発者で作業分担して行うようになります。

【システム管理者の作業】

- ↓ リソース関係の登録と割り当て
- ♣ アプリケーション公開のための作業

【開発者の作業】

- ♣ 各種定義シートの入力や Excel シートの編集
- ◆ テスト及びデバッグ作業
- ♣ サーバにプロジェクト定義情報と Excel ファイルのアップロード

基本設計/概要設計

(アプリケーションの概要)

第 1 章は、サンプル Web アプリケーションの概要について説明します。

アプリケーション開発準備作業

(サーバ版での作業)

第2章は、サンプル Web アプリケーションで使用するリソース情報のサーバ登録について説明します。

アプリケーションの開発

(開発版、Excel での作業)

第3章は、Excel シートの作成、データベースの作成、dbSheetClient 開発版での各種定義シートの入力手順について説明します。

テスト及びデバッグ作業

(開発版での作業)

第4章は、開発した Excel やプロジェクト定義情報のテストやデバッグについて説明します。

アプリケーションの公開作業

(サーバ版、開発版、Excel での作業)

第5章は、実行版で実行できるようにするための作業について説明します。

緑枠:アプリケーション開発者の作業範囲

青枠:システム管理者/アプリケーション開発者の作業範囲

赤枠:アプリケーション開発者の作業範囲(dbSheetClient 開発版での作業)





■ 必要なスキル

- ① Windows の基本的な操作を習得していること
 - Excel や dbSheetClient を操作するための Windows の基本的な操作を習得していること
- ② Microsoft Excel 2000 以上の基本的な操作を習得していること
 - Excel の基本的な操作や数式を使用する表などの作成を習得していること
 - 書籍やインターネットから必要な情報を収集し、活用できること
- ③ データベース (SQL 文) を理解していること
 - ◆ 社内で取扱う情報をクライアントからの要望に応じて、検索や抽出などの加工ができること
 - 検索や抽出するのに必要な SQL 文を作成できること
 - 書籍やインターネットから必要な情報を収集し、活用できること





第1章 サンプル Web アプリケーションの概要

本章では、サンプル Web アプリケーションの概要について説明します。これは、以降の章で説明している内容を容易に理解していただくためのものです。

本章で説明する概要は、次の3つです。

- 1.1 アプリケーションの概要
- 1.2 データベースの概要
- 1.3 Excel シートの概要

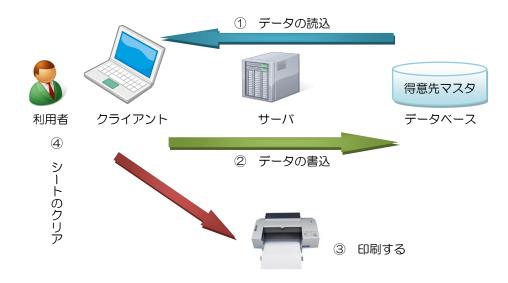




1.1. アプリケーションの概要

ここでは「得意先マスタを一覧表示して印刷する」という流れを説明しています。 本章で使用するアプリケーションの機能は下記のとおりです。

- ① 利用者がデータベースからデータを読込む・・・・・・・・ 読込 読込
- ② 利用者が編集したデータをデータベースに書込む・・・・・・ 書込
- ③ 利用者が Excel シートの内容を印刷(プレビュー表示)する・・・ 印刷
- ④ 利用者が読込みや編集した Excel シートをクリアする・・・・・ クリア



1.1.1. メニューとボタンの配置と表示するシートの関係

メニュー	ボタン	表示するシート名
トップ		トップ
得意先一覧	読込、書込、印刷、クリア	得意先一覧

メニューは、二段階層です。「トップ」は表示のみのシートです。実行する機能は「得意先一覧」のシート内で行います。

詳細は『第1部 1.3 Excel シートの概要』と『第1部 3.2 定義シートの種類と役割』を参照してください。



1.2. データベースの概要

サンプルのデータベースは「SQL Server 2005 Express」を使用します。ローカル環境にインストールしてある環境で使用する場合の定義です。なお、データベースのダウンロードおよびインストールは、「マイクロソフトダウンロードセンター」を参考に行ってください。また、他のデータベースの場合は、データベースのマニュアルを参照しながら、内容を置換えて、データベースとテーブルの作成が必要になります。

1.2.1. データベースとテーブルの定義情報

サンプルプロジェクトの「サンプル (入門編)」が環境設定済の場合は設定する必要がありません。また、サンプルプロジェクトを希望する場合は、弊社担当営業まで連絡をしてください。

ここでは、実際に使用する「得意先マスタテーブル」について説明します。

「得意先マスタ」は「得意先コード」毎に得意先を登録・管理するためのテーブルです。そのため、「得意先コード」は重複のない数値のみを入力することとします。よって「プライマリキー」は下記の通り「得意先コード」となります。

得意先の他の項目は、一般的な住所録の項目です。(ファックス番号まで)

「DBS_STATUS」から「DBS_UPDATE_DATE」までは、「DBS 同時実行制御フィールド」と言います。このフィールドは、「dbSheetClient」でレコード単位の排他制御が必要な場合は必須になります。

(排他制御の詳細は、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「第5章 同時実行制御機能とデータ更新処理について」』を参照してください。)

▼「得意先マスタテーブル」の項目構成表

項目名	型(書式)	NULL 許可
得意先コード	Int	No
得意先名	varchar(20)	No
得意先名略称	varchar(10)	Yes
郵便番号	varchar(8)	Yes
住所1	varchar(60)	Yes
住所2	varchar(60)	Yes
電話番号	varchar(16)	Yes
ファックス番号	varchar(16)	Yes
DBS_STATUS	varchar(2)	Yes
DBS_CREATE_USER	varchar(60)	Yes
DBS_CREATE_DATE	varchar(30)	Yes
DBS_UPDATE_USER	varchar(60)	Yes
DBS_UPDATE_DATE	varchar(30)	Yes





▼プライマリキー

項目名	重複許可	並び順
得意先コード	No	昇順





1.3. Excel シートの概要

▼dbSheetClientでは、Excel シートの構成を大きく3つに分類しています。

シートの分類	用途•目的
UIシート	ユーザインタフェース用のシート
	入力・照会・印刷などの入出力に該当する場合のシートです。
制御シート	ビジネスロジックなどを実現するために、制御用に用いるシート
	In シート、out シート、編集用シートなど、アプリケーション開発者が、
	内部的に追加するシートです。
パラメータシート	制御シートの一つ(必須シート、特別な意味を持っています)
	シート内で受け渡すパラメータ情報を定義・格納するためのシートです。
	クエリー定義の SQL 文で使用します。
	※パラメータエリアのレイアウト変更は禁止です。

1.3.1. リシート

▼ユーザインタフェース用のシートは、利用目的から次の2つのシートがあります。

シート(シート名)	内 容
ポータルシート	アプリケーションを起動した時に、最初に表示するシート
(トップ)	アプリケーションの入り口になるシートです。
編集シート	実務用のシート
(得意先一覧)	本章では、得意先の一覧表示や入力・印刷に使用します。



図 1.3-1 「ポータルシート」のサンプル

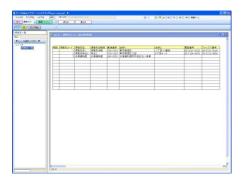


図 1.3-2 「編集シート」のサンプル





1.3.2. 制御シート

▼制御用に用いるシートには次の3つのシートがあります。

シート(シート名)	内 容
in シート	取得したデータの更新前の値を保存するシート
(TG <u>I</u> 得意先マスタ)	変更箇所の比較や更新用レコード生成に使用します。
out シート	更新用データを保存するシート
(TG_O_得意先マスタ)	編集シートと In シートから out シートを作成します。
ワーク用シート	本章では使用していませんが、アプリケーション開発者が必要により作成
	する編集作業用のシートです。



図 1.3-3 「in シート」のサンプル

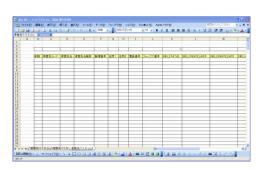


図 1.3-4 「out シート」のサンプル

1.3.3. パラメータシート

▼パラメータシートは、dbSheetClientで予約された(自動作成される)シートで、 プロジェクトに対して1つ作成されます。

シート(シート名)	内 容
パラメータシート	パラメータシートは Excel シート外の情報の受渡しとして使用します。
(dbS_パラメータ)	Excel 外の情報とは、システム共通の情報とユーザの情報があります。
	システム共通の情報は、システム共通パラメータのエリアを使用します。
	システム共通情報の種類
	● サーバ版が管理している情報
	● 実行版が管理している情報
	ユーザの情報は、ユーザエリアを使用します。
	ユーザの情報は、SQL 文に Excel シートの情報を渡す場合に使用します。
	使用方法の具体例は、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「第 5
	章 同時実行制御機能(排他制御)について」』を参照してください。
	シート名は「dbS_パラメータ」固定です。
	注意! パラメータエリア以外のセルは、今後、使用する可能性があり
	ますので、作業用に使用しないことをお勧めします。





▼パラメータシートの構成



図 1.3-5 「パラメータシート」のサンプル

▼列の構成

	Α	В	С	D	E	F	G
1	SNO	変数名	設定値	走 售	備考	行数	40

図 1.3-6 「パラメータシート」の列の名称と意味

A列 · · SNO:シーケンス番号です。1番から番号を昇順に振ります。

B列 ・・ 変数名:パラメータの変数名です。ハット記号("^")は、パラメータ区切文字です。パラメータはパラメータ区切文字で変数名を囲みます。

例)"^SYS_UserID^"、"^得意先コード^"

ただし、起動モード(規定外パラメータ区切)を "使用する" にした場合は、変数名に記入 した文字列を変数名として扱うようになります。この場合は、パフォーマンスが悪くなる可 能性があります。

C列 ・・ 設定値:パラメータの値が入ります。

例)"^SYS_UserID^ "の値:"demoO1"

D列··書式:コメント用です。

E列 ・・ 備考:パラメータの意味や使用目的を記述します。

例) "^SYS_UserID^{*} "の備考: "ログイン ID"

G 列 ・・ 行数: パラメータ行の行数 (標準: 40 行) として、1 行目のみ使用します。セルには、数式「=COUNT(A:A)」 が設定済です。 変更禁止





▼行の構成

シーケンス番号

1~20番:システム共通パラメータです。実行時にセットされます。 21番以降:ユーザパラメータです。開発者が使用可能なエリアです。

SNO	変数名	意味
1	^SYS_UserID^	ログインID
		例)manual1
2	^SYS_PcName^	使用PC名
		例)LEFS_8FKSA59363
3	^SYS_LoginDateTime^	ログイン時刻
		例)2010/5/20 10:11:10
4	^SYS_ProjStartDateTime^	プロジェクト開始時刻
		例)2010/5/20 10:11:10
5	^SYS_ProjName^	プロジェクト名
		例)サンプルWebアプリケーション
6	^SYS_ProjDefVersion^	プロジェクト定義仕様バージョン
		例)00300
7	^SYS_Path^	システムフォルダ名
		例)C:\footnote{Client\footnote{Develop\footnote{Trun\footnote{SAPPL}}}
8	^SYS_LastLogin^	前回ログイン時刻
		2010/5/10 10:00:00
9	^SYS_UserAuth^	ユーザ権限レベル(複数の場合、カンマ区切り)
		例)10,1002
10	^SYS_UserCorp^	会社ID(組織ID)(ニューコムより提供)
		例)130
11	^SYS_DataVer^	定義データVer(サーバにアップロードした回数)
		例)1
12	^SYS_DBSVer^	dbSheetClientバージョン
		例)5.0.0.0
13	^SYS_ExcelVer^	Excelバージョン
		例)2003
14	^SYS_PhysicalMemory^	物理メモリ量(KB)
		例)2087212
15	^SYS_AvailableMemory^	使用可能メモリ量(KB)
	2-11-	例)1146236
16	^SYS_Session^	セッション接続状態
		接続中

【次ページに続く】





【前ページより続く】

SNO	変数名	意味
17	^SYS_DefaultPrinter^	起動時の通常使うプリンタ名(書式欄:ポートNo)
		例)DocuPrint C3360
		書式欄:LPT1:
18	^SYS_Schema^	スキーマ名(データベース:DB2の場合のみ)
19	^SYS_TimeLag^	タイムラグ(サーバ時刻-PC時刻の差分) 例) 0,0000895138888888889 書式欄: dbsサーバ側の時刻、2010/5/20 10:11:36 備考欄: クライアント側の時刻、2010/5/20 10:11:28
20		

SNO	変数名	意味
21		以降はユーザエリア:アプリケーション開発者が使用
:		デフォルトは4O番まで使用可能
40		

■ユーザパラメータエリアの追加方法(40 行以降にパラメータを追加する場合)

- ① 表の行をコピーします。
- ② 「SNO欄」が続き番号になるように番号を入力します。

▼注意

行を多くすると SQL 展開時のパフォーマンスに影響が出る場合があります。

1.3.4. パラメータシートの使用例

▼dbS_パラメータシート例



実行時は、「SELECT 社員名 FROM 社員マスタ Where 社員コード = 7」に変換され、実行します。





第2章 dbSheetClient によるアプリケーション開発の準備作業

本章では、dbSheetClient 開発版を使用して実際に、アプリケーション開発を開始する前に行わなければならない準備作業について説明します。これらの作業は、システム管理者、またはそれに準ずる人が行います。

準備作業は、大きく分けて3種類あります。

- 2.1 データベースの設定(データベースサーバでの作業)
- 2.2 リソース情報の登録 (dbSheetClient での作業)
- 2.3 リソース情報の割当て(dbSheetClientでの作業)





2.1. データベースの設定

本節では、dbSheetClientからデータベースにアクセスできるようにするための作業を行います。 (サンプルプロジェクトの「サンプル(入門編)」が環境設定済の場合は設定する必要がありません。 また、サンプルプロジェクトを希望する場合は、弊社担当営業まで連絡をしてください。)

データベースサーバに、物理的なデータベース領域の生成と、アクセスするためのユーザの登録を、まず行っておく必要があります。

ここでは「SQL Server 2005」を例に、登録する内容を説明します。

サンプルデータベースは、ローカル環境に作成することとします。そのため、データベースをインストールしておく必要があります。サンプルデータベースのインストールについては、『第1部 1.2 データベースの概要』を参照してください。

作成データベース名:「SampleDB」

作成方法は、「SQL Server Management Studio」または、「SQL Server Management Express」のヘルプを参照してください。

本章で使用する「得意先マスタテーブル」については、『第1部 1.2 データベースの概要』を参照して登録してください。



2.2. リソース情報の登録

dbSheetClient 開発版でアプリケーション開発ができるようにするためには、あらかじめ、dbSheetClient サーバ版にアクセスし、リソースの登録作業を事前に行います。

リソースの種類	内 容
プロジェクト	アプリケーション開発の単位です。
	プロジェクト毎に以下3つを管理します。
グループ	ユーザをグループに参加させます。
	グループ毎にプロジェクト実行時の権限を付与することで管理しやすく
	なります。
	グループに開発権限のあるユーザを参加させることにより、アプリケーシ
	ョンの開発が可能になります。
ユーザ	dbSheetClient の開発者、実行ユーザを登録します。
データベース	データベースの接続情報に対し、別名を付与します。開発版の DB 定義は、
	サーバのエイリアス名を指定することで、データベースの接続情報を取得
	できます。

リソースの登録作業は、サーバ版インストール時に作成される「Supervisor 権限」のユーザ、または「システム管理者権限」のユーザで登録作業を行います。作業手順の詳細は、『サーバ版操作マニュアル』及び『システム管理者用マニュアル』を参照してください。

2.2.1. プロジェクト登録

項目名	設定値
プロジェクト識別記号	Appl
プロジェクト名	サンプル Web アプリケーション
プロジェクト定義仕様 VER	300 (デフォルト)を選択
定義情報保存	許可(デフォルト)を選択

その他の項目は、自動設定または、任意に入力可能です。

2.2.2. グループ登録

項目名	設定値
グループ名	開発体験

その他の項目は、自動設定または、任意に入力可能です。





2.2.3. ユーザ登録(開発ユーザ新規登録)

項目名	設定値
ユーザロ	Sample01
パスワード	\$\$\$sample
開発版権限	権限 10 を選択
氏名(漢字)	サンプル開発体験
権限	
状態	

その他の項目は、自動設定または、任意に入力可能な項目です。

2.2.4. データベース登録

項目名	設定値
エイリアス名	サンプル DB
サーバ種類	MSSQL
サーババージョン	2005
認証区分	Windows 認証/SQL 認証
サーバ名	データベースのあるホスト名/DNS ホスト名/IP アドレス
	ローカルの SQL Server Express を指定する場合は、
	「^SYS_PcName^¥SQLEXPRESS」と入力します。
スキーマ	dbo(標準)
ポート番号	1433(標準)
データベース名	データベース名
ID	SQL 認証の場合のユーザ ID
Password	SQL 認証の場合のパスワード

その他の項目は、自動設定または、任意に入力可能な項目です。



2.3. リソース情報の割当て

ユーザがプロジェクトの開発や実行を可能にするためには、プロジェクトにリソース情報を割当てます。

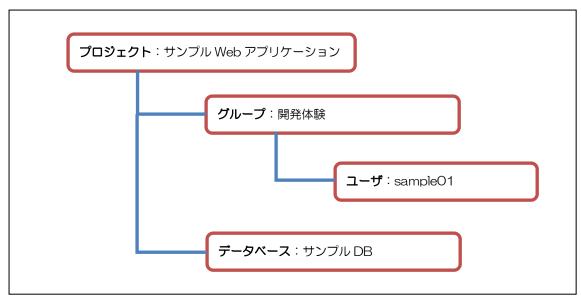


図 2.3-1. リソース情報の関連図

リソースの割当て作業は、サーバ版インストール時に作成される「Supervisor 権限」のユーザ、または「システム管理者権限」のユーザが行います。作業手順の詳細は、『サーバ版操作マニュアル』及び『システム管理者用マニュアル』を参照してください。

2.3.1. グループ管理(ユーザ参加)

項目名	割当て
選択グループ名	開発体験
選択ユーザ名	Sample01

2.3.2. プロジェクト管理(グループ参加)

項目名	割当て			
選択プロジェクト名	サンプル Web アプリケーション			
選択グループ名	開発体験			





2.3.3. プロジェクト管理(エイリアス参加)

項目名	割当て			
選択プロジェクト名	サンプル Web アプリケーション			
選択エイリアス名	サンプル DB			

プロジェクトにエイリアス(データベース)を関連付けすることにより、開発版で、データベース情報を取得できるようになります。(DB 定義シートへ入力する時等)

リソース情報の登録と割当てが完了した後、dbSheetClient 実行版または開発版を起動し、登録ユーザ (sampleO1) でログインすると、下図のように、割当てたプロジェクトの一覧が表示されます。

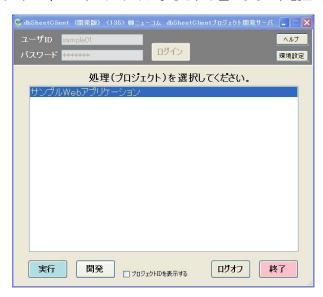


図 2.3-2. リソースの登録及び、割当て後に開発版を実行した画面





第3章 dbSheetClient による Web アプリケーションの開発

本章では、dbSheetClient 開発版を使用して、実際に Web アプリケーション開発をする手順を説明します。

dbSheetClient の特徴と構造を理解し、また開発手順についてまとめています。

- 3.1 dbSheetClient の特徴
- 3.2 定義シートの種類と役割
- 3.3 Web アプリケーションの開発

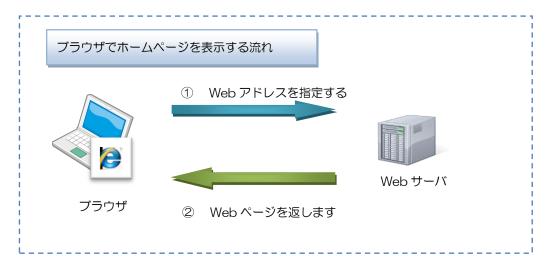




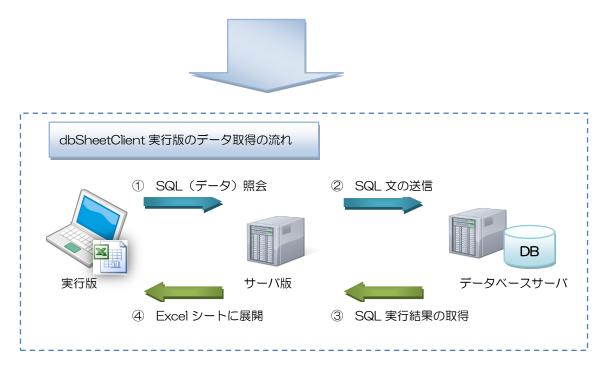
3.1. dbSheetClient の特徴

dbSheetClient の特徴は、Excel をユーザインタフェースに使用した Web アプリケーションを開発し、 実行するためのツールです。本節では、この特徴を活かした開発の進め方を提示します。

3.1.1. dbSheetClient の Web アプリケーション的特徴



上記はブラウザが一般的なホームページを開くまでの流れです。その期間がセッションやトランザクションの範囲になります。つまり通信の一往復がその期間に該当します。



上記は、実行版がデータを要求してから、取得データを Excel に展開するまでの流れです。その期間が セッションやトランザクションの範囲になります。また、通信プロトコルは、HTTP または、HTTPS を使用していますので、Excel を使った Web アプリケーションであることを示しています。



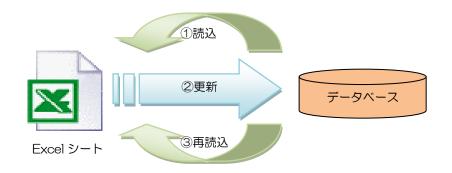


3.1.2. データベースのデータと Excel シートのデータの同期

Excel シートのデータは、列や行の入替え、挿入、削除などの編集が自由に行えます。

しかし、データベースは、表の定義が固定されているために、Excel シートのような操作を行うことはできません。このため、データベースのデータと同期が必要な Excel シートは、列の編集はしないようにしなければなりません。

また、データの追加、更新、削除する場合は、データベース側のデータを更新することでデータベースの同期が行われ、再度データを取得することで、クライアントのデータをリフレッシュします。



データベースのデータと同期する必要がある場合は、変更操作の内容を更新しなければなりません。 また更新後のデータの表示や編集を行う場合は、再読込を行う必要があります。

3.1.3. **変数領域や作業用テーブルは** Excel シート

一般的にアプリケーション開発では、一時的に使用する変数や作業用のテーブルを定義して使用します。 dbSheetClientでは、それらの情報を Excel シートに定義して使用します。また、それらの情報はエンドユーザに見えないように、行列を非表示にするか、もしくは表示しないシートに作成します。 なお、「パラメータシート」も同様の役割を担うシートです。

また、実行版の動作と連動するための仕組み(数式、グラフ、ピボットテーブルなど)を Excel シート内に定義しておきます。 それにより Excel を使用した Web アプリケーションの開発が可能になります。



3.2. 定義シートの種類と役割

dbSheetClient は、プロジェクト毎に定義情報を管理しています。その定義情報を**プロジェクト定義** 情報と言います。

プロジェクト定義情報をサーバでは、**データベース内に管理**し、アップロードした Excel シートは**テンプレートファイル**として管理しています。

クライアントでは、プロジェクト定義情報をファイルとして保存しています。そのファイルのことを**プロジェクト定義ファイル**と言います。

プロジェクト定義ファイルには、14 種類の定義シートが含まれています。アプリケーションの開発者は、データベースの制御や Excel の制御など、定義シート毎の役割に応じた定義内容を入力していきます。この様に dbSheetClient の Web アプリケーション開発は、パラメータ入力方式で行います。

3.2.1. 14種類の定義シート

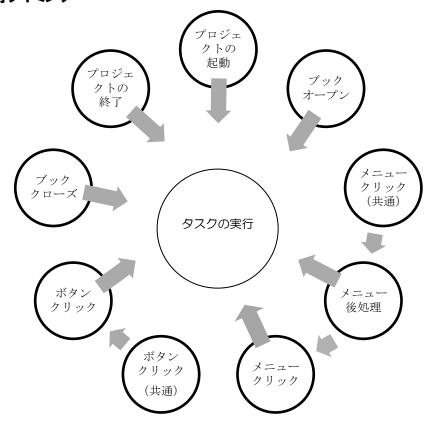
▼14 種類の定義シートと役割を、下記表にまとめてあります。

No.	定義シート名	役割					
1	データベース定義シート	プロジェクト内で使用するデータベースの接続情報を定義します。					
2	DB 運用定義シート	開発版と実行版で使用するデータベースを別々に定義しておくことが					
		可能です。					
3	ブックファイル定義シート	プロジェクト内で使用する Excel ブックファイルを定義します。					
4	ブック運用定義シート	開発版と実行版で使用する Excel ブックファイルを別々に定義して					
		くことが可能です。					
5	メニュー定義シート	メニューエリアに表示するメニューを定義します。					
6	ボタン定義シート	メニュー毎に実行するタスクを起動するためのボタンを定義します。					
7	タスク定義シート	実現するタスク(機能処理)を定義します。定義するタスクは、タス					
		クタイプにより決定します。					
8	クエリー定義シート	アクセスするデータベースを指定し、SQL 文等を定義します。					
9	展開定義シート	タスク定義やクエリー定義を実行するために必要な、Excel シートの					
		セル位置や範囲及び値等を定義します。					
10	開始終了定義シート	開始/終了時(プロジェクトのオープン/クローズ、ブックのオープ					
		ン/クローズ、メニュークリック時、ボタンクリック時)に起動する					
		タスクを定義します。					
11	データ保守定義シート	ASP.NET 形式の画面でデータベース用のメンテナンス画面を定義し					
		ます。					
12	ボタン一覧定義シート	メニュー毎に定義するボタンを複数個まとめるためのグループ名(ボ					
		タンセット名)を定義します。					
13	タスク一覧定義シート	1つのタスク定義で、複数行の定義ができますが、それらをまとめる					
		ためのグループ名(タスク名)を定義します。					
14	展開一覧定義シート	1 つの展開定義で、複数行の定義ができますが、それらをまとめるた					
		めのグループ名(データ展開名)を定義します。					





3.2.2. タスクの実行タイミング



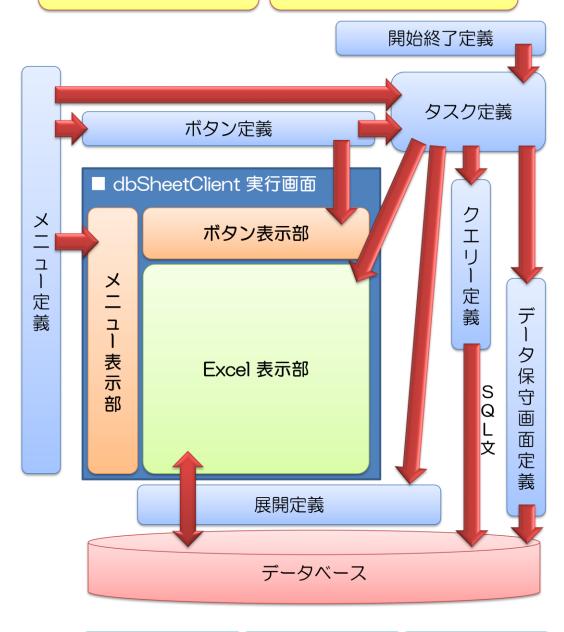
タスクの起動は、プロジェクトの起動から終了までの間、上記のタイミングで、タスクを実行できます。 「メニュー」と「ボタン」は、共通処理タスク(メニュー/ボタン クリック共通)を実行させてから、 個別処理タスク(メニュー/ボタン クリック)を実行させます。





3.2.3. 14 種類の定義シートと実行時の連携イメージ

データベース定義 ※1 DB運用定義 ※1 ブックファイル定義 ※1 ブック運用定義 ※1



ボタン一覧 ※2 タスク一覧 ※2 展開一覧 ※2





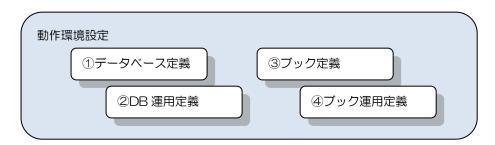
3.3. Web アプリケーションの開発

アプリケーションの開発は、Excel シートがない場合と、既存の Excel シートを利用する場合がありますが、ここでは Excel シートがない状態からアプリケーションを開発していく流れを説明します。

事前に『第1部 第2章 dbSheetClientによるアプリケーション開発の準備作業』の作業(データベースやサーバへのプロジェクト関連の登録)を行ってください。

3.3.1. 開発の初めに定義する定義シート

実行版や開発版の動作に関する定義シートは、開発の初めに入力します。また、この時までに 使用する Excel ファイルを準備します。



	A	В	С	D				
1	タイトル	サブ	*	内容				
2	DBMS		*	SQLSV				
3	エイリアス名		*	サンプルDB				
4	場所		*	Local				
5	サーバ名		*	^SYS_PcName^¥SQLEXPRESS				
6	認証区分			Windows認証				
7	データベース名		*	SampleDB				
8	DBMSバージョン			SQLSV2005				
9	接続文字			Data Source=^SYS_PcName^¥SQLEXPRES				
10	スキーマ			dbo				
11	ポート番号			1433				
12	ユーザID							
13	パスワード							
14	コメント欄							

- ①データベース定義の入力例
- ②DB 運用定義は、データベース定義の保存時に作成します。

	ブック定義編集の画面							
	Α	В	С	D				
1	タイトル	サブ	*	内容				
2	ブック名		*	開発ガイドxls				
3	ブック保護有無							
4	ブック読込解除PW							
5	ブック書込解除PW							
6	ホスト指定							
7	リンク先			C:\foundation \foatie \text{Client} \foatie \text{Sample}				
8	コメント欄							

- ③ブック定義の入力例、保存時に、パラメータシートを追加します。
- ④ブック運用定義は、ブック定義の保存時に作成します。





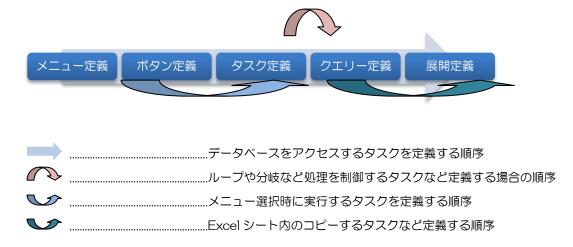
3.3.2. サイクル開発しながら定義する定義シート



【実装】

サイクルとは、設計、実装、デバッグ等の開発作業の流れです。また、開発には、Excel シート内の実装と定義シートの入力及び SQL 分の作成が含まれます。

基本的な定義入力の順序



【タスク定義を先に入力する場合】



プロジェクト開始時や Excel ファイルオープン/クローズ時などに実行させるタスクを指定する定義シートが、開始終了定義です。特殊な定義のため、タスク定義を先に行う必要があります。

【特殊な定義の仕方】

データ保守定義シートは、データベースメンテナンス用 Web アプリケーションを作成するためのものです。

ASP 方式のため、サーバに接続して開発・実行する必要があります。このためオフラインによる開発・実行はできません。



データ保守定義は、データ保守専用の画面で開発をします。開発終了後に、タスク定義をする順序になります。

データ保守定義の詳細については、『第2部 第8章 データ保守定義』を参照してください。





3.3.3. メニュー定義の設定

メニュー毎に表示するシートを指定します。また、「ノードを開く」の指定を切り換えることで、初期 表示するメニューのツリー表現を変えることが可能です。

メニューによって開くブックを変えたい場合は、メニュー定義の「TASKNO」に指定するタスクを、「ブック制御(参照用ブックオープン)」を指定し、必ず「後処理 TASKNO」に指定するタスクを、「ブック制御(参照用ブッククローズ)」を指定します。これで、現在開いているブック上のデータを利用した処理が可能になります。







- ☆ 実行すると、図のようなツリー形式で メニューを表示します。
- ☆ 下の図は、権限のないノードを含むメ ニューを表示した場合の例です。



メニューの使用を権限で制御する場合は、「権限レベル」に使用を許可する権限のグループを入力(複数可能)します。実行時、権限のないメニューはグレイアウトされますが、権限のあるメニューのみを表示することには対応していません。





3.3.4. ボタン定義の設定

メニューより表示する Excel シートに対して、処理させるタスクを起動するためのボタンを定義します。 定義可能なボタンの数は、メインボタン 20 個、サブボタン 20 個です。また、サブボタンは 20 個を 1 セットとして切り替えることが可能です。そのため、サブボタンのセット切り替えることで、より多くのボタンを定義することが可能です。



- ☆ 実行すると、図のようなボタンを表示 します。
- ☆ 下の図は、権限のないボタンを表示した場合の例です。



ボタンの使用を権限で制御する場合は、「権限レベル」に使用を許可する権限のグループを入力(複数可能)します。実行時、権限のないボタンはグレイアウトされますが、可視/不可視の切り替えには対応していません。





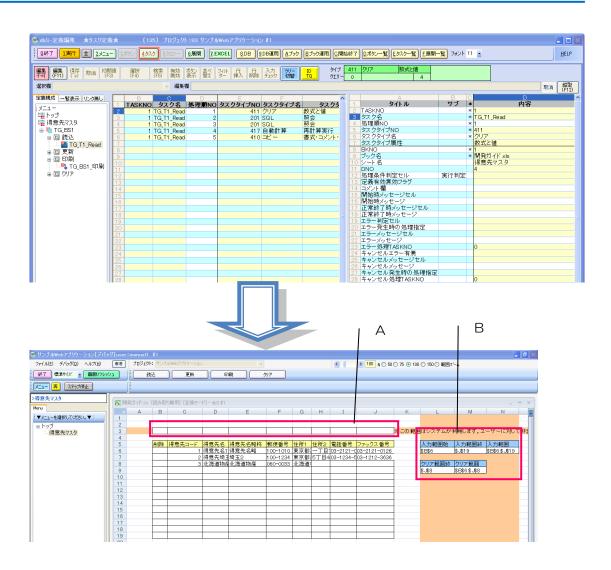
3.3.5. タスク定義の設定

タスクは、用意された約 60 種類のタスクタイプを組み合わせることで、簡単な処理から複雑な処理までを実現することが可能です。

▼タスクタイプの機能別分類表

	DBアクセス		ファイル操作		その他の機能
201	SQL	322	ファイルアップロード	301	起動モード
203	データ照会画面	323	ファイルダウンロード	321	ログ情報書込
204	検索付データ照会画面	324	ファイル属性取得	325	メール送信
205	検索付データ照会画面Ⅱ	340	ファイル選択ダイアログ	330	画像 PDF 表示
223	トランザクション	341	サーバフォルダ削除	501	外部アプリ起動
224	SQL 一括照会	342	ファイル操作	502	クリップボード操作
230	集計表自動作成			503	マクロ起動
				504	外部 DLL 呼び出し
				601	データ保守実行
	処理順制御		Exce	制御	
302	メニュー制御	202	入力画面	415	行表示
303	終了処理	319	スクリーン制御	416	列表示
304	ハイパー実行制御	401	直接展開	417	自動計算
310	メインボタン表示	402	ピボットテーブル	418	並べ替え
311	サブボタン表示	403	シート切替	419	ジャンプ
315	ループ処理	404	保存	420	セル位置取得
317	条件判定分岐	405	一括入出力	421	範囲取得
318	メッセージ表示	406	印刷	422	図の挿入
320	サブタスク実行	407	ブック制御	423	図のクリア
		409	シートコピー	424	行列挿入
		410	コピー	425	チェックボックス設定
		411	クリア	426	ハイパータスク設定
		412	セル保護	427	イメージ保存
		413	シート保護	429	イメージクリア
		414	行列指定	430	EXCEL コマンド
	イベント処理				
701	タイマー処理				





A......表の書式などをコピーする元情報のセル(制御用セル) B...............コピーやクリアするためのエリア情報などを保存するセル(制御用セル)

を Excel 内で取得し、その情報を dbSheetClient 側が活用して実行や制御をおこなうためです。

上記の図は、[読込] ボタンで、得意先マスタのデータをシートに展開するためのタスクの定義です。 この例は、データを取得し Excel シート上に展開する処理と連動して、表を自動生成するための定義です。そのために、Excel シート内に A と B の制御用のセルを定義しています。これは、Excel 内の変化

タスク定義は、Excel 内の処理定義も編集できます。

なお通常、制御用のセルのある行や列は、運用する時は非表示にして、ユーザに見せないようにします。 それにより不正操作の防止になります。





3.3.6. クエリー定義の設定

クエリー定義では、データベースにアクセスするための SQL 文を入力します。また、更新や削除を実行する場合はトランザクションや排他制御などの指定を入力します。

1 つのタスク定義には、1 つのクエリー定義を行います。また同じクエリー定義を複数のタスク定義で共用できます。



左側が照会用クエリー定義、右側が更新用のクエリー定義です。

更新するテーブルが複数ある場合は、タスクタイプ「223. トランザクション (開始)」から「223. トランザクション (コミット)」の間に、更新用のタスク定義およびクエリー定義のみを作成します。

トランザクション中にデータ更新が行えない等のエラーが発生した場合は、すべての処理内容はロール バックされ、更新前に自動的に戻ります。詳細は、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「第5章 同時実行制御機能(排他制御)について」』を参照してください。





3.3.7. 展開定義の設定

Excel シートのセル位置情報などを定義します。1 つのタスク定義に対し、複数の展開定義の作成が可能な場合があります。詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「第6章 展開定義」』を参照してください。

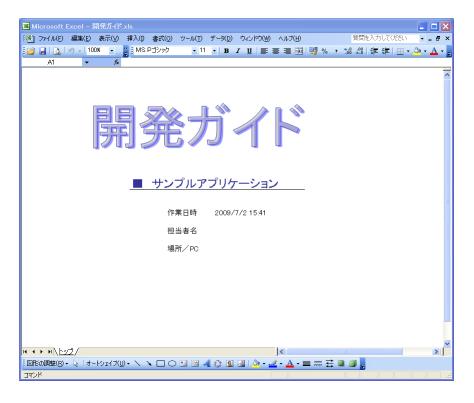


左側はタスクタイプ「201. SQL(照会)」の展開定義です。

右側は、タスクタイプ「410. コピー」の展開定義です。

3.3.8. ポータルシート(トップシート)表示のために設定

プロジェクトを起動して最初に表示される Excel シートのことです。アプリケーションの入り口に表示するシートで、メニューの最上位に指定するシートのことをいいます。







3.3.9. 編集用シート(得意先マスタ)を表示するための設定

IOTG(アイオーティージー)機能は、データベースのテーブルの「読込」と「書込」の処理に必要な 定義設定と Excel シートの設定を自動生成します。

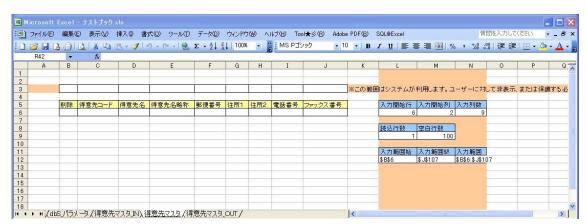
OTG機能の詳細については、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「第8章 IOTG (アイオーティージー) の仕組みと作成手順について」』を参照してください。

ここでは、自動生成する Excel シートや定義シートについての目的や、設定内容の概要についてまとめています。

▼自動生成する Excel シートと目的

シートの分類	作成シート名/目的	
UIシート	得意先マスタ(編集シート)	
	得意先マスタのデータ読込み、またそのデータのシート内での変更や削	
	除指定を行います。そのために必要な、名前定義などを自動生成します。	
制御シート	TG_L得意先マスタ(In シート)	
	更新する時に必要な更新前のデータを保存しています。	
	TG_O_得意先マスタ(out シート)	
	更新に必要なテーブルイメージの表を作成します。「編集シート」と「in	
	シート」から更新処理に必要な数式や名前定義を自動生成します。	

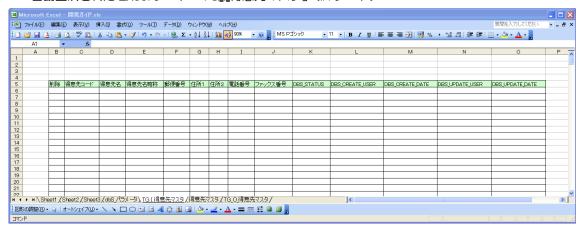
▼自動生成された Excel シート「得意先マスタ」(編集シート)







▼自動生成された Excel シート「TG_L 得意先マスタ」(In シート)



▼自動生成された Excel シート「TG_O_得意先マスタ」(out シート)



自動生成される定義シート

▼メニュー定義

メニュー名称	内 容	
得意先マスタ	「シート:得意先マスタ」を表示し、ボタンの[読込]・[書込]を	
	実行するためのメニューを自動生成します。	

▼ボタン定義

ボタン名称	内 容
読込	得意先マスタを読込むタスクを起動するボタン定義を自動生成します。
書込	得意先マスタを書込むタスクを起動するボタン定義を自動生成します。





▼ [読込] ボタンのためのタスク定義

タスクタイプ	内 容
クリア	編集シートのクリア(値と数式)をします、クリア範囲は、展開定義で
	指定しています。
SQL	in シートにデータを展開するための SQL 文を発行し、取得データを展開
	します。SQL 文はクエリー定義にて定義し、データの展開先は、展開定
	義にて指定しています。
SQL	編集シートにデータを展開するための SQL 文を発行し、取得データを展
	開します。SQL 文はクエリー定義にて定義し、データの展開先は、展開
	定義にて指定しています。
自動計算	次のコピーは、前の SQL の結果に応じて処理を行うため、通常停止して
	いるシート内の数式を再計算させます。
コピー	編集シートの読込みしたデータと指定した空白行分について、同じ書式に
	なるようにコピー(書式·コメント·入力規則·列幅)します。
	コピー元とコピー先などについては、展開定義にて指定しています。

▼ [書込] ボタンのためのタスク定義

タスクタイプ	内 容
メッセージ表示	"更新件数=O"の場合は、「更新できる行が存在していません。」を
	表示します。
コピー	「データベースへの更新を行います。」を表示し、[Yes] ボタンを選択
	した時に、本タスク以降を実行します。
	out シート内に、更新件数分のテーブルイメージの表にするために、数式
	のコピーを行うためのコピー元とコピー先などについては、展開定義にて
	指定しています。
自動計算	次のSQLは、前のコピーの結果に応じて処理を行うため、通常停止して
	いるシート内の数式を再計算させます。
SQL	データベースへの追加、更新、削除を行うため、SQL 文を実行します。
	これにより out シートのデータをサーバに送信します。SQL 文はクエリ
	ー定義にて定義し、データの展開先は、展開定義にて指定しています。
サプタスク実行	再度データを取得するために [読込] ボタンで起動したタスクをコール
	します。

▼ [読込] ボタンのためのクエリー定義

クエリータイプ	内 容
照会	in シート「TG_L得意先マスタ」は、全項目を読込む SQL 文が定義されます。
照会	編集シート「得意先マスタ」は、編集画面に必要な項目のみを読込む SQL 文が定義されます。





▼ [書込] ボタンのためのクエリー定義

クエリータイプ	内 容
更新	out シート「TG_O_得意先マスタ」の内容を更新するための SQL 文が定
	義されます。

▼ [読込] ボタンのための展開定義(タスク定義の順)

定義区分	内 容
タスク定義(クリア)	「数式と値」をクリアする展開範囲として、編集シート「得意先マスタ」
	内の表範囲が定義されます。
クエリー定義(照会)	読込みデータの展開範囲として、in シート「TG <u>J</u> 得意先マスタ」内の表
	範囲が定義されます。
クエリー定義(照会)	読込みデータの展開範囲として、編集シート「得意先マスタ」内の表範囲
	が定義されます。
タスク定義(コピー)	コピー範囲として、編集シート「得意先マスタ」内に展開したデータ行数
	分(余白行を含む)に合う表にするための展開定義が定義されます。

▼ [書込] ボタンのための展開定義(タスク定義の順)

定義区分	内 容
タスク定義(コピー)	コピー範囲として、out シート「TG_O_得意先マスタ」の数式定義などが、
	更新データ件数分の表にするための展開定義が定義されます。
クエリー定義(更新)	書込みデータ範囲として、out シート「TG_O_得意先マスタ」内の表範囲
	が定義されます。





第4章 テスト及びデバッグ作業

Web アプリケーションの開発は、開発とテスト及びデバッグ作業を短いサイクルで行います。また、Web アプリケーションの開発が、Excel の定義とプロジェクト定義情報の設定により行われます。そのため、テスト及びデバッグ作業は、Excel の定義情報とプロジェクト定義情報の両方で行う必要があります。本章では、その方法についてまとめています。

テスト及びデバッグ作業は、大きく分けて3種類あります。

- 4.1 Excel でのテスト及びデバッグ作業
- 4.2 デバッグ実行によるテスト及びデバッグ作業
- 4.3 その他のデバッグ作業





4.1. Excel でのテスト及びデバッグ作業

Excel でのテスト及びデバッグは、Excel シート内に定義した内容が正しく動作することを確認するために行います。以下のテストは、Excel 単体で行います。

Excel 側で行う主なテスト

- ① セルの数式(計算式)のテスト
- ② 条件付き書式のテスト
- ③ 入力規則のテスト
- ④ 名前定義のテスト
- ⑤ グラフのテスト
- ⑥ ピボットテーブルのテスト

上記の各テストは、テストデータを作成して、数式や動作の検証を行います。





4.2. デバッグ実行によるテスト及びデバッグ作業

「デバッグ実行」は、作成した Excel シートの定義とプロジェクト定義情報を連携し、 テスト及びデバッグをするための標準提供ツールです。

デバッグ実行は、実行版の機能にテスト及びデバッグのための機能を付加しています。 なお、テスト操作手順は、『第2部 第6章 デバッグのためのテスト環境』を参照してください。

4.2.1. デバッグ実行の起動

■開発版メイン画面からの起動:

編集画面を開かないでデバッグ実行が行えます。開発の担当とテストの担当というような 作業分担による開発をすることが可能です。

■定義編集画面からの起動:

定義の編集入力をしながらデバッグ実行が行えます。定義シートを作成して、すぐにテストを することが可能です。

4.2.2. タスク実行時のエラー画面



▲サンプルは、エラーが発生した場所と実行時の SQL 文が表示されます。

左側と同じエラー情報をエラーログ(テキストファイル)として日付毎に出力します。

(ファイル名:「dbS_ (yyyy-mm-dd) ErrLog9999.log (yyyy-mm-dd は英語表記の日付)」)

エラーロクボタンで、**当日のエラーログをメモ帳で開く**ことができます。



▲エラーログの内容

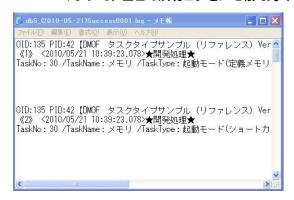




右側の正常終了タスク情報も、成功ログ(テキストファイル)として日付毎に出力します。

(ファイル名:「dbS_ (yyyy-mm-dd) Success9999.log (yyyy-mm-dd は英語表記の日付)」)

成功ログボタンで、**当日の成功ログをメモ帳で開く**ことができます。



▲成功のグ内容

また、処理時間情報を処理時間ログ(テキストファイル)として日付毎に出力します。

(ファイル名:「dbS_ (yyyy-mm-dd) ProcTime9999.log (yyyy-mm-dd は英語表記の日付)」)

<u> 処理時間ログ</u>ボタンで、**当日の処理時間ログをメモ帳で開く**ことができます。

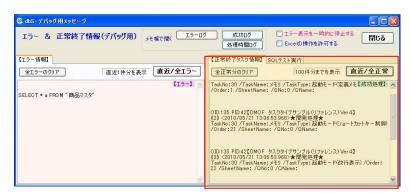


▲処理時間ログの内容

処理時間ログは、各タスクが実行する時にかかった時間を確認するためのログです。時間の差から実行 時間を求め、パフォーマンスチェックに活用します。

パフォーマンスチェックの方法については、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「6.1.2. 実行時のレスポンス改善の各種対策方法について」』を参照してください。

SQL 文のエラーの場合、SQL 文のみをテスト実行することができます。



▲デバッグ用メッセージの右側タブを「SQL テスト実行」に切り替えてテストします。





□ エラー表示を一時的に停止する

エラーがあった場合、これ以降タスク実行途中でエラーが発生してもこの画面表示しないで、最後に一括して表示したい場合に、このチェックを有効にします。

■ Excelの操作を許可する

デバッグ実行中は、Excel の操作を禁止しています。デバッグ用エラーメッセージの画面を表示しているときに、Excel シートを操作する場合は、このチェックを有効にします。

チェックを有効にすると、Excel の操作が可能になります。

※ ログ出力ファイルは、自動的に削除しませんので、常に出力する場合は、定期的に削除するように してください。

4.2.3. 実行版のログ出力について

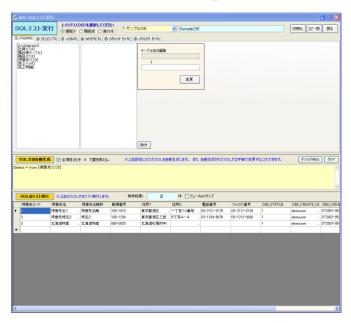
■開発設定の「実行モードで操作ログを出力する」にチェックをしている場合と、 タスクタイプ起動モード(ログ保存)が定義してある場合、全てのログ(処理時間ログ、成功ログ、 エラーログ)を出力します。





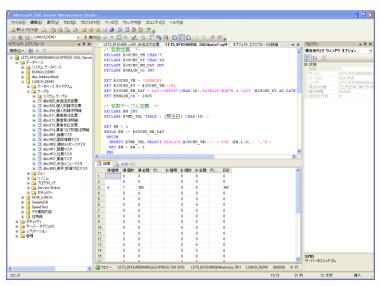
4.3. その他のデバッグ作業

▼SQL 文の作成やデバッグは、クエリー定義より呼び出す 「SQL テスト実行(クエリー実行)」で行うことができます。



より高度な SQL 文の作成とデバッグは、データベース専用のツールを使用する方法があります。 SQL Server 2005 以上の場合であれば、「SQL Server Management Studio」や 「SQL Server Management Express」を使用します。

ビューテーブルやプロシージャなどの高度な SQL 文を作成し、テストすることができます。



▲「SQL Server Management Studio」の画面例

データベースサーバに送られる SQL 文の評価・解析は、SQL Server 2005 Standard Edition 以上の場合、標準添付ツールの「SQL Server プロファイラ」を使用します。SQL 文のトレース情報を取得できますので、より詳細な処理状況の確認が可能です。









第5章 アプリケーションの公開作業

本章は、開発した Web アプリケーションを、エンドユーザに公開するために必要な作業についてまとめています。

公開に向けての作業は、5つあります。

- 5.1 Excel シートの仕上げ作業
- 5.2 プロジェクトの定義情報の確認作業
- 5.3 プロジェクト定義情報と Excel シートのアップロード作業
- 5.4 本番での動作確認作業
- 5.5 再公開のための作業



M

5.1. Excel シートの仕上げ作業



上記の図は、仕上げ作業前後の状態を表しています。仕上げ作業は、エンドユーザの誤操作の防止やセキュリティの向上のために行います。またこの作業は、エンドユーザに表示させる Excel シートのみ行います。

5.1.1. 仕上げ作業

(ア) 制御用セルを非表示に

アプリケーションの実行や制御のためのセルですので、エンドユーザが誤操作しないようにするため、セルのある行や列を非表示にします。この作業で表示するセルが非表示になる場合は、制御用セルの設置場所の移動と再デバッグを行わなければなりません。

(イ) レイアウトの確認

フォームレイアウトなどが、要求内容や設計内容に合致しているかを確認し調整します。また、シート内に設置したコメントやメッセージについても再確認します。

- (ウ) オプション設定を変更する(必要な場合)
 - オプション設定を切り替えて、Excel の表示などを変更します。
 - ① シートの枠線を非表示にする(※1) 上記右図のように枠線を消すことで一般的なアプリケーションらしい表示に変えることができます。
 - ② 行列番号を非表示にする(※1) 上記右図のように行列番号を消すことで一般的なアプリケーションらしい表示に変えることができます。
 - ※1:メニュー切り替え時などにタスクタイプ「430. EXCEL コマンド」を実行して、表示/非表示の切り替えをすることも可能です。

(エ) 「シートの保護」を設定

「シートの保護」は、許可する操作ヵ所が複数(Excel2003以上)ある操作に注意して設定します。また、入力を可能にするセルは、セルの書式設定で保護のロック解除を設定しておくことを忘れないでください。そのまま、セル保護をすると入力できない場合があります。





5.2. プロジェクトの定義情報の確認作業

プロジェクト定義情報のうち、データベース定義/DB運用定義及び、ブック定義/ブック運用定義の情報が、本番運用用の定義になっていることを確認します。違っている場合は、プロジェクト定義を訂正します。

各定義シートの詳細は、『第2部 第4章 定義編集画面の操作方法』をご覧ください。

5.3. プロジェクト定義情報と Excel シートのアップロード作業

既に稼働しているプロジェクトをアップデートする場合は、プロジェクト定義情報と Excel シートが同期して更新したものをエンドユーザが使用できるように注意します。(両方更新している場合)

【アップロードの手順】

- ① サーバ管理画面より、プロジェクトに割当てたエンドユーザのグループを一度削除します。 操作は『サーバ版操作マニュアル』を参照してください。
- ② プロジェクト定義情報のアップロードと Excel シートのアップロードを行います。操作は『第2部 第7章 プロジェクト定義情報と Excel ブックのアップロード』を参照してください。

5.4. 本番での動作確認作業

開発者は、実行版で開発したプロジェクトについて最終動作確認を行います。

不具合がなければ、次の作業に進みます。不具合が見つかった場合は、対処・対策をして仕上げ作業の 最初に戻って作業を行います。

5.5. 再公開のための作業

『第1部 5.3 プロジェクト定義情報と Excel シートのアップロード作業』でプロジェクトへのエンドユーザの割当てを削除した場合は、再度関係の設定を行います。

操作は『サーバ版操作マニュアル』参照してください。





第2部 dbSheetClient 開発版リファレンス

第2部は、「dbSheetClient 開発版」で使用する名称、基本的な開発手順、基本的な操作方法を中心に 説明します。

■ 各章の概要

第1章 dbSheetClient の開発手順

dbSheetClient の開発手順について説明します。

第2章 ログイン画面

ログイン画面について説明します。

第3章 メイン操作画面とプロジェクト定義ファイル

開発版メイン操作画面と、dbSheetClient で開発したプロジェクトの処理を定義するためのプロジェクト定義ファイルについて説明します。

第4章 定義編集画面の操作方法

定義編集画面の操作方法を説明します。

第5章 DB 自動作成と MDB アップロードの操作方法

Excel シートの一覧データからデータベースのテーブルを作成する方法と、作成したテーブルをデータベースにアップロードする操作方法について説明します。

第6章 デバッグのためのテスト環境

定義編集で作成したプロジェクトのデバッグとテストを行うためのデバッグ実行、SQL テスト実行、リファレンス作成の操作方法について説明します。

第7章 プロジェクト定義情報と Excel ブックのアップロード

定義編集で作成したプロジェクト定義情報やプロジェクトで利用する Excel ブックをサーバシステムにアップロードする操作方法について説明します。





第8章 データ保守定義

マスタテーブルの保守画面を自動生成する方法について説明します。

第9章 メンテナンス機能

プロジェクトの複製や復旧、マイグレーションに関する各種メンテナンス機能について説明します。













第1章 dbSheetClient の開発手順

本章では、dbSheetClientの開発手順について説明します。

- 1.1 プロジェクト開発の流れ
- 1.2 開発の準備作業





1.1 プロジェクト開発の流れ

■dbSheetClientの開発は、以下のような手順で開発を進めていきます。

1.1.2. dbSheetClientによるWebアプリケーション開発手順

dbSheetClientでは、①サーバシステムでプロジェクトを登録を行った後、②Excelでシートの 作成→③DBの設計→④開発版でExcelシートとDBの連携→⑤開発版でビジネスロジックの定 義→⑥開発版でテスト&デバッグ実行→⑦サーバシステムでプロジェクトの公開 の開発手 順を踏むことにより、Webアプリケーションを開発することができます。

(1)プロジェクトの登録

・サーバシステムにプロジェクトを 登録します。

2 Excelシートの作成

- ・Excelで入出力画面や帳票を作 成します。
- ・ブックファイル定義シートの設定

3 DBの設計

- ・データ分析・最適化作業
- ・Excel→MDB→DBサーバへの変換
- ・DBサーバシステムでDBを作成
- データベース定義シートの設定

(4) ExcelシートとDBの連携

- ·入出力用Excelシートの設計
- SQLの作成
- ・クエリー定義シートの設定
- ・データ展開定義シートの設定

(5) ビジネスロジックの定義

- ・メニュー定義シートの設定
- ・ボタン定義シートの設定
- ・タスク定義シートの設定

(6) テスト&デバッグ作業

・デバッグ実行、ステップ(トレース)実行

(7)プロジェクトの公開

- ・プロジェクト定義情報と Excelファイルをサーバにアップロード
- ・ユーザ権限等の設定
- サーバシステムでプロジェクトを公開

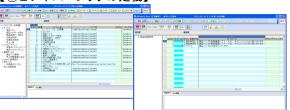
【①プロジェクトの登録】



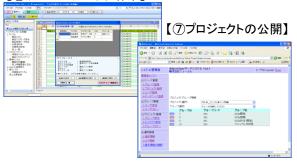
【④ExcelシートDBの連携】



【⑤ビジネスロジックの定義】



【⑥テスト&デバッグ作業】



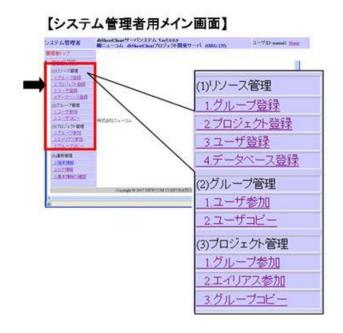
■dbSheetClient の開発は、プロジェクト単位で開発をします。 このプロジェクトは、dbSheetClient サーバ版で事前に登録しておく必要があります。



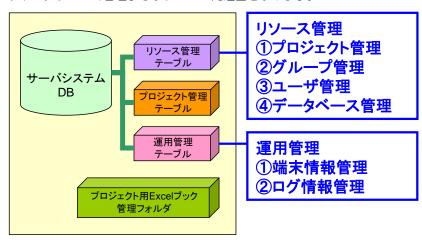


1.2. 開発の準備作業

- ■開発の準備作業として、プロジェクトを含む以下のリソースをサーバへ登録(準備)しておく必要があります。
 - ①グループ
 - ②プロジェクト
 - ③ユーザ
 - ④データベース
- ■上記の各リソースは、dbSheetClient サーバ版のシステム管理者用メイン画面の(1)リソース管理から、リソースの登録や変更を行います。



以下に、サーバで管理するリソースの関連図を示します。



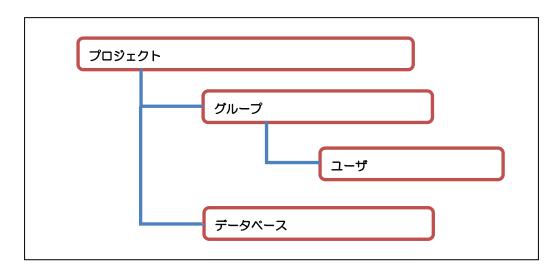




■登録したプロジェクトは、グループを参加させることで、グループに所属するユーザがプロジェクトを 利用できるようになります。

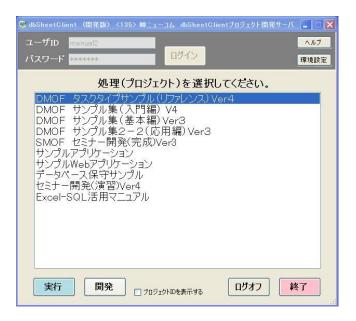
ユーザに対してプロジェクトの実行権限を与えるためには、dbSheetClient サーバ版のシステム管理者用メイン画面で、プロジェクト、グループ、ユーザの登録後、プロジェクトへのグループ参加の設定をしておく必要があります。

以下にサーバシステムで管理するプロジェクト、グループ、ユーザ、およびデータベースの関係を示した図を示します。



- ※上記リソースの登録/設定/変更等の作業は、サーバ版インストール時に作成される「Supervisor 権限」のユーザ、または「システム管理者権限」のユーザで登録作業を行います。作業手順の詳細は、 『サーバ版操作マニュアル』及び『システム管理者用マニュアル』を参照してください。
- ■dbSheetClient 開発版のログイン画面には、ログインしたユーザが利用できるプロジェクトの一覧が表示されるようになります。これ以降、開発するプロジェクトを選択して、そのプロジェクトの内容 (各定義シート)を作成していくことになります。

▼ログイン画面の例







第2章 ログイン画面

本章では、ログイン画面の操作について説明します。

- 2.1 開発版ログイン画面
- 2.2 ヘルプ画面
- 2.3 環境設定画面
- 2.4 オフラインで開発と実行
- 2.5 オンライン接続時のセッション切断に関する注意点





2.1. 開発版ログイン画面

■dbSheetClient 開発版は、プロジェクト単位で開発します。

dbSheetClient 開発版のアイコンをダブルクリックすると、dbSheetClient 開発版ログイン画面が表示されます。

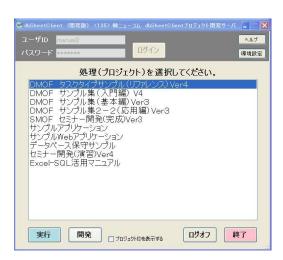


dbSheetClient 開発版のアイコン



「ユーザ I D」「パスワード」を入力します。

[ログイン] ボタンをクリックします。



ユーザIDで使用可能な「プロジェクト」が表示されます。

同時に選択可能なボタンが表示されます。

[開発版] ボタンをクリックすると、開発版メイン操作画面を起動します。

[終了] ボタンをクリックすると、ログイン画面を終了します。





2.2. ヘルプ画面

▼ログイン画面の [ヘルプ] ボタンをクリックすると、ヘルプ画面が表示されます。



ヘルプ画面は、(1)製品情報、(2)障害対策の2項目に分かれています。 製品情報のページには、①ユーザ情報、②ベンダー情報、③製品情報が表示されます。

※ [ヘルプ] (および環境設定) はログイン前後の画面に表示され、各々でボタンをクリックして 実行することができます。

ただし(1)製品情報についてはログイン前後の内容が異なりますので注意してください。 (以下はログイン前の画面)



[閉じる] ボタンをクリックすると、ヘルプ画面を終了します。





2.2.1. 製品情報

[ヘルプ] 画面は、はじめに(1)製品情報が表示されます。

製品情報はログイン前後の情報表示が異なります。



項目	ログイン前	ログイン後
ユーザ 情報	稼働 OS のみ表示	ユーザ名、ユーザ識別 ID、 稼働 OS、DBS サーババージョン を表示
ベンダー 情報	表示内容なし	ベンダーの問合せ先情報を表示
製品情報	製品名、バージョン、弊社名と 弊社 URL を表示	製品名、バージョン、弊社名と 弊社 URL を表示





2.2.2. 障害対策

障害対策では [Excel メニューの表示復旧] や [Microsoft Office Web Components のインストール] を実行することができます。

Microsoft Office Web Components のインストールでは、MicrosoftOffice2007 利用時に必要なコンポーネントをインストールします。

■Excel メニューの表示復旧の概要

Excel メニューの表示復旧では、Excel を実行した時にメニューが非表示になっている状態を表示させるように復旧します。

dbSheetClient では実行中に、Excel 操作や処理をユーザが行わないようにツールバーなどを非表示にしています。そして、dbSheetClient を終了する時に、非表示を表示に戻します。

しかし、dbSheetClient で利用した Excel ファイルがメモリ上に残り正常に解放されなかった場合、Excel 実行時にツールバーが非表示のままになります。

Excel メニュー表示復旧は、強制的にメモリを解放し Excel メニューを表示に戻す処理を行います。



- ■Excel メニューの表示復旧の操作手順
- ①はじめに、メニュー非表示状態の Excel ファイルを[Alt]+[F4]で終了させてください。 ※画面上に表示されている Excel はすべて終了します。
- ②ログイン画面の [ヘルプ] [(2) 障害対策] [①Excel のメニュー表示復旧] をクリックすると表示復旧画面が表示されます。







③メモリ上に残った Excel プロセスを表示します。選択状態にして、

[選択した Excel プロセスを削除する] ボタンをクリックします。

「Excel を終了します。よろしいですか?」のメッセージが表示されます。

④ [OK] ボタンをクリックすると、選択した Excel プロセスを終了します。

選択した Excel プロセスが消えてプロセス件数も減少します。

複数件表示されている場合は件数が〇件になるまで繰り返します。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、表示復旧せずにヘルプ画面に戻ります。

⑤すべてのプロセスが消えて〇件になると、

[Excel メニューを復旧する] ボタンがアクティブになるので、クリックします。

⑥「Excel が自動的に起動します。」とメッセージが表示されますので、「終了」ボタンをクリックします。



⑦ Excel メニューが表示されていることを確認ください。

▼注意

復旧された Excel メニューは標準設定になっています。

ユーザがカスタマイズした表示の場合は、再度設定していただく場合がありますのでご了承ください。





2.3. 環境設定画面

環境設定には、3つのタグがあります。

(1) ユーザカスタマイズ

ログイン画面、実行画面の設定や実行モードでの操作ログの設定などを行います。 開発権限者には、システム環境フォルダの設定を行います。

(2) 端末情報初期化と組織変更

利用する PC の端末情報を接続サーバに新規登録します。また、組織(利用サーバ)の変更が可能です。

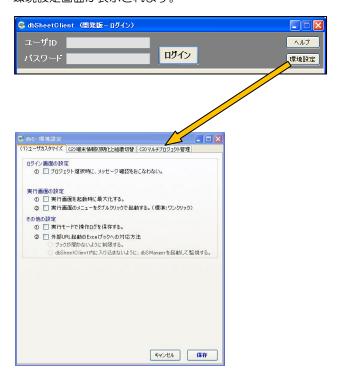
(3) マルチプロジェクト管理

プロセスが残ったままの Excel をメモリ上から解放します。

ログイン前後や、開発権限によって設定内容が異なりますので注意してください。

ログイン画面の【環境設定】ボタンをクリックします。

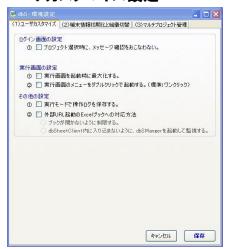
環境設定画面が表示されます。







2.3.1. ユーザカスタマイズ設定



■ログイン画面の設定

[プロジェクト選択時に、メッセージ確認を行わない。] 初期:□OFF

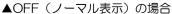
初期値(OFF)では、プロジェクトを選択し、[実行] した時に「〜処理を開始してよろしいですか」と確認メッセージを表示します。確認メッセージを必要としない場合は、ONにしてください。

■実行画面の設定

[実行画面を起動時に最大化する] 初期:□OFF

初期値(OFF)では、dbSheetClient 実行画面をノーマルモード(標準状態)で表示します。 全画面表示する場合は、ON にしてください。







▲ON(全画面表示)の場合

実行画面のメニューをダブルクリックで起動する] 初期:□OFF

この項目がOFF の時には、dbSheetClient 実行画面のメニューは、「ワンクリック」で切り替わりますが、ON にすると、「ダブルクリック」で切り替わるようになります。





■その他の設定

[実行モードで操作ログを保存する] 初期:□OFF

実行モードで操作ログを保存したい場合、ON にしてください。

[外部 URL 起動の Excel ブックへの対応方法] 初期:□○FF

Ver. 5. 0. 3. 0

(URL のアドレスで指定された EXCEL ブックを開くときだけに制限されます)

ブックが開かないように制限する。

dbSheetClient 内に入り込まないように dbSManger を起動して監視する。

《詳細》

URL のアドレスでリンクされる EXCEL ブックを開いたときに、dbSheetClient の EXCEL 内に、URL 起動されたブックが開いてしまうため、その対応法を指定することができます。

1) 既定(チェックされていないときの動作):

dbSheetClient 内に一旦 Excel が入り込みますが、すぐに閉じて、別 Excel で開きます。 ただし、環境や EXCEL のバージョンによっては、dbSheetClient 内にワーク用のブックが 入りこんだままになることがあります。

2) ブックが開かないように制限する:

dbSheetClient 内に一旦 Excel が入り込みますが、すぐに閉じて、別 Excel では開きません。 したがって、dbSheetClient が終了されるまでは、URL 起動の EXCEL の編集は出来ません。 ただし、環境や EXCEL のバージョンによっては、dbSheetClient 内にワーク用のブックが 入りこんだままになることがあります。

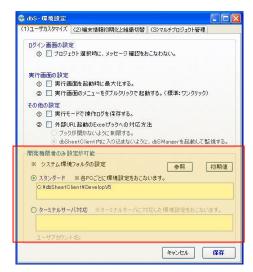
3) dbSheetClient 内に入り込まないように、dbSManager を起動して監視する: ログイン画面が表示された段階で、dbSManager を起動して、URL 起動された EXCEL が 開こうとしたときに、dbSheetClient 内に入り込まないように、直ちに別 EXCEL で開きます。 この EXCEL が閉じられてしまうと、それ以降は、dbSheetClient 内に入り込むようになるため EXCEL の閉じるボタン×は無効にしています。

※本設定を行うと、ログイン画面が表示された段階で、dbSManager.exe および、dbSManager.exe が管理する EXCEL が起動します。 したがって、実行版が起動した段階では、EXCEL が二つ起動することになり メモリーの使用量が増加しますので、注意してください。

※上記の指定を変更した場合は、dbSheetClientを終了してから起動すると有効になります。







■開発権限者のみ設定が可能

▼注意

この設定項目は開発権限を持たないユーザIDでは表示されないため、開発権限を持つユーザIDでログインして、個別に設定する必要があります。

[システム環境フォルダの設定]

システム環境フォルダを変更したい時、

標準のフォルダを変更する場合は、 ③ スタンダード を選択します。

ターミナルサーバ対応のフォルダを変更する場合は、
の ターミナルサーバ対応
を選択します。

その後、[参照] ボタンをクリックし、設定したいフォルダ選択します。



ダイアログ選択画面から該当のフォルダを選択します。 ターミナルサーバの場合は、ターミナルサーバがアクセ ス可能なフォルダを選択する必要があります。

変更したフォルダを初期状態に戻す時

[初期値] ボタンをクリックしてください。





2.3.2. 端末情報の初期化と組織切替

dbSheetClientではサーバシステムに登録された端末のみ接続、開発および実行が可能となります。 (端末情報の登録については『開発版インストールマニュアル』を参照してください。)

端末情報の初期化はサーバが端末を認証できない場合に、再認証を相互に構築する処理です。 初期化が必要なケースは大きく分けて3つあります。

- A. 同じ端末を別のユーザ ID で登録しなおしたい時。(退職や異動時)
- B. サーバのドメイン名が変更になった時。(ローカル IP アドレス設定時は IP アドレス)
- C. ノートPCを利用していて、外出時は無線LANカードで接続する時。

また、同じ端末を異なる LAN カードで接続する時。

※端末情報はMAC アドレスなどの固有情報を認証キーとして登録しています。 そのため、利用するLAN カードの持つ MAC アドレス毎に認証が必要となります。



①端末情報の初期化(OnLine 時)

A のケースの時に使用します。

サーバが接続されている時に処理します。

※ログイン前と OffLine 時は非アクティブで選択することができません。

②端末情報の初期化(OffLine 時)

BとCのケースの時に使用します。

サーバが接続されていない時に処理します。





■処理の流れ

[端末情報の初期化] ボタンをクリックします。

確認の画面が表示されます。



[はい] ボタンをクリックすると、端末情報を初期化します。

[いいえ] ボタンをクリックすると、初期化せずに環境設定に戻ります。

※端末情報が複数登録されている場合、ログオンされている端末情報のみを初期化します。

端末情報を初期化すると、次のメッセージが表示されます。



環境設定で組織IDを変更した後、再度ログインしてください。

■組織IDの異なる複数のサーバに接続する方法について

ソフトウェアベンダ様の場合には、組織 ID の異なるサーバに接続したいケースが発生します。そのような場合には、それぞれのサーバに対して、端末情報を登録する必要があります。端末情報が複数登録されている場合には、リストボックスで組織 ID を切り替えることができます。

※なお、実行版では、本機能は利用できません。組織 ID が異なるサーバに接続する場合は、 必ず初期化を行ってください。

複数の端末情報を全て初期化すると、次のメッセージが表示されます。



[OK] ボタンをクリックすると、端末情報登録の画面が表示されます。







ここで端末情報を登録します。

あらかじめシステム管理者から、組織 ID、ドメイン名または IP アドレス、ユーザ ID、パスワードを取得 しておいてください。

[登録]ボタンをクリックすると、端末情報を登録します。

入力内容に誤りがあった場合、次のメッセージを表示し、端末情報の登録処理を終了します。



端末情報を確認して、再度、端末情報の入力を実行してください。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、端末情報登録をせずに終了します。

「端末情報を再度登録してください」とメッセージを表示して終了します。

※Microsoft Office2007 • Excel2007 を利用の場合は、次のメッセージを表示して終了します。



再起動してログイン画面のヘルプ-障害対策から Microsoft Office Web Components のインストール を実行してください。

※dbSheetClient では、端末情報登録で登録した内容を、各PCのレジストリ (HKEY_CURRENT_USER) に記録し、その内容で次回からの起動時には起動します が、Windows へのログイン時に別のアカウントでログインしたときには、レジストリ (HKEY_CURRENT_USER) が異なりますので、レジストリがまだ未登録である と判断し、端末情報登録を要求されます。

2.3.3. マルチプロジェクト管理の設定

サーバ版がマルチプロジェクト対応モード(オプション)の時には、複数のプロジェクトを同時に起動す ることができます。

「マルチプロジェクト管理」では、実行中のプロジェクト情報を確認することができます。

※プロジェクトを実行中に、異常終了が発生した時など、プロジェクトは終了しているのに「実行中の プロジェクト一覧」には表示されている不具合状態になる場合があります。

このような終了したプロジェクトを「実行中のプロジェクト一覧」から除外させることができます。

▼注意

実行中のプロジェクトを除外すると、プロジェクト管理に矛盾が発生しますので、注意して ください。実行中のプロジェクトを除外した時は、以下の手順を行ってください。

① 定義ファイルを保存します。





- ② プロジェクトを終了します。
- ③ dbSheetClient を起動し、ログインし直してください。



- ・プロジェクト実行数・・・・・・・ 現在、実行中のプロジェクト数です。
- ・プロジェクト実行許可数(MAX)・・・ 実行が許可された最大数です。

■実行中のプロジェクト一覧

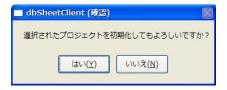
- No・・・・・・・・・・・・・・・・ プロジェクトを実行した順番です。
- ・PID・・・・・・・・・・・・ サーバ版に登録されているプロジェクトID番号です。
- ・プロジェクト名・・・・・・・・ サーバ版に登録されているプロジェクト名です。
- ・開始時刻・・・・・・・・・・・ プロジェクトを実行した日時の情報です。

■除外プロジェクト名

「実行中のプロジェクト一覧」のプロジェクトを選ぶと、プロジェクト名を表示します。

■ [除外] ボタン

選ばれたプロジェクトを「実行中のプロジェクト一覧」から除外します。

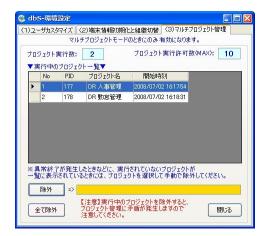


[はい] ボタンをクリックすると、除外します。

[いいえ] ボタンをクリックすると、除外しません。







■ [全て除外] ボタン

全てのプロジェクトを「実行中のプロジェクト一覧」から除外します。





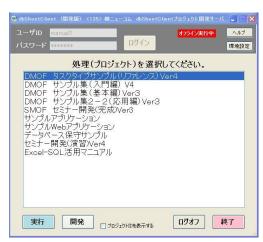


2.4. オフラインで開発と実行

ネットワーク未接続のオフラインの状態で、dbSheetClient の開発および実行ができます。 ただし、以下の条件を満たす必要があります。

【オフラインで開発と実行をするための条件】

- ① オンライン状態で、オフラインで開発と実行するユーザ ID でログイン認証済であること。
- ② オンライン状態で、オフラインで開発と実行するプロジェクト定義情報を取得済であること。
- ▼端末認証済みの PC から、オンライン時にログインしたユーザ ID でログインします。



※利用ユーザID ログインで、オンライン接続した実績がある場合、オフライン実行時も、 許可されたプロジェクトー覧が表示されます。

▼実行フォルダと開発フォルダには既にプロジェクト定義ファイルがダウンロードされています。



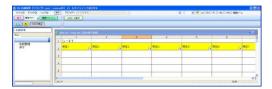
※プロジェクト定義ファイルについては、『第2部 第3章 メイン操作画面とプロジェクト定義ファイル』を

参照してください。





▼実行時にローカル PC に存在する Excel ブックとデータベースに接続する設定になっています。



オフライン時でも、クライアント上の Excel ブックや DB にアクセスする場合、デバッグ実行や実行版での実行が可能です。

※Excel ブックと DB の設定方法については、『第2部 4.7.1 データベース定義』と 『第2部 4.7.3 ブックファイル定義』を参照してください。





2.5. オンライン接続時のセッション切断に関する注意点

dbSheetClient サーバシステムでは、クライアントの認証が完了して接続を許可すると、接続されたクライアントにセッション ID を発行して、クライアントから要求された処理を受付けます。

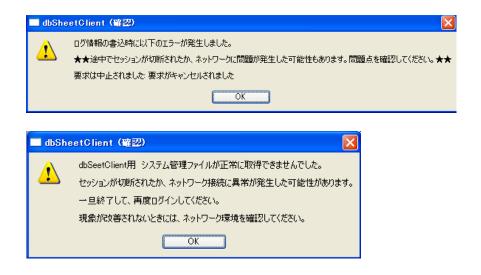
サーバシステムではセッション ID で管理されたクライアントからの要求のみ受け付けているので、何らかの原因でネットワークが切断し、クライアントのセッション ID が変わるとそれ以降の要求は拒否されます。

■セッションの切断

プロジェクトを実行中に、ネットワーク回線などのトラブルでネットワークが切断した時、または、 PC の操作を長時間おこなわないでスリープモードになった時などに発生します。

■サーバの情報取得中にセッションの切断が発生した場合

開発版でプロジェクト定義情報のサーバ送信中または、開発版・実行版でプロジェクト定義情報の取得する場合、あるいは、データの取得や更新の処理をおこなっている時に、セッションの切断が発生すると、サーバは処理を継続することができないため、以下のようなエラーメッセージを表示して処理を中断します。



セッションが切断された時は、オンライン接続のまま継続して処理を続行することができなくなるため、 自動的にオフラインモードに切り替えます。

再度オンライン接続で処理をおこなう場合は、dbSheetClient を一度終了して、再度ログインしなおしてください。





第3章 メイン操作画面とプロジェクト定義ファイル

本章では、メイン操作画面の操作とプロジェクト定義ファイルについて説明します。

- 3.1 dbSheetClient メイン操作画面の説明
- 3.2 プロジェクト定義ファイル





3.1. dbSheetClient メイン操作画面の説明

ログイン画面の [開発版] ボタンをクリックすると、開発版メイン操作画面が表示されます。開発版メイン操作画面には下図のようにプロジェクト開発をおこなうためのメニューバーやコマンドボタンが配置されており、プロジェクト情報と実行用フォルダ、開発用フォルダの情報が表示されます。



dbSheetClient 開発版メイン操作画面の Windows タイトルバーには「ログインユーザ名」、「開発権限 レベル」、「プロジェクト名」を表示します。

■メニューバー領域

メニューバー領域の項目は、コマンドボタン、プロジェクト情報、実行用フォルダの情報、開発用フォルダの情報のすべての実行を網羅しています。

ファイル・・・・「終了」を実行します。

編集・・・・・・ 「定義編集」を実行します。

DB 自動作成・・・ 「DB 自動作成」や「DB アップロード」を実行します。

デバッグ・・・・ 「デバッグ実行」、「リファレンス作成」、「SQL テスト実行」を実行します。

アップロード・・・ 「プロジェクト定義ファイル」や「Excel ファイル」を実行します。

メンテナンス・・・「パスワードの設定」、「プロジェクトの初期化」、「定義情報の強制入替」、

「プロジェクトの複製」、「デモプロジェクトの取込」、「外部プロジェクトの取込」、

「プロジェクトの比較レポート作成」、「プロジェクトのマージ」、

「定義情報のマイグレーション」を実行します。

ヘルプ・・・・・「バージョン情報」、「オンラインヘルプ」を実行します。





▼注意

- 1)メイン画面に現れるメニューは開発権限レベルによって実行できる項目が異なります。 次にメニュー毎の開発権限レベルを示します。
 - ※開発権限レベルはサーバシステムの(1)リソース管理-3.ユーザ登録で設定することができ、 開発ユーザに対して 1~10の段階で開発権限レベルを与えることができます。
- 2)「オフライン実行」の時にも、実行できる項目が異なります。

■開発権限レベル

下の表にコマンドの機能と開発権限レベルに応じたコマンドの操作の可否を示します。

No.	メニュー名	コマンド	開発権限→ 機能	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ALL	100
1	編集(E)	定義編集	プロジェクト定義情報の編集作業をおこないます。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	DB自動作成		Excelシート上のライン型データを MDB形式のデータに変換します。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3	DB自動作成(A)	DBアップロード	DB自動作成で作成したMDBファ イルをサーバにアップロードしま す。	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4		デバック実行	デバッグモードで、「デバッグ実 行」をおこないます。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	デバッグ(D)	リファレンス作成	「リファレンス作成」をおこないま す。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6		SQLテスト実行	「SQLテスト実行」をおこないま す。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
7	プロジェクト定義ファイル		開発用フォルダの「プロジェクト定 義ファイル」をサーバにアップロー ドします。	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8	アップロード(U)	Excelファイル	プロジェクトで使用する「Excelファ イル」をサーバにアップロードしま す。	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9		パスワードの設定	プロジェクト定義情報に「パスワード」を設定します。	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0	0
10		プロジェクトの初期化	プロジェクト定義情報をサーバ上から消去して「初期化」します。	×	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0
11		プロジェクトの強制入替	サーバ上のプロジェクト情報を一 旦消去して、選択したプロジェクト 情報に強制的に置き換えます。		×	×	×	0	0	0	0	0	0	0
12		プロジェクトの複製	開発用フォルダで編集中のプロ ジェクトを別のプロジェクトに複製 します。	×	×	×	×	×	0	0	0	0	0	0
13		デモプロジェクトの取込	(株)ニューコムが提供するデモプロ ジェクトを取り込みます。	×	×	×	×	×	×	0	0	0	0	0
14	メンテナンス(M)	外部プロジェクトの取込	サードパーティ(他社)が開発した プロジェクトを取り込みます。	×	×	×	×	×	×	×	0	0	0	0
15		プロジェクトの 比較レポート作成	2つのプロジェクト定義情報を比較したレポートを作成します。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16		プロジェクトのマージ	2つ以上の複数のプロジェクト定 義情報をマージして、1つの統合 したプロジェクトを作成します。	×	×	×	×	×	0	0	0	0	0	0
17		定義情報のマイグレーション	システムがパージョンアップされ たときに、旧プロジェクト情報のマ イグレーション(データ移行)をお こないます。		×	×	×	×	×	×	×	0	0	0
18		システム定義情報の取込	最新のシステム定義情報を取り 込みます。初期サーバセットアッ プ時やシステムのバージョンアッ プ時に実行します。	×	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0
19		バージョン情報	dbSheetClientのバージョンを表示します。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ヘルプ(H)	オンラインヘルプ	㈱ニューコムのサイトに接続して 最新の技術情報を表示します。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

開発権限が「100」は、「スーパーバイザ権限」の時の権限を示します。





3.1.1. コマンドボタン

コマンドボタンは、メニューバーのコマンドの中で頻繁に使用するコマンドを、ボタンでも起動できるようにしたものです。 コマンドボタンにはショートカットキーが割り当てられており、上の段のコマンドボタンは Alt+0~9 が、下の段のコマンドボタンは、F1~F9 が利用できます。

【オンラインモード】



【オフラインモード】



ボタン	<u> </u>	
0.終了	(Alt + 0)	開発編集処理を終了してログイン画面に戻ります。
1.定義編集	(Alt + 1)	プロジェクトの定義情報を編集します。
3.DB 自動作成	(Alt + 3)	Excel シート上にある一覧形式のデータを MDB 形式に自動変換します。
4.デバック実行	页 (Alt + 4)	プロジェクトの定義情報が正しいかどうかをデバッグモードで実行して確認できます。
5.リファレンス	7 (Alt + 5)	プロジェクト定義情報のリファレンス情報を自動作成します。
6.SQL テスト	実行(Alt + 6)	SQL 文の自動作成と、データベースに接続してデータを取得するテストを行います。
7.データ保守気	E義(Alt + 7)	マスターデータの保守画面を設計します。
環境設定		 ■ ログイン画面/実行画面の設定や操作ログの実行モード、開発権限者にはシステム環境フォルダ設定などを行います。 ■ 利用する PC の端末情報を接続サーバに新規登録します。また、組織(利用サーバ)の変更が可能です。 ■ プロセスが残ったままの Excel をメモリ上から解放します。
アップロード	(F1)	開発用フォルダで編集中のプロジェクト定義情報をサーバへアップ ロードします。
Excel アップ	(F2)	プロジェクトで使用する Excel ファイルをサーバにアップロードします。
DBアップ	(F3)	MDB ユーザデータを SQLServer 用のテーブルに変換して、サーバにアップロードします。
複製	(F5)	開発用フォルダで編集中のプロジェクトを別プロジェクトに複製し ます。
デモ取込	(F6)	デモプロジェクト(㈱ニューコム製)を取り込むことができます。





3.1.2. プロジェクト情報

プロジェクト情報には、ログイン画面で選択したプロジェクトに関する情報が表示されます。 プロジェクト情報の内容は、サーバシステムの(1)リソース管理-2. プロジェクト登録で変更できます。



項目名	説明
組織 ID	サーバシステムの識別 ID が表示されます。
プロジェクト名	プロジェクトID(連続番号)とプロジェクト名が表示されます。
プロジェクト定義ファイル名	プロジェクト定義情報を管理するファイル名が表示されます。

3.1.3. 実行用フォルダ

実行用フォルダには、選択したプロジェクト定義ファイルがサーバからダウンロードされます。 実行用フォルダの表示欄の「ファイルの更新日時」は、プロジェクトを選択してダウンロードした直後の 日時が表示されます。また、「アップロード日時」や「システム仕様 Ver.」、「定義アップ Ver.」の情報 は、サーバシステムで管理されている情報がそのまま表示されます。



項目名/ボタン名	説明
フォルダのパス	ログイン画面でプロジェクトを選択すると、サーバ管理されている プロジェクト定義ファイルがこの実行用フォルダにダウンロードさ れています。 デフォルトは c:\#dbSheetClient\#Develop\#run\#xxx です。
ファイルの更新日時	サーバからダウンロードされた時の更新日時が表示されます。
アップロード日時	プロジェクト定義ファイルがサーバにアップロードされた最終の日時が表示されます。
システム仕様 Ver	dbSheetClient のシステムで管理している、システム仕様のバージョンです。
定義アップ Ver	プロジェクト定義ファイルのバージョンを表示しています。 サーバにアップロードするたびに、1 ずつカウントアップします。
[実行用フォルダから 定義ファイルをコピーする]	実行用フォルダからプロジェクト定義ファイルを開発フォルダにコピーするためのボタンです。 定義編集の対象ファイルは、開発フォルダのプロジェクト定義ファイルです。 開発版では、実行用フォルダの定義ファイルは直接変更しないため、 事前にコピーしておく必要があります。





3.1.4. 開発用フォルダ

開発用フォルダは **[1.定義編集**] ボタンでプロジェクト定義ファイルを編集するための専用のフォルダです。

ログイン画面からあるプロジェクトを最初に選択した時、次のように表示されます。

「ファイルの更新日時」欄に「定義ファイルが見つかりません!!」

これは、開発用フォルダにプロジェクト定義ファイルが存在しないためです。

このような場合には、実行用フォルダの表示欄の**[実行用フォルダから定義ファイルを]ピーする**] ボタンを クリックして、プロジェクト定義ファイルを開発用フォルダにコピーする必要があります。



項目名/ボタン名	説明
フォルダのパス	定義編集でプロジェクト定義ファイルを編集するための専用フォルダです。 デフォルトは c:Client\footnote{Develop\footnote{Dev\footnote{Dev\footnote{Client\footnote{Dev\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnote{Client\footnot
	定義編集で編集された最新の更新日時が表示されます。
ファイルの更新日時	た我禰未 て禰未で化に取材の史材ロ町が衣がでれるり。
アップロード日時	プロジェクト定義ファイルがサーバにアップロードされた最終日時 を表示します。
システム仕様 Ver	dbSheetClient のシステムで管理している、システム仕様のバージョンです。
定義アップ Ver	プロジェクト定義ファイルのバージョンを示しています。
[開発用フォルダを変更する]	開発用フォルダをデフォルトと異なるフォルダに一時的に変更しま す。
編集中表示	定義編集で編集すると、編集回数が表示されるようになります。 サーバに定義ファイルがアップロードされるとクリアされます。





3.1.5. 開発用フォルダにプロジェクト定義ファイルをコピーする

[実行用フォルダから定義ファイルを]ピーする] ボタンをクリックして、開発用フォルダに実行用フォルダのプロジェクト定義ファイルをコピーします。

コピーを実行すると、開発用フォルダにある古い定義情報を上書きするため、上書きしてもよいか、確認 メッセージを表示します。



コピーを実行すると、開発フォルダには、実行フォルダと同じ、ファイルの更新日時、アップロード日時、システム仕様 Ver、定義アップ Ver が表示されます。



■デグレード時の操作

誤って、「実行用フォルダ」の編集前のデータを、「開発用フォルダ」の編集後のデータにコピーして しまった場合は、次の手順で操作してください。

- ① 定義編集を終了し、ログイン画面に戻ります。
- ② 再度、プロジェクトを選び、定義編集画面を表示させます。
- ③ [実行用フォルダから定義ファイルをコピーする] ボタンをクリックします。





3.2. プロジェクト定義ファイル

プロジェクト情報 の項で説明したプロジェクト情報表示欄には、プロジェクト定義ファイル名が表示されていますが、このプロジェクト定義ファイルに dbSheetClient 開発版で編集するプロジェクト定義情報が格納されます。 サーバシステムでプロジェクトを登録すると、デフォルトでプロジェクト定義ファイル名は以下のルールに基づいて命名されます。

プロジェクト定義ファイル名→dbS_{プロジェクト識別記号} {プロジェクトID}.dbs

プロジェクト識別記号は、プロジェクトファイル管理フォルダの最下部名です。

例) C:\footnote{Client\footnote{Develop\footnote{dev\footnote{s}}} の場合、「sAPL」になります。

▼注意

プロジェクトファイル管理フォルダの最下部名参照先は、実行用フォルダと開発用フォルダの両方です。 実行用フォルダと開発用フォルダの最下部名は同じにしておく必要があります。

例)プロジェクト ID が 79 の場合、自動作成されたプロジェクト定義ファイル名は 「dbS_sAPL79.dbs 」 になります。







第4章 定義編集画面の操作方法

本章では、定義編集画面での操作方法について説明します。

- 4.1 定義シートの種類
- 4.2 各定義と実行画面の制御関係
- 4.3 定義編集画面の説明
- 4.4 定義編集のシート切り替え方法
- 4.5 定義シート編集保護解除方法
- 4.6 定義シートの操作ボタン説明
- 4.7 各定義の編集方法
- 4.8 IOTG (アイオーティージー)





4.1. 定義シートの種類

プロジェクト定義ファイルには、14 種類の定義シートが含まれており、データベースの制御や Excel の制御など、定義シート毎の役割に応じた定義内容を入力していきます。つまり、パラメータ入力方式による Web アプリケーションの開発を行います。

4.1.1. 14 種類の定義シート

▼14 種類の定義シートと役割を、下記表にまとめてあります。

No.	定義シート名	役割
1	データベース定義シート	プロジェクト内で使用するデータベースの接続情報を定義します。
2	DB 運用定義シート	開発版と実行版で使用するデータベースを別々に定義しておくことが
		可能です。
3	ブックファイル定義シート	プロジェクト内で使用する Excel ブックファイルを定義します。
4	ブック運用定義シート	開発版と実行版で使用する Excel ブックファイルを別々に定義してお
		くことが可能です。
5	メニュー定義シート	メニューエリアに表示するメニューを定義します。
6	ボタン定義シート	メニュー毎に実行するタスクを起動するためのボタンを定義します。
7	タスク定義シート	実現するタスク(機能処理)を定義します。定義するタスクは、タス
		クタイプにより決定します。
8	クエリー定義シート	アクセスするデータベースを指定し、と SQL 文等を定義します。
9	展開定義シート	タスク定義やクエリー定義を実行するために必要な、Excel シートの
		セル位置や範囲及び値等を定義します。
10	開始終了定義シート	開始/終了時(プロジェクトのオープン/クローズ、ブックのオープ
		ン/クローズ、メニュークリック時、ボタンクリック時)に起動する
		タスクを定義します。
11	データ保守定義シート	ASP.NET 形式の画面でデータベース用のメンテナンス画面を定義し
		ます。
12	ボタン一覧定義シート	メニュー毎に定義するボタンを複数個まとめるためのグループ名(ボ
		タンセット名)を定義します。
13	タスク一覧定義シート	1 つのタスク定義で、複数行の定義ができますが、それらをまとめる
		ためのグループ名(タスク名)を定義します。
14	展開一覧定義シート	1つの展開定義で、複数行の定義ができますが、それらをまとめるた
		めのグループ名(データ展開名)を定義します。



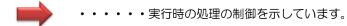


4.2. 各定義と実行画面の制御関係

各定義シートと dbSheetClient 実行画面との制御関係を以下に示します。

データベース定義 ※1 ブックファイル定義 ※1 DB運用定義 ※1 ブック運用定義 ※1 開始終了定義 タスク定義 ボタン定義 ■ dbSheetClient 実行画面 メニ ボタン表示部 I IJ コー メニュー 定 定 デー 義 夕保 表 Excel 表示部 示 S Q L 文 守 部 画 面 定 展開定義 データベース

ボタン一覧 ※2 タスク一覧 ※2 展開一覧 ※2



※1 ・・・・・プロジェクト開始時に定義するシートです。

※2 ・・・・・・名称管理用一覧シートで自動作成されます。

・・・・・・開発時に頻繁に編集する定義シートです。





4.3. 定義編集画面の説明

開発版メイン操作画面から [1. 定義編集] ボタンをクリックすると、定義編集画面が表示されます。

プロジェクト定義ファイルに、パスワード設定されている場合

正しいパスワードを入力しないと定義編集画面に切り替わりません。



パスワードの入力を間違えた場合のメッセージ



図 4-1 定義編集画面

定義編集画面を、次の四つのエリアに分類して説明します。

- 定義編集ボタンエリア・・・・・・上部
- ツリー表示エリア・・・・・・左部
- 定義編集シートエリア・・・・・・中央部
- 情報表示/SQL編集エリア・・・・下部





4.3.1. 定義編集ボタンエリア

編集作業を行うためのボタンが表示されています。 ボタンとその機能について説明します。

▼上段

ボタン	機能
1終了	定義編集を終了し、開発版メイン操作画面に戻ります。
1.戻る	直前の定義編集に戻ります。
1実行	デバッグ実行を起動します。
全/全	全定義情報表示の表示/非表示を切り替えます。全情報非表示 全 では、指
	定したメニューに関係する情報だけが表示されます。
2,4_1-	プロジェクトで表示するメニューを定義します。
	メニュー毎に実行するタスク情報やボタン情報等を関連付けます。
3.ボタン	タスクを起動するためのボタンを定義します。
<u>4</u> タスク	実行する機能や処理を定義します。
5.カエリー	データベースで実行する SQL 文を定義します。
6.展開	SQL 文の実行結果を Excel シートに展開する展開位置を定義します。
	また、コピーやクリアなどの一部のタスクタイプで Excel シート上の位置を指
	定します。
Z.EXCEL	参照シートの Excel ファイルを別ウインドウで開きます。
8DB	プロジェクトで使用するデータベースを定義します。
9.DB運用	開発時と運用時で、使用する DB を別々に定義します。
<u>Aブック</u>	プロジェクトで使用する Excel ファイルを定義します。
Bブック運用	開発時と運用時で、使用する Excel ファイルを別々に定義します。
C.開始終了	プロジェクトの起動・終了時や、Excel ファイルのオープン・クローズ時に、
	実行する処理を定義します。
Dボタン一覧	メニューが選ばれた時に表示するボタンのグループを定義します。
Eタスク一覧	ボタンなどから呼び出す処理(タスク)を定義します。
	各々の詳細については、タスク定義で定義します。
E展開一覧	SQL 文の実行結果や一部のタクスタイプで、Excel シートへ展開するグループ
	を定義します。
フォント 11 💌	定義編集シートの文字の大きさを指定します。
<u>H</u> ELP	ヘルプメニューを表示します。
	1 オンラインヘルブ 2 パージョン情報 3 デバッグ用メッセージ表示 4 SQLテスト実行 5 データ保守定義 6 がな漢字変換のN 7 がな漢字変換自動制御 ✓ 8 初期値入力画面表示 9 タスク定義の固定位置変更 ※ 詳細は、第2部『4.6 定義シートの操作ボタン説明』を参照してください。





▼中段

ボタン	機能							
編集不可/編集可能	編集状態を表示します。[編集] ボタン ON の時「編集可能」になり、							
不可」/「可能」	定義編集エリアでの編集作業が可能になります。							
編集 (F11)	編集エリアでの編集を可能にします。							
	クリックすると、編集状態が「編集可能」になり、編集エリアの項目名部分が							
	灰色表示から黄色表示に変わり、編集可能となります。							
保存	編集内容を保存します。							
取消	編集中の定義シートの編集内容を破棄して、編集前に戻ります。							
₹刀期(值 (F3)	クリックするとdbSheetClientが用意した初期値を定義編集エリアに展開します。							
	なお、用意した初期値は定義編集メニューによって異なります。各定義編集メニュ							
	ーで解説します。元の定義が〇の時、各定義間のリンクを自動設定します。							
選択 ※ 1	システムで用意された選択肢や、事前に各定義編集で定義した内容を、一覧表示さ							
	せ選択します。							
<u>選択(F4)</u> ※ 1	Excel ファイルのシート名を一覧表示から選択します。							
権限レベル 選択(F4) ※ 1	権限レベル(サーバで登録したグループ番号)を設定します。							
定義名 選択(F4) ※ 1	Excel ファイルに登録した名前定義名を一覧表示から選択します。							
運用ブック 選択(F4) ※ 1	あらかじめ登録した Excel ファイル名を一覧表示から選択します。							
検索 (F5)	定義編集エリアに検索したい文字がある時にクリックします。							
有効 無効	定義した行を実行したくない時、有効/無効 を指定することができます。							
	無効になると、行の背景色が緑になり、「定義有効無効フラグ」欄に「無効」が設							
	定されます。							
表示	ボタン定義に定義されたボタンが、実行画面で表示された時のイメージを							
	ボタンプレビュー画面として表示します。							
	ボタンプレビュー画面の左端にある [閉じる] ボタンをクリックすると、ボタンプ							
(22-10)	レビュー画面が閉じます。							
<u> 並び</u> 替え	定義シートの内容を、入力順か既定の並び順に、並び替えます。							
	既定の並び順は、定義シートごとにあらかじめ決められています。							
フィルター	定義シートのフィルター機能を ON/OFF に切り替えます。							
挿入	任意の位置に、行を挿入します。							
削除	任意の行を削除します。							
	削除の対象になると、行の背景色が赤になります。							
チェック	定義シートの内容についてエラーがないかチェックします。							
	チェック方式として「完全チェック」と「クイックチェック」を選べます。 							
	※シートを切り替える時や、保存する時にも自動的にエラーをチェック							
DIL	します。							
切替切替	「ツリー表示エリア」と「メニュー・ツリー表示」の表示を切り替えます。							
IO TG	IOTG(アイオーティージー)機能を起動します。							

※1:処理によって、表示するボタン名が変更されます。





▼下段

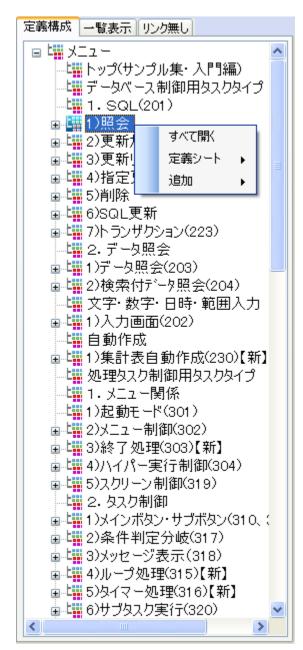
ボタン	機能
能型 (F12)	選択した行の詳細定義内容を、縦型で表示します。
取消	上記の[縦型]ボタンで、縦型表示状態で定義編集をした時に、編集
	した内容データを取り消します。
選択欄	選択肢があらかじめ用意されている設定項目上にカーソルが位置づけ
	られた時にリスト表示されます。(F4 キー利用)
編集欄	定義編集シートエリアの各フィールドに入力または入力した内容の
	表示を行います。





4.3.2. ツリー表示エリア

定義情報の階層構造(従属関係)をツリー形式で表示します。

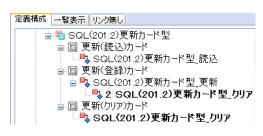


■定義情報が太字で表示されている定義

は、複数(2箇所以上)の場所から

利用(指定)されている定義情報を

意味します。(下記の表示例参照)



- ■定義情報をクリックすると、定義情報の 詳細が、定義編集シートエリアに表示されます。
- ■定義情報を右ボタンでクリックすると、 メニューが表示されます。

①すべて開く

定義情報から呼び出された全ての情報を 表示します。

+マークは、-マークになります。

すべて閉じる (クリックした定義情報 が開いている時に表示)

定義情報から呼び出された全ての情報を 非表示にします。

ーマークは、+マークになります。

②定義シート

定義編集シートエリアの表示を切り替えます。指定した定義情報によって、詳細メニューの内容が変わります。 ※詳細については、『第2部 4.4 定義編集のシート切り替え方法』を参照してください。

③追加

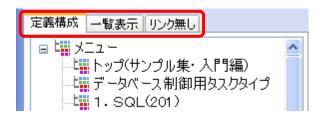
呼び出す定義を新規に作成します。 指定した定義情報によって、詳細メニューの内容が変わります。(下表参照)

	メニュー定義	前タスク	後タスク	ボタン定義	タスク定義	クエリー定義	展開定義
メニュー定義	0	0	0	0			
ボタン一覧定義				0			
ボタン定義				0			
タスク定義					0		
クエリー定義						0	
展開定義							0





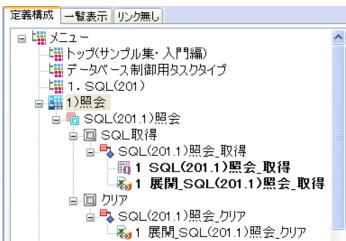
ツリー表示エリアは3つのタブで表示形式を切り替えます。



◆**定義構成タブ・・・・**メニュー定義 を先頭にして次の定義の順に表示します。

メニュー定義、ボタン一覧定義、ボタン定義、タスク定義、 クエリー定義、展開定義(クエリーと展開は最下行の

チェックボックスにより表示/非表示の切り替えが可能です。)



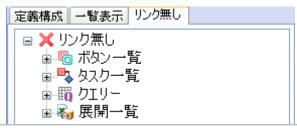
◆一覧表示タブ・・・・次の一覧について表示します。

DB、DB運用、ブック、ブック運用、開始終了、ボタン一覧、 タスク一覧、クエリー、展開一覧



◆リンク無しタブ・・・どこからも呼ばれていない定義を表示します。

ボタン一覧、タスク一覧、クエリー、展開一覧





ツリーのアイコンは、それぞれ次の定義を現しています。



■最下行のボタンとチェックボックス

再描 ・・・・ツリーを再表示します。

■ タスク配下のクエリーと展開の表示 ・・・タスク配下のクエリーや展開の表示を切り替えます。

例) クエリー・展開を表示しない



クエリー・展開を表示する



- ←・・・・ツリー表示エリアの幅を最小にします。
- →・・・・ツリー表示エリアの幅を元のサイズにします。

4.3.3. メニュー・ツリー表示

ボタンにより、ツリー表示エリアを「メニュー・ツリー表示」に切り替えます。

メニュー定義では、この部分の表示がメニューのプレビュー表示になります。







4.3.4. 定義編集シートエリア

各定義シートの定義内容を編集するエリアです。 Excel と同じような操作性が提供されています。

響う をクリックすると、横方向に定義している内容を、縦方向に表示します。再度、クリック すると元に戻ります。



▲横方向の編集表示



▲縦方向の編集表示





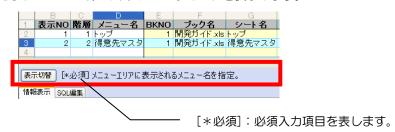
表示切替

「定義編集シートエリア」と「情報表示/SQL編集エリア」との分割の仕方を 上下分割か左右分割に切り替えて表示します。



ガイダンスメッセージ

入力セルについて、ガイダンスメッセージを表示します。



画面移動ボタン

▼定義編集シートエリアを移動するためのボタンです。

ボタン	機能	ボタン	機能
<u>«</u>	左端の列に移動します。		最初のデータ行へ移動します。
<	1ページ分、左へスクロール		1ページ分、スクロールアップ
	します。		します。
>	1ページ分、右へスクロール	▽	1ページ分、スクロールダウン
	します。		します。
>>	右端の列に移動します。	T	最後のデータ行へ移動します。





4.3.5. 情報表示/SQL編集エリア

[情報表示エリア] 保存時または入力チェック時にエラーや警告のメッセージを表示します。 エラーメッセージにエラー位置(定義編集のアドレス)を表示します。 そのアドレスをダブルクリックすると、当該アドレスにジャンプします。



[SQL 編集エリア] クエリー定義シート編集時のみ、SQL 文の表示および編集ができます。

[クエリー実行] ボタン・・「SQLテスト実行」を、実行します。

[書込] ボタン・・・・・「SQL編集」の内容を、

「定義編集シートエリア:SQL文」のセルに 転記します。







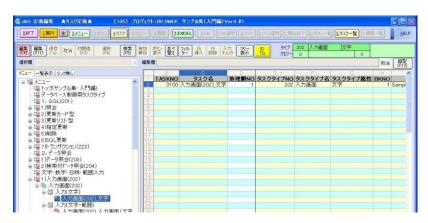
4.4. 定義編集のシート切り替え方法

定義編集のシートを切り替えるには、次の3つの方法があります。

- ツリー表示エリアの定義情報をクリックする。
- ツリー表示エリアの定義情報を右ボタンでクリックする。
- アクティブ表示の定義編集ボタンをクリックする。

4.4.1. ツリー表示エリアの定義情報をクリックする

▼ツリー表示エリアの定義情報をクリックすると、定義情報の詳細が、 定義編集シートに表示されます。



タスク定義情報 ⇒ タスク定義シート





4.4.2. ツリー表示エリアの定義情報を右ボタンでクリックする

ツリー表示エリアの定義情報を右ボタンでクリックすると、メニューが表示されます。

「定義シート ▼」を選ぶと、定義編集シートエリアの表示を切り替える定義の一覧が表示されます。



▼指定した定義情報によって、詳細メニューの内容が変わります。

	メニュー定義	ボタン一覧定義	ボタン定義	タスク一覧定義	タスク定義	クエリー定義	展開一覧定義	展開定義
メニュー定義	0		0		0	0		0
ボタン一覧定義		0	0		0			
ボタン定義		0	0		0			
タスク定義				0	0	0		0
クエリー定義						0		0
展開定義							0	0





4.4.3. アクティブ表示の定義編集ボタンをクリックする

アクティブ表示の定義編集ボタンをクリックすると、目的の定義シートが表示されます。 作業中の定義編集ボタンは当該ボタンの外周を赤色表示し、当該ボタンの名称も赤色文字で表示します。

ツリー表示エリアに表示されているメニューをクリックすると、メニューに関連付けられている 定義編集ボタンが有効表示されます。

- 例)メニュー定義シート ⇒ ボタン定義シート
- ① メニューから「1)入力画面(202)」を選択します。



- ② 関連付けられた編集定義ボタンが有効になります。
- ③ [3.ボタン] をクリックするとボタン定義編集になります。



- ④ さらに入力画面シートに移ると、入力画面シートから定義可能な編集ボタンが有効表示になります。
- ※ 関連付けられた定義編集ボタンをクリックして編集シートを切り替えた時、[O.終了] ボタンが [O.戻る] ボタンに切り替ります。各シートの編集を終了する時は [O.戻る] ボタンで終了します。





4.5. 定義シート編集保護解除方法

▼定義編集シートを切り替えた直後には、編集保護の状態になっています。



■解除の方法

(標準)をクリックすると、定義編集できるようになります。

響かができる。 になり、編集シートの設定項目行が灰色表示から黄色表示に切り替わります。



■保護の方法

をクリックすると、定義編集できないようになります。

[編集] になり、編集シートの設定項目行が黄色表示から灰色表示に切り替わります。





4.6. 定義シートの操作ボタン説明

編集作業では、定義シートのセルに、必要な情報を設定します。 必要な情報を簡単に設定するためには、ボタンを使用します。

ボタンの使い方について、次項より説明します。

4.6.1. 終了ボタン ①終了

定義編集を終了し、開発版メイン操作画面に戻ります。

定義内容に変更がある場合は、確認のダイアログが表示されます。



[保存]・・・変更内容を保存します。定義編集を終了し、開発版メイン操作画面が表示されます。

[廃棄]・・・変更内容を破棄します。定義編集を終了し、開発版メイン操作画面が表示されます。

[戻る]・・・定義編集画面に戻ります。





4.6.2. 選択/参照ボタン

選択 (F4) 権限レベル シート名 定義名 選択(F4) 選択(F4)

設定項目には、あらかじめ選択肢が用意されています。その時は、選択/参照ボタンがアクティブになります。ファンクションキー[F4]に、割り当てられています。(以降 F4 ボタンと略します)

F4 ボタンには選択/参照に分類され、「選択」「権限レベル」「シート名参照」「定義名参照」となります。 dbSheetClient があらかじめ用意した内容では、「選択」が表示されます。

Excel ファイルに、任意で設定した名称(シート名、名前)などの内容では、「参照」が表示されます。

以下に、例を示します。

◆ 選択

設定項目 [タスクタイプ NO] にカーソルを位置づけると、 が表示されます。





F4 ボタンをクリックすると、dbSheetClient が用意した タスクタイプ NO の一覧を表示します。

一覧から項目を選択します。



◆ 参照

設定項目 [シート名] にカーソルを位置づけると、 されます。



が表示



F4 ボタンをクリックすると、ユーザが用意した Excel のシート名一覧を表示します。

一覧から項目を選択します。







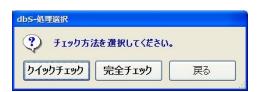
4.6.3. 入力チェックボタン

定義編集した内容について、エラーをチェックするボタンです。

dbSheetClient は、保存する時、もしくは別シートへの切り替え時等、自動的にエラーチェックを 実行します。

その他に、ユーザが任意のタイミングでエラーチェックを行うことができます。

[入力チェック] ボタンをクリックすると、以下のダイアログが表示されます。



[クイックチェック]・・・修正部分についてチェックします。

[完全チェック]・・・・全体についてチェックします。

[戻る]・・・・・・・・定義編集画面に戻ります。

エラーがない場合は、次のメッセージを表示します。 「エラーは見つかりませんでした。」



エラーがある場合は、次のメッセージを表示します。 「エラーがあります。詳細は情報表示を参照して下さい。」



エラーメッセージに、エラー位置(定義編集のアドレス)を表示します。そのアドレスをダブルクリックすると、エラー位置にジャンプします。



エラー箇所の修正を行い、再度、[**入力チェック**] ボタンをクリックしてください。





4.6.4. 全ボタン 🚊 / 🖹

◆ 全ボタン OFF (灰色表示) 全

ツリー表示エリアで選んだ定義情報に関連付けされている内容だけを表示します。

定義編集画面に切り替わった時のデフォルトは、全ボタンは OFF(灰色表示)の状態になります。



◆ 全ボタン ON(黄色表示) 🖆

定義編集ボタンで選択されている定義(下記画面の場合タスク定義)のすべての定義情報の 内容を表示します。







4.6.5. Excel ZEXCEL

メニュー定義、タスク定義、クエリー定義、展開定義等で、処理対象としている Excel ファイルを 別ウインドウで表示します。

※Excel ファイルを閉じる時は、別ウインドウの Excel から閉じてください。

4.6.6. フォント



定義編集シートの文字の大きさを指定します。

8ポイントから、24ポイントまで変更できます。



▲8ポイントの場合

	В	C	D	E 🖎		
1	表示NO	階層	メニュー名	BKN		
2	10	1	トップ(サンプル集・入門編)			
3	20	2	データベース制御用タスクタイ	プ		
4	100	3	1. SQL(201)			
5	110	4	1)照会			
6	120	4	2)更新カード型			
7	130	4	3)更新リスト型			
8	140	4	4)指定更新			
9	150	4	5)削除			
10	160	4	6)SQL更新			
11	170	4	7)トランザクション(223)			
12	200	3	2. データ照会			
13	210	4	1)データ照会(203)	~		
表示切替 ブック運用定義のBKNOを選択もしくは入力。 《〈>〉》 ▲△▽▼						

▲24ポイントの場合





4.6.7. ヘルプメニュー

<u>H</u>ELP

定義編集画面の右上の [HELP] ボタンをクリックすると、ヘルプメニューが表示されます。

1.オンラインヘルブ

2パージョン情報

3.デバッグ用メッセージ表示

4.SQLテスト実行

5.データ保守定義

6.かな漢字変換ON

7.かな漢字変換自動制御

~

8.初期值入力画面表示

9.タスク定義の固定位置変更

◆ 1.オンラインヘルプ

オンラインヘルプを表示します。

弊社サーバに随時最新の技術情報をアップしています。本書と合わせて参考にしてください。 特にオンラインヘルプには本書の重要事項の抜粋として、各画面の操作方法や、定義シート別の 設定項目、タスク定義で必要となるタスクタイプの一覧と設定項目についての記載などがあります。



▲オンラインヘルプのメイン画面





◆ 3.デバッグ用メッセージ表示

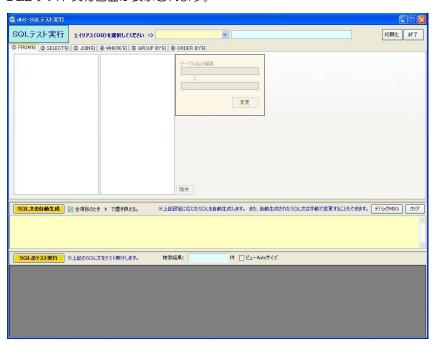
デバッグ用メッセージ画面が表示されます。



詳細は、『4.2.2 タスク実行時のエラー画面』を参照してください。

◆ 4.SQLテスト実行

SQL テスト実行画面が表示されます。



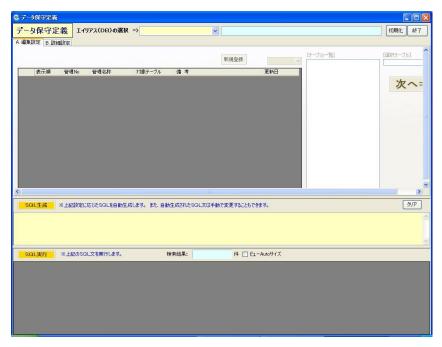
詳細は、『『第2部 6.2 SQLテスト実行』を参照してください。





◆ 5.データ保守定義

データ保守定義画面が表示されます。



詳細は、『8.2 データ保守定義の登録』を参照してください。

◆ 6.かな漢字変換ON

かな漢字変換をONにします。

◆ 7.かな漢字変換自動制御

かな漢字変換のON/OFFの切り替えを、自動(ON)または手動(OFF)に設定します。 「手動切替」の時、セルに文字を入力している途中で、手動でかな漢字変換のON/OFFを切り 替えても、次のセルでは、前のセルの初めの状態(かな漢字変換のON/OFF)と同じになります。

◆ 8.初期値入力画面表示

ONの時、タスク定義画面や展開定義画面で、 をクリックすると、管理番号と名称を

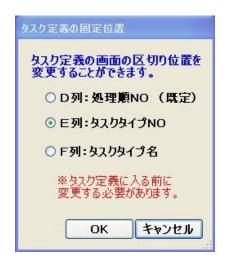






◆ 9.タスク定義の固定位置変更

タスク定義の画面の区切り位置を変更することができます。



D列:処理順NO(規定)E列:タスクタイプNOF列:タスクタイプ名

上記の中で設定ができます。

※ タスク定義に入る前に変更する必要があります。





4.7. 各定義の編集方法

各定義の編集方法について説明します。

各定義の設定項目と内容については、オンラインヘルプに記載していますので、本書と合わせて 参考にしてください。

■ データベース定義・・・・・・	<u>8</u> .DB
■ DB 運用定義・・・・・・・・	9.DB運用
■ ブックファイル定義・・・・・	A.ブック
■ ブック運用定義・・・・・・・	Bブック運用
■ メニュー定義・・・・・・・・	2.4_1-
■ ボタン定義・・・・・・・・・	<u>3</u> ボタン
■ タスク定義・・・・・・・・・	4 タスク
■ クエリー定義・・・・・・・	5.クエリー
■ 展開定義・・・・・・・・・・	6.展開
■ 開始終了定義・・・・・・・・	C開始終了
■ ボタン一覧定義・・・・・・・	Dボタン一覧
■ タスクー覧定義・・・・・・・	Eタスク一覧
■ 展開一覧定義・・・・・・・	E.展開一覧





4.7.1. データベース定義

8.DB

プロジェクトで利用するデータベースの接続情報を定義します。

- データベース情報を取得します。データベース情報とは、サーバ版のデータベース登録で設定された情報を指します。
- ・定義されたデータベース情報を、クエリー定義で参照します。
- ◆ サーバシステムでの事前登録のあるエイリアスを設定する場合[データベース] [編集(F11)] [エイリアス名] [エイリアス参照(F4)]

データベース定義の編集に入ると初期値でカーソルが設定項目:エイリアス名に位置しています。 同時に が有効になっています。ここで、エイリアス名を指定します。

※サーバシステムで事前の登録が必要です。詳細は『サーバ版操作マニュアル』を参照してください。

◆ サーバシステムでの事前登録がないエイリアスを設定する場合〔データベース〕- [編集(F11)〕- 各設定項目の個別入力

※データベース接続にはパスワードの設定が必要な場合があります。 パスワードを設定した場合は、忘れないように管理してください。

	A	В	C	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	DBMS		*	SQLSV
	エイリアス名		*	SampleDB
4	場所			Local
5	サーバ名		*	^SYS_PcName^¥SQLEXPRESS
	認証区分			
7	データベース名		*	Sample DB
8	DBMSバージョン			SQLSV2005
9	接続文字			
10	スキーマ			
	ポート番号			0
12	ユーザID			
13	バスワード			
14	コメント 欄			

▲データベース定義画面 (縦型表示画面)



項目名				内 容		
DBNO	データベース接続情報を管理する番号です。					
DBMS	DBMS(データベース管理システム)の種類を設定します。			システム)の種類を設定します。		
選択 (F4)		選択肢		DBMS		
	SQLS		:	SQLサーバ		
		ORACLESV	(ORACLEサーバ		
		DB2SV		OB2サーバ		
		i DB2SV	1	OB2サーバ(i シリーズ)		
		SYBASESV	:	SYBASEサーバ		
		SALESFORCE	SV	SALESFORCESV サーバ		
エイリアス名	デー	-タベースを参照す	する時に	分かりやすいように、名前を設定します。		
エイリアス 選択(F4)	選択	R(F4)ボタンをクリ	Jックs	「ると、サーバ版で登録したデータベース接		
	続情	録が表示されます	す。また	、選択時にすべてのデータベース接続情報		
	を取	得します。				
			選択(F4)ボタンは無効になりますので注意して		
		(ださい。 				
場所	利用	目するデータベースサーバを設定します。				
選択 (F4)		選択肢		意 味		
		dbSServer		SheetClient サーバ版の管理下のデータベー		
		1 1	ースサ	· ·		
		Local		「るPCまたはローカルLAN上のデータ 」サーバ		
サーバ名	利田	ヨするデータベース				
認証区分		-タベースの認証が				
選択		フト スの高品/ DBMS=SQLSV」				
447		選択肢	意味			
		Windows 認証		Windows のユーザアカウントで		
		WIII ICOVVS DIMBLE		SQLServer に認証します。		
		SQL 認証		SQL Server 固有のユーザアカウント		
				で認証します。		
データベース名	利用]するデータベース	スを設定	とします。		
		DBMS		データベース名		
		MSSQL		データベース名		
		ORACLE	-	TNSサービス名		
		DB2	(ODBC名のシステムDSN		
		SYBASE	=	データベース名		
		salesforce_ser	ver (ODBC名のシステムDSN		
		0410010100_001	¥ O			





項目名			内容	3	
DBMSバージョン	利用	するデータベースを設定	します。		
選択 (F4)		選択肢		DBMS	
		SQLSV2008	SQL Se	erver 2008	
		SQLSV2005	SQL Se	erver 2005	
		SQLSV2000	SQL Se	erver 2000	
		ORACLE11g	Oracle	11g	
		ORACLE10g	Oracle	10g	
		ORACLE9i	Oracle	9i	
		DB2 Win9.5	DB2 9.	5 for Windows	
		DB2 iSeries6.1	DB2 6.	1 for iSeries	
		DB2 iSeries5.4	DB2 5.	4 for iSeries	
		DB2 iSeries5.3	DB2 5.	3 for iSeries	
		DB2 iSeries5,2	DB2 5.	2 for iSeries	
		DB2 iSeries5.1	DB2 5.1 for iSeries		
		Sybase Ase 15.0.3	Sybase Ase 15.0.3		
		Sybase Ase 15.0.2	Sybase Ase 15.0.2		
		Sybase Ase 15.0.1	Sybase Ase 15.0.1		
		Sybase Ase 12.5.3	Sybase Ase 12.5.3		
		Open Access For ODBC 1.5	Open A	Access For ODBC 1.5	
接続文字	サーバに接続するための接続名を設定します。			します。	
スキーマ	スキ	ーマが必要な時に設定し	<i>,</i> ます。		
ポート番号	ポー	-ト番号が必要な時に設定	!します。		
ユーザID	ュー	-ザIDが必要な時に設定	します。		
パスワード	パフ	スワードが必要な時に設	定しま	© dbSheetClient (パスワード設定) データベースに接続するためのパスワードと	
パスワード 入力(F4)	す。	入力(F4)をクリックする	らと、パ	データベースに接続するためのパスワードと 接続タイムアウト時間を入力してください。 パスワード:	
	スワ	ワード設定ダイアログが表	示され	※パスワードは暗号化されてセットされます。 接続タイムアウト 時間: ***********************************	
	ます	τ.		※接続タイムアウト時間を入力してください。 指定した時間を越えると、データベースとの接続が切断されます。	
				OK キャンセル	
		【パスワード設定】	フード設定】 		
		入力項目	内 容		
		パスワード	入力されたパスワードは暗号化されま す。		
		接続タイムアウト	データ/		
		時間	間を変更する場合は、その時間を秒単位		
				ンます。 ※MSSQL のみ可能	
コメント欄	_>	L ベントを入力します。(最z	大文字数:	半角 512 文字)	





※ローカルの「SQL Server 2005 Express」に Windows 認証で接続する場合には、 DB サーバ名は、通常デフォルトでは、次のように指定します。

{コンピュータ名} ¥SQLEXPRESS

ただし、コンピュータ名はユーザごとに変わるため、「dbS_パラメータ」シートの「^SYS_PcName^」を利用して、以下のように設定します。

^SYS_PcName^¥SQLEXPRESS

このように設定にすると、実行する時に、自動的に ^SYS_PcName^ を、 {コンピュータ名} に変換します。

「dbS_パラメータ」シートの詳細は、『第1部 1.3.3 パラメータシート』を参照してください。

・DBMS(データベース管理システム)の種類 SALESFORCESV サーバは、オプションになります。

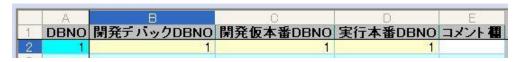




4.7.2. DB運用定義

9.DB運用

プロジェクトで利用するデータベースの切り分けを定義します。

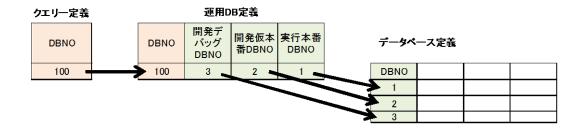


▲DB運用定義画面

項目名	内 容		
DBNO	データベース運用定義を管理する番号です。		
開発デバックDBNO	開発版の「開発編集及びデバッグ実行」の時に利用するデータベースを		
DB 選択(F4)	指定します。		
開発仮本番DBNO	開発版の実行ボタンから実行する時に利用するデータベースを指定し		
DB 選択(F4)	ます。		
実行本番DBNO	実行版の実行ボタンから実行する時に利用するデータベースを指定し		
DB 選択(F4)	ます。		
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)		

クエリー定義、運用 DB 定義、データベース定義が下図のように定義されている時の関連を矢印で示しています。

クエリー定義の「DBNO」が「100」番で、環境が「開発デバッグ」の時には、データベース定義の「3」を利用します。また、環境が「実行本番」の時には、データベース定義の「1」を利用します。







4.7.3. ブックファイル定義 ^{Δブック}

プロジェクトで利用する Excel ブックを定義します。

- ・Excel ブック名や、Excel ブックの存在するアドレス(リンク先)を設定します。
- ・各定義シートで、ブック名、BKNO、シート名などを参照します。

	A	В	0	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	ブック名		ж	SampleタスクタイプV4.xls
3	ブック保護有無			
4	ブック読込解除PW			
5.	ブック書込解除PW			
6	ホスト指定			
7	リンク先			C:¥dbSheetClient¥Sample
8	コメント 櫚			

▲ブックファイル定義画面(縦型表示画面)

項目名	内容				
BKNO	利用するブックファイルを管理する番号です。自動で採番されます。				
プック名	利用するブックのファイル名です。				
EXCEL 選択(F4)	選択(F4)をクリッ	クすると、ファイル選択ダイアログが表示されます。			
ブック保護有無 選択 (F4)	保護されているブックファイルを利用するためのパスワードを設定します。				
ブック読取解除PW	読取を解除するパ	スワードを設定します。			
ブック書込解除PW	書込を解除するパス	スワードを設定します。			
ホスト指定	リンク先(ブックファイルが存在するフォルダのホストのタイプを設定しま				
選択 (F4)	す 。				
	選択肢	意味			
	ネットワーク	ローカル PC や公開されたサーバのフォルダパスの指			
		定を表します。(規定値)			
	URL ローカル PC より Web 形式でサーバのフォルダ の指定を表します。				
	DBSサーバ	サーバ版が読み取り可能なサーバのローカルや公開さ			
		れたサーバのフォルダパスの指定を表します。			





項目名	内容					
リンク先	ブックファイルが存在する場所を設定します。					
	リンク先	意味				
	ネットワーク	ローカル PC から参照するブックファイルのフォルダ				
		パス名を指定します。				
		例)"c:\temp\temp\temp\temp\temp\temp\temp\temp				
	URL	Web 形式のフォルダパス名を指定します。				
		例)"http://server2/a001/"				
	DBSサーバ	サーバ版が参照するブックファイルのフォルダパス名				
		を指定します。				
		例)"C:\fidesClient\fidesClient\fide\Project\fidesAPPL\fides"				
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)					

※Excel ブックへの「dbS_パラメータ」シートの自動挿入について

dbSheetClientでは、データベースからデータを取得するSQL文にExcelシート (「dbS_パラメータ」シート)上にある文字列や数値をパラメータとして利用できます。この「dbS_パラメータ」シートがないブックファイルを選択した時は、自動的にシートが挿入されます。

「dbS_パラメータ」シートの詳細は、『第1部1.3.3 パラメータシート』を参照してください。





4.7.4. ブック運用定義

B.ブック運用

プロジェクトで利用する Excel ブックファイルの切り分けを定義します。



▲ブック運用定義画面

項目名	内 容
BKNO	データベース運用定義を管理する番号です。
開発デバックBKNO	開発版の「開発編集及びデバッグ実行」の時に利用する Excel ブックを
EXCEL 選択(F4)	指定します。
開発仮本番BKNO	開発版の実行ボタンから実行する時に利用する Excel ブックを指定し
EXCEL 選択(F4)	ます。
実行本番BKNO	実行版の実行ボタンから実行する時に利用する Excel ブックを指定し
EXCEL 選択(F4)	ます。
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)

メニュー定義、運用ブック定義、ブックファイル定義が下図のように定義されている時の関連を矢印で示しています。

メニュー定義の「BKNO」が「100」番で、環境が「開発デバッグ」の時には、ブックファイル定義の「3」を利用します。また、環境が「実行本番」の時には、ブックファイル定義の「1」を利用します。







4.7.5. メニュー定義 2メニュー

プロジェクトで表示するメニューを定義します。

・メニュー毎に実行するタスクやボタンを関連付けます。

※このメニュー定義を起点として、関連の定義を開発していきます。

	A	В	C	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	表示NO		*	10
3	階層		*	1
4	メニュー名		*	トップ(サンブル集・入門編)
5	BKNO			1
6	ブック名			SampleタスクタイプV4.xls
7	シート名			メニュー
8	TASKNO			0
9	BSNO			0
1.0	後処理TASKNO			0
11	ノードを開く			ALL
12	権限レベル			0
13	定義有効無効フラグ			
14	リンク先			C:¥dbSheetClient¥Sample
15	コメント 欄			

▲メニュー定義画面(縦型表示画面)

◆ ツリー表示エリアの操作

「ツリー表示エリア」のメニュー項目をクリックすると、定義編集エリアの該当する行にカーソルが位置づけられます。また、定義編集エリアの行をカーソルでクリックすると、「ツリー表示エリア」の該当するメニューの位置にカーソルが位置づけられ、薄いグレーの背景色になります。



▲「1. SQL (201)」に位置付けた例

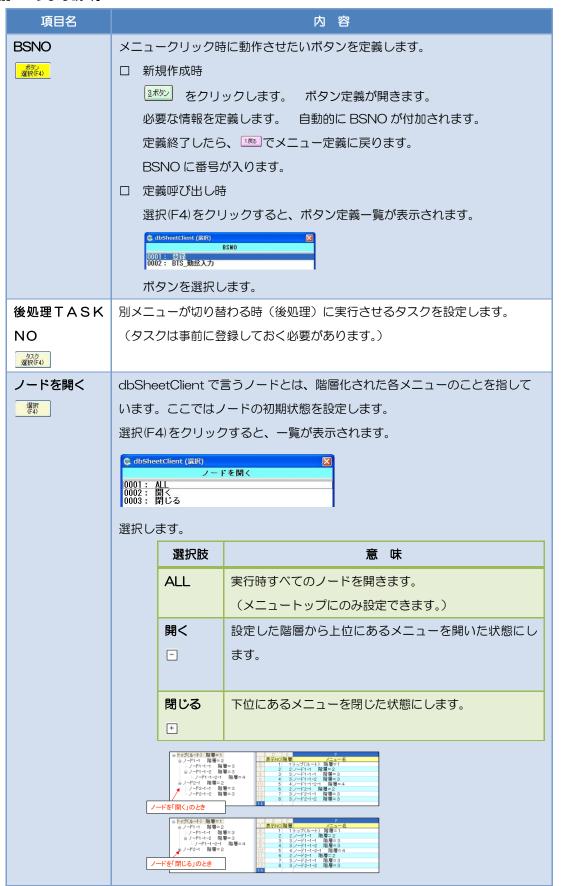




項目名	内容
表示NO	メニューは定義された表示 No 順(昇順)に並びます。
	自由に設定できます。飛び番号でも設定できます。
階層	ツリー構造で表示するための情報を設定します。
	必ず 1 から始まり 2・3・4…の順番に、10 階層まで設定が可能です。
	2・4・7 と飛び番号での設定はできません。
メニュー名	表示するメニューの名前を設定します。
	自由に設定できます。
BKNO	ブック運用定義の「BKNO」を設定します。
運用ブック 選択(F4)	「O」(ゼロ)を設定すると、「リンク先」の定義を実行します。
	選択(F4)をクリックすると、運用ブック定義の運用ブック一覧を
	表示します。
ブック名	「BKNO」を設定すると、「ブック名」には、ブック定義の「ブック名」
運用ブック 選択(F4)	が表示されます。
	選択(F4)をクリックすると、運用ブック定義の運用ブック一覧を
	表示します。
シート名	メニューがクリックされた時、表示するシート名を設定します。
シート名 選択(F4)	選択(F4)をクリックすると、ブックファイルに設定されているシートー
	覧を表示します。
	また、「メニュー名」が空欄の場合、シート名が自動的に設定されます。
TASKNO	前処理として実行させるタスクを設定します。
タスク 選択(F4)	TASKNOはあらかじめ処理動作内容を登録しておくと効率よく定義が
	できます。
	ロ 新規作成時(TASKNO が空白または、"O"の時)
	49スク をクリックします。タスク定義画面が開きます。
	必要な情報を定義します。自動的に TASKNO が付加されます。
	定義終了したら、「駆」でメニュー定義に戻ります。
	TASKNO に番号が入ります。
	口 定義呼び出し時
	選択(F4)をクリックすると、タスク定義一覧が表示されます。
	© dbSheetClient (選択) TASKNO 0100: 属性マスタ取り込み 0200: 社員選択
	0100: 属性マスタ取り込み 0200: 社員選択 0300: 音球 0400: 日付選択 0500: 領域クリア 0500: 社員保守開始 0700: 属性保守開始 0900: 保守終了
	起動したいタスクを選択します。







【次ページに続く】





項目名	内容					
権限レベル	ログインユーザに対しメニュー実行の有無を設定します。					
権限レベル 選択(年4)	サーバに登録されているグループ管理番号を設定します。					
	設定されたグループに所属する全てのユーザに対して実行権限が					
	与えられます。					
	実行権限の無いメニューは、実行画面では薄いグレーの文字で					
	表示されます。					
	口 設定の方法					
	選択(F4)をクリックします。					
	権限レベルのサブウインドウが開き、権限レベルを設定します。					
	サブウインドウには、あらかじめ設定されているグループ権限が					
	一覧で表示されます。					
	© dbSheetClient (複数選択) 🗙					
	権限レベル(グルーブ名)					
	□ 1002: Manual作成作業					
	□ 1004: 開発体験					
	OK キャンセル					
	グループ名の左にチェックボックスがあります。					
	チェックボックスをクリックして定義します。					
	◆複数定義した場合は、チェックボックスにチェックを入れた					
	グループ名がカンマで区切られて設定項目の中に記載されます。					
	◆範囲定義する場合は、チェックボックスで始めと終わりの					
	グループ名をチェックします。設定項目に反映された後で、					
	カンマをハイフンに置き換えます。					
	◆全グループを定義する場合は、設定項目の欄を空白にします。					
定義有効無効フラグ	タスク定義の内容を有効か無効かの設定をします。					
選択 (F4)						
リンク先	「BKNO」に「O」(ゼロ)を設定した時、実行する内容を定義します。					
	例えば、ホームページの URL を記入すると、そのホームページを表示					
	します。					
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)					





4.7.6. ボタン定義

<u>3</u>.ボタン

タスクを起動するためのボタンを定義します。

- ・ボタンにはメインボタンとサブボタンがあります。メニュー毎にメインボタン、サブボタン、それぞれ 20 個ずつ定義できます。
- ボタンのスタイル指定やショートカットをファンクションキーに割り当てることができます。

	A	В	C	D
9	タイトル	サブ	*	内容
2	ボタンNO		*	1
3	ボタン名表示名		*	SQL取得
4	TASKNO			1100
5	タスク名			SQL(201.1)照会_取得
6	権限レベル			0
7	定義有効無効フラグ			
8	ガイダンス			SQL照会機能により商品マスタを読み込みます。
9	コメント 欄			
10	ボタンデ ザイン			白1
11	ボタンサイズW			0
12	ボタンサイズH			0
13	ファンクションキー			
14	フォント 名			
	フォントサイズ			0
16	フォントスタイル			太字
17	フォントカラー			黒

▲ボタン定義画面(縦型表示画面)





項目名	内容
BSNO	ボタン定義の管理番号です。
ポタン 選択(F4)	・ボタン一覧で登録されている管理番号:BSNO を設定する方法
	選択(F4)をクリックします。BSNO サブウインドウが表示されます。
	選択して [OK] をクリックすると BSNO が入力されます。
	※設定方法についてはメニュー定義の「BSNO」を参照してください。
ボタンNO	ボタンの表示位置や表示順を設定します。
	ボタンの表示エリアは以下のようになっており、メインボタンエリアと
	サブボタンエリアに分けられています。
	※同じ BSNO にメインボタンとサブボタンは混在できません。
	ボタンには、表示位置が割り当てられています。
	main-01 main-02 main-03 main-04 main-05 main-06 main-07
	main-11
	sub-01 sub-02 sub-03 sub-04 sub-05 sub-06 sub-07 sub-11 sub-12 sub-13 sub-14 sub-15 sub-16 sub-17
	メインボタン 1~10 は上段。 11~20 は下段。
	サブボタン 21~30 は上段。 31~40 は下段。
	※1、3、6と飛び番号で設定しても、詰めて表示されます。
	※ボタンの数やボタンサイズによりメイン/サブ
	のボタンが全て表示されない場合があります。 main-17 main-08
	右側の省略化ボタンをクリックすると残りのボ J K main-10
	タンをプルダウン表示します。
ボタン名表示名	ボタンに表示される名称を設定します。
TASKNO	ボタンクリック時に実行される処理動作を定義します。
タスク 選択(F4)	詳細は、メニュー定義の「TASKNO」を参照してください。
タスク名	TASKNOに該当するタスク名を表示します。
タスク 選択(F4)	
権限レベル	ログインユーザに対しメニュー実行の有無を設定します。
権限レベル 選択(F4)	詳細は、メニュー定義の「権限レベル」を参照してください。
定義有効無効フラグ	タスク定義の内容の有効/無効の設定をします。
選択 (F4)	
ガイダンス	ボタン上にカーソルが置かれた時に表示するガイダンスメッセージを
	設定します。
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)
ボタンデザイン	ボタン背景色を設定します。 省略時:白1
選択 (F4)	白1、赤1、黄1、青1、緑1、紫1、
	灰2、赤2、黄2、青2、緑2、紫2





項目名	内容
ボタンサイズW	ボタン幅を設定します。 省略時:5
選択 (F4)	1~7の段階で指定します。幅のサイズは、1:31 ピクセル、
	2:50 ピクセル、3:68 ピクセル、4:86 ピクセル、
	5:103 ピクセル、6:121 ピクセル、7:140 ピクセル。
ボタンサイズH	ボタン高さを設定します。 省略時:1
選択 (F4)	1~2の段階で指定します。高さのサイズは、
	1:25 ピクセル、2:30 ピクセル。
ファンクションキー	ボタン定義で設定されたボタンを、キーボード上のファンクションキー
選択 (F4)	に割り当ててショートカットとして利用することができます。
	選択(F4)をクリックします。
	ファンクションキーのサブウインドウが開き、ファンクションキーを設
	定します。
	設定できるキーは [F1] ~ [F12]、[Shift] + [F1] ~ [Shift] + [F12]
	の24 個です。
	例)[印刷] ボタンを作成し、[F1] キーを割り当てた場合、
	[F1] キーを押すと印刷が実行できるようになります。
	※誤って複数のボタンに、同じファンクションキーを割り当てた
	場合は、最後に割り当てたボタンが有効になります。
フォント名	文字のフォントを設定します。 省略時:「MS UI Gothic」
	dbSheetClient が提供するフォントはユーザの Microsoft Office で
	使用されている環境に依存します。
	フォント名は手入力してください。
フォントサイズ	文字のサイズ(ポイント)を設定します。 省略時:9
選択 (F4)	8、9、10、11、12、14、15、16。
フォントスタイル	文字のスタイル(標準、太字など)を設定します。 省略時:標準
選択 (F4)	標準、太字、斜体、太字斜体。
フォントカラー	文字の色を設定します。 省略時:黒
選択 (F4)	黒、青、赤、緑、黄、白。





4.7.7. タスク定義 4タスク

実行する機能を dbSheetClient が提供する関数を用いて定義します。

- ・dbSheetClient が提供する関数を「タスクタイプ」と呼んでいます。
- ・タスクタイプは、データベース制御、dbSheetClient 制御、Excel 制御に分類されています。

	A	В	C	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	TASKNO		*	1100
3	タスク名		*	SQL(201.1)照会 取得
4	処理順NO	i i	*	1
5	タスクタイプNO		*	
6	タスクタイプ名	1	*	
7	タスクタイプ属性			
8	BKNO	ľ	ж	1
9	ブック名		*	SampleタスクタイプV4_Plus.xls
10	シート名			
11	シート保護有無			
12	シート保護解除PW			
13				
14				
15	QNO			
16	クエリー名		-	
17	DNO			
18	処理条件判定セル	実行判定		
19	定義有効無効フラグ			
20				
21	画面名称			
22	セル指定属性			
23	汎用バラメータ1			
24	汎用バラメータ2			
25	汎用バラメータ3			
26	汎用バラメータ4			
27	汎用バラメータ5			
28				
29	汎用バラメータ7			
30	汎用バラメータ8			
31	汎用バラメータ9			
32	汎用バラメータ10			
33				
34				
35	汎用バラメータ13			
36	汎用バラメータ14			
37	汎用バラメータ15			
38				
39	汎用バラメータ17			
40	汎用バラメータ18			

▲タスク定義画面(縦型表示画面の例)

関数の機能(タスクタイプ)によって、必要な設定項目が変わってきます。 タスクタイプの詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「第2章 タスクタイプ(属性別)」』 を参照してください。





項目名	内 容
TASKNO	タスク定義を管理する番号です。メニューやボタンがクリックされた
<u>タフク</u> 選択(F4)	時に実行する TASKNO を設定します。
	詳細は、メニュー定義の「TASKNO」を参照してください。
タスク名	タスクに名前をつけることができます。
処理順NO	TASKNO ごとに定義される処理の順番を昇順に指定します。
	随時、順番を入れ替えることができます。
タスクタイプNO	dbSheetClient 提供の関数を指定します。
選択 (F4)	
タスクタイプ名	『タスクタイプ NO、タスクタイプ名の選択画面』
選択 (F4)	を参照してください。
タスクタイプ属性	タスクタイプごとに、各処理の実行モードを選択します。 ※1
タスク属性 選択(F4)	例)「201.SQL」のタスクタイプ属性
	© dbSheetClient (選択) タスクタイプ属性
	0001: 照会 0002: 更新
	0003: 指定更新 0004: 削除 0005: Sul.更新
BKNO	ブック運用定義に登録されている管理番号を設定します。
運用ブック 選択(F4)	
ブック名	「BKNO」を設定すると、ブック定義のブック名が表示されます。
運用ブック 選択(F4)	
シート名	Excel ブックのシート名を設定します。
<u>シート名</u> 選択(F4)	
シート保護有無	Excel ブックのシートにシート保護がかけられている時に、設定しま
選択 (F4)	す。保護がかけられているシートに対して保護を解除しないまま、デ
	ータの入力や、コピー、クリアなどの処理をおこなうとエラーになり
	ます。このため、保護の解除指定が必要となります。
	シート保護有りでパスワード設定している場合「シート保護解除 PW」
	の設定項目にパスワードを入力します。
	シートに保護をかけることによって、数式の保護や数式の内容を非表
	示にすることができます。
	また、Enter キーや TAB キーを使うと、入力可能なセルだけを自動
	的に選んでカーソル移動するようになります。
	dbSheetClient では「シート保護有無」が「有り」の時には、タスク
	処理の開始前に、シート保護を解除し、タスク処理の終了時にシート
	の保護を掛けなおします。
	セルの保護とシートの保護設定は、Excel のメニューの「書式ーセル
	ー保護」でセルにロックを設定した後、「ツールー保護ーシートの保護」
	で保護を設定します。保護する内容も細かく指定することができます。
	詳細は Excel の解説書で確認してください。





項目名	内容
シート保護解除PW	保護を解除するためのパスワードがある場合は、パスワードを設定し
	ます。
MNO	タスクタイプ「302. メニュー制御」で使用される設定項目で、
メーユー 選択(F4)	メニューをタスクから起動する時にメニューNO を指定します。
BSNO	タスクタイプ「311. サブボタン表示」、「403. シート切替」で
ボタン 選択(F4)	使用される設定項目で、サブボタンを表示する時に、表示したい
	ボタンセット NO (BSNO)を指定します。
QNO	クエリーを実行するためのタスクタイプが設定されている時、
クエリー 選択(F4)	クエリー番号を指定します。
	© dbSheetClient (選択)
	□ 新規作成時
	⑤クエリー をクリックします。クエリー定義が開きます。
	で をクリックします。新規のクエリーが設定されます。
	クエリー名に「MNU_ {メニュー名}」が入ります。
	任意の名前に変更することができます。
	クエリー名の設定と同時に、QNO の設定項目セルに自動採番
	で入力されます。
	[戻る] でタスク定義に戻ると QNO が設定されています。
	「クエリー名」も入力されます。
	□ 定義呼び出し時
	選択(F4)をクリックするとクエリー定義の一覧が表示されます。
	選択して [OK] をクリックすると QNO が入力されます。
	また、「クエリー名」も入力されます。
クエリー名	「QNO」を設定すると、「クエリー名」には、クエリー定義の
クエリー 選択(F4)	「クエリー名」が表示されます。
DNO	展開定義に定義されたDNOを設定します。
展開 選択(F4)	選択(F4)をクリックすると展開定義の一覧が表示されます。
bo TO 47 14 Marin I - u	選択して [OK] をクリックするとDNOが入力されます。
処理条件判定セル	タスクごとに 実行する/実行しない を制御するためのセルを
定義名 選択(F4)	指定します。
	セルの内容が、「実行する」(true)の時には実行し、「実行しない」 (felse)の時には実行せず、次のねるなに移ります。
完美方が無かつこど	(false) の時には実行せず、次のタスクに移ります。
定義有効無効フラグ	このタスク定義の内容を、有効にするか無効にするかの設定をします。
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)





項目名	内容						
画面名称	タスクタイプ「202. 入力画面」、「203. データ照会画面」、						
	「204.検索付データ照会画面」「205.検索付データ照会画面Ⅱ」						
	を実行した時に表示する画面の						
	タイトル名を入力します。						
	例)						
	"勤怠管理システム 日付入力画面" (省略時)						
	 ③ dbs-H付入力両面 ★キンセル 日付を入力してください。 キャンセル 2003年7月4日 ▼ ※日付の右の▼をかりっするとカレンダーが聞きます。 採用 						
セル指定属性	パラメータの設定の仕方を、「直接」、「間接」、「間接アドレス」から						
選択 (F4)	指定します。						
	直接・・・・・・・・定義内容をそのまま使用します。						
	間接・・・・・・・・定義内容にはセルを指定します。						
	指定セルに格納された内容(値)を使用します。						
	間接アドレス・・・定義内容にはセルを指定します。						
	指定セルにはさらにセル(アドレス)を指定します。						
	そのアドレスが示すセルに格納された内容(値)を						
	使用します。						
	※詳細は『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.7 セルのアドレ						
	ス指定について」』を参照してください。						
汎用パラメータ1~20	関数の機能(タスクタイプ)によって、必要な設定項目内容や項目数						
選択 (F4)	が変わってきます。※2						
開始判定セル	条件判定をおこなうためのセルを設定します。						
定義名 選択(F4)	タスクタイプ「317.条件判定分岐」、「318.メッセージ表示」、						
	「406. 印刷」の時に使用します。						
	開始判定セルの値は、O~1O の値に変化するように設定する必要が						
	あります。						
	※タスクタイプ「317. 条件判定分岐」についての詳細は、『開発版						
	テクニカルリファレンスマニュアル「2.1.6. タスクタイプ別の処理」						
	の④条件判定分岐を持つタスクタイプ』を参照してください。						
処理対象セル範囲	タスク処理の対象となるセル範囲を設定します。						
定義名 遂択(F4)	タスクタイプ「405. 一括入出力」、「411. クリア」、						
	「412. セル保護」、「418. 並べ替え」の時に使用します。						





項目名	内 容					
空白文字処理方法	データの前後の空白文字の処理方法を指定します。					
選択 (F4)	空白・・・・・・・・何もしません。					
	左削除(LTRIM)・・・データの前の部分を処理します。					
	右削除 (RTRIM)・・・ データの後の部分を処理します。					
	左右削除(TRIM)・・・データの前後の部分を処理します。					
ジャンプ先セル	ジャンプ先のセルを設定します。					
定義名 選択(F4)	タスクタイプ「403. シート切替」、「419. ジャンプ」で使用します。					
	タスク実行時に、指定したセルにジャンプします。					
TASKJUMPNO1	他のタスクをサブルーチンとして実行することができます。					
~10	タスクタイプ「317.条件判定分岐」、「320.サブタスク実行」、					
タスク 選択(F4)	「406. 印刷(直接印刷)」の時に使用します。					
開始時メッセージセル	タスクの開始時にメッセージを表示することができます。					
定義名 選択(F4)	メッセージを入力したセルを指定します。					
	※「開始時メッセージセル」と「開始時メッセージ」の両方に指定					
	されている場合には、「開始時メッセージセル」を優先します。					
開始時メッセージ	タスクの開始時にメッセージを表示することができます。					
	メッセージを直接入力します。					
	例)					
	1 開始時メッセージセル 2 開始時メッセージ 登録してよいですか?					
	■ dbSheetClient (確認) 図 登録してよいですか? [はい] を選択すると処理を開始します。 [いいえ] を選択すると処理をキャンセル します。 詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.3 開始メッセージについて」』を参照してください。					
正常終了時メッセージセ	タスクを正常に終了した時にメッセージを表示することができます。					
ル	メッセージを入力したセルを指定します。					
定義名 選択(F4)	詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.4 正常終了メッセージについて」』を参照してください。					





項目名	内容						
正常終了時メッセージ	タスクを正常に終了した時にメッセージを表示することができます。						
	メッセージを直接入力します。						
	例)						
	3 正常終了時メッセージセル 正常終了時メッセージ 4 正常終了時メッセージ 正常に登録できました。						
	■ dbSheetClient (区 正常に登録できました。						
エラー判定セル	エラーが発生した時にシステムが標準出力するメッセージを格納する						
定義名 選択(F4)	ための Excel シートのセルを指定します。						
	▼注意						
	①エラー内容をもとにして、開発者がその後のエラー処理を設定する						
	必要があります。						
	②保護しているシートに対しては、メッセージを格納できませんの						
	で、別のシートを指定するようにします。または、保護の制御を指定						
	するようにします。						
	詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.5 エラー処理に						
	ついて」』を参照してください。						
エラー発生時の処理指定 _{選択}	エラーが発生した時に、その後の処理をどのようにするかを						
選択 (F4)	設定します。 中断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	中断・・・・・・・・・・・ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	本初・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・						
	エラータスク実行継続・・エラータスクを実行後に、継続して処理を						
	実行します。						
エラーメッセージセル	タスクのエラー発生時にメッセージを表示することができます。						
定義名 進択(F4)	メッセージを入力したセルを指定します。						
	※「エラーメッセージセル」と「エラーメッセージ」の両方に指定						
	されている場合には、「エラーメッセージセル」を優先します。						
エラーメッセージ	タスクのエラー発生時にメッセージを表示することができます。						
	メッセージを直接入力します。						
	例)						
	7 エラーメッセージセル 8 エラーメッセージ エラーが発生しました。						
	■ dbSheetClient (確認) エラーが発生しました。 OK						





項目名	内 容
エラー処理TASKNO	エラーが発生した時に実行させるタスク NO を設定します。
キャンセルエラー有無 選択 (F4)	キャンセルメッセージを表示したい時には、「有り」を設定します。 「有り」の場合、[キャンセル] をクリックすると、「キャンセルメッセージセル」または「キャンセルメッセージ」で設定されている キャンセルメッセージを表示します。 詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.6 キャンセル処理について」』を参照してください。
キャンセルメッセージセ ル <u></u> (議論)	キャンセルのメッセージを表示することができます。 メッセージを入力したセルを指定します。 ※「キャンセルメッセージセル」と「キャンセルメッセージ」の 両方に指定されている場合には、「キャンセルメッセージセル」を 優先します。
キャンセルメッセージ	キャンセルのメッセージを表示することができます。 メッセージを直接入力します。
キャンセル発生時の処理 指定 選択 (F4)	キャンセルが発生した時に、その後の処理をどのようにするかを 設定します。 中断・・・・・・・処理を中断します。 継続・・・・・・継続して処理を実行します。 キャンセルタスク実行・・キャンセルタスクを実行後に、処理を中断 します。 キャンセルタスク実行継続・・キャンセルタスクを実行後に、継続して 処理を実行します。
キャンセル処理TASK NO	キャンセルが発生した時に実行させるタスク NO を設定します。

※1:詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「第2章 タスクタイプ(属性別)」』 を参照してください。





- ◆タスクタイプ NO、タスクタイプ名の選択画面
 - ▼ **300** において表示するタスクタイプ選択の一覧画面



※タスクタイプ NO とタスクタイプ名の全体一覧は、『第1部3.3.5 タスク定義の設定』の「タスクタイプの機能別分類表」を参照してください。





4.7.8. クエリー定義 5.クエリー

データベースにアクセスするための SQL文 を定義します。

データベース (SQL Server、ORACLE等) に応じたネイティブなSQL文の記述や、 ストアドプロシージャを実行できます。

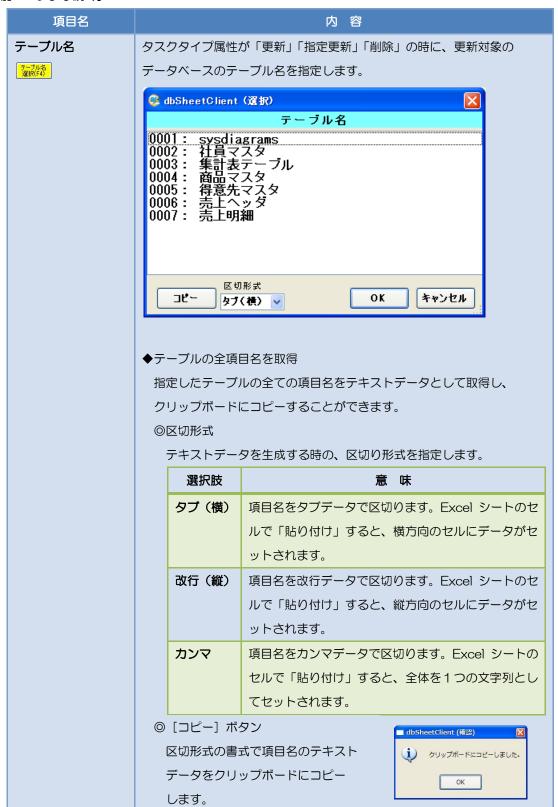
	A	В	C	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	クエリー名		*	SQL(201.1)照会_取得
3	クエリータイプ		*	照会
4	クエリー属性	(2	*	Query
5	DBNO		*	1
6	エイリアス名			Sample DB Sample DB
7	テーブル名			商品マスタ
8	BKNO		*	1
9	ブック名		*	SampleタスクタイプV4_Plus.xls
10	取得データ件数セル			0
11				SELECT * FROM [商品マスタ]
	トランザクション処理			
	排他制御タイプ			
14	定義有効無効フラグ		-	
15	コメント 欄			

▲クエリー定義画面(縦型表示画面)

項目名	内容
QNO	クエリー定義を管理する番号です。
クエリー名	クエリー定義に名前をつけることができます。
クエリータイプ	タスクタイプに応じて、クエリータイプを指定します。 F3 (初期値) キーで作成した時には、自動的にタスクタイプ属性と同じに設定されます。 ①照会、②更新、③指定更新、④削除、⑤SQL 更新 ② dbSheetClient (選択) ② dpsheetClient (選択) ③ 0001: 照会 0002: 更新 0003: 指定更新 0004: 削除 0005: SQL更新
クエリー属性	「Query」が自動設定されます。
DBNO ^{選用DB} 遵照(F4)	運用 DB 定義に登録されている DBNO を設定します。
エイリアス名	DBNO によりエイリアス名(データベース接続情報の参照名)を 自動表示します。







【次ページに続く】





項目名	内 容
BKNO 運用ブック 選択(F4)	運用ブック定義に登録されているブック名を設定します。 ※1
ブック名 運用ブック 選択(F4)	BKNOによって、ブック名が自動表示されます。 ※1
取得データ件数セル 定義名 選択(F4)	データ取得時のデータ件数を取得するセルを指定します。 ※1 (V5 では展開定義の項目「更新行 OR 列数指示セル」が「取得データ 件数セル」の役割を担っていますので、そちらを指定してください。)
SQL文	データベースからのデータ取得や、データベースの更新、ストアドプロシージャを実行する SQL 文を指定します。 ※2、3、4 詳細は、『タスクタイプリファレンスマニュアル「第4章 クエリータイプ」』を参考にしてください。 情報表示 SOL編集 SELECT * FROM [商品マスタ] ・[クエリー実行] ボタンをクリックすると、SQLテスト実行画面が表示されます。SQL文を編集することができます。 ・「SQLテスト実行画面」の [コピー戻] ボタンをクリックすると、「SQLテスト実行画面」で編集したSQL文が、クエリー定義シートのSQL編集エリアにコピーされます。 ***SQLテスト実行画面」で編集したSQL文が、クエリー定義シートのSQL編集エリアにコピーされます。 ***SQLデスト表行 「***T/T/0018801*CCCCCC 「WEST CONTEST CON
	入力されます。(dbSheetClient に限定する使い方です。)





項目名	内容
トランザクション処理	「更新」「指定更新」「削除」の時に、トランザクションをかけるか、
選択 (F4)	かけないかを設定します。
排他制御タイプ	クエリータイプ(=タスクタイプ属性)が「照会」の時に、
選択 (F4)	同時実行制御の方式を指定します。
	1:(空白)、2:楽観ロック
	取得したサーバ側のレコードの「DBS_STATUS」フィールドは 1 の
	ままにします。
	※サーバ側のデータ更新時には、楽観ロック制御で更新します。
	3:悲観ロック
	取得したサーバ側のレコードの「DBS_STATUS」フィールドを 3 に
	変更します。
	※他ユーザはサーバ側の「DBS_STATUS」フィールドが 3 の
	データについて、照会はできますが書込はできません。
	4:悲観ロック解除
	取得したサーバ側のレコードの「DBS_STATUS」フィールドを 1 に
	変更し、レコードロックを解除します。
更新処理形態	クエリータイプ(=タスクタイプ属性)が「更新」「指定更新」の時に、
選択 (F4)	更新処理形態を以下の方式のどちらでおこなうかを指定します。
	1:全データ更新
	Excel 上の更新対象範囲のデータを 全データ サーバに送信して
	更新します。
	2:修正データのみ
	Excel 上の更新対象範囲のデータのうち 修正データのみ サーバに
	送信して更新します。
	※修正データとしては、Excel 上の更新対象範囲のデータの
	「DBS_STATUS」フィールドの値に応じて、更新処理を行います。
	2:追加または更新レコード
	99:削除レコード
定義有効無効フラグ	この定義を無効にしたい時に無効を設定します。
選択 (F4)	
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)
悲観ロック解除QNO	「排他制御タイプ」に「4:悲観ロック解除」を設定し、クエリータイ
クエリー 選択(F4)	プ(=タスクタイプ属性)が「更新」「指定更新」の時に、「排他制御タ
	イプ」に「3:悲観ロック」でデータ取得をおこなった QNO を指定し
	ます。





項目名	内 容
日付時刻 NULL 指定	クエリータイプ(=タスクタイプ属性)が「更新」及び「指定更新」の
選択 (F4)	時に指定可能です。
	シート上で Null 値扱いとするセルデータを、データベースにも Null 値
	として登録したい時、"NULL"を指定します。
	Null 値扱いの詳細については、『開発版テクニカルリファレンスマニュ
	アル「5.5.1 Null 値を取り扱うときの注意点」』を参照してください。

※1:旧バージョン(V3以前)の互換性維持のために存在する項目です。

※2: SQL 文については、画面下の SQL 編集エリアで編集することができます。

※3: DBMS (MSSQL や ORACLE など) に対応した SQL 文を書く必要があります。

※4:dbSheetClient が提供する標準の「更新」、「削除」処理を行う場合は「UPDATE」のみを 指定します。





4.7.9. 展開定義 6.展開

SQL文の実行結果を、Excel シートに展開する場合の展開位置などを定義します。

- 一部のタスクタイプで、処理するセルを指定します。
- Excel シートのセルと、データベースのフィールドの連携を設定します。
- ・実行結果を複数のシートやセル範囲に展開します。
- ・タスクタイプ「401. 直接展開」、「410. コピー」、「411. クリア」、「414. 行列指定」などの時に、処理するセルを指定します。

	A	В	C	D
1	タイトル	サブ	*	内容
2	DNO		*	1100
3	データ展開名			展開_SQL(201.1)照会_取得
4	処理順NO			1
5	定義区分			クエリー定義
6	タイプ			照会
7	タスク・展開属性			Query
	データ項目名			
	数式OR値			
	定義有効無効フラグ			
	コメント 欄			
	シート名			照会
	セル指定属性			
	セル範囲			@照会_商品コード
	セル展開範囲定義名			@照会]取得域
	シート保護有無			
	シート保護解除PW			
	自動計算方法			
19	行列方向	データ行列方向		

▲展開定義画面(縦型表示画面)

◆ 新規作成時

クリックすると、初期値が設定されます。DNOなどが自動で設定されます。 必要な設定を行い、[戻る] ボタンをクリックすると、タスク定義またはクエリー定義に戻ります。

◆ 定義呼び出し時

返還 をクリックすると、展開定義一覧が表示されます。

展開定義を選択します。

項目名	内 容				
DNO 展間 選択(F4)	展開定義を管理する番号です。				
データ展開名 選択(4)	展開定義に名前をつけることができます。				

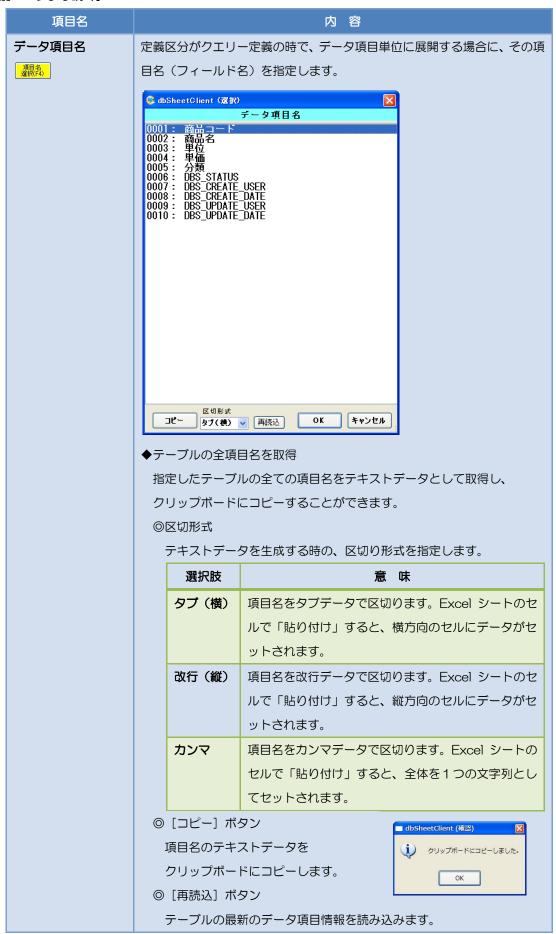




項目名	内容
処理順NO	DNO 内の処理順 NO を入力します。昇順に処理します。
定義区分	タスク定義 or クエリー定義 を自動表示します。
タイプ	タスクタイプ または クエリータイプを自動表示します。
タスク・展開属性 選択 (F4)	タスクタイプ属性 または クエリー定義の展開方式 を指定します。 例)クリア ② dbSheetClient (選択) ② 9スク・展開属性 ①0001: 全部 ①0002: 数式と値 ②0003: 書式 ②0004: コメント 全部・・・・・データや書式の全てをクリアします 数式と値・・・数式やデータをクリアします 書式・・・・・書式だけクリアします コメント・・・コメントをクリアします の) 照会 ② dbSheetClient (選択) ② dbSheetClient (選択) ② なん・展開属性 ②0001: ②uery
	0001: Query 0002: 女子 0003: 数式 0004: 値 0005: 全選択データー括 0005: 全選択データー括保持 0006: 全選択データー括保持 0006: 全選択データー括保持 0006: 全選択データー 0006: 全型状況を表する 0006: 全型状況を表する
	数式 数式を Excel シートに展開します。 数式にミスがあるとエラーになります。 値 文字や数値を Excel シートに展開します。











項目名	内容
数式 OR 値	数式または値を直接展開したい場合に指定します。
定義名 選択(F4)	「タスク・展開属性」が"数式"か"値"の時に Excel シートに展開する、
	数式や文字列を直接入力します。
	※数式を入力する時は、Excel で入力するように、"="から入力して
	ください。
	例)現在の日時を設定する。
	=NOW()
	※数式にエラーがあると実行時にエラーになりますので、正しく数式を
	入力してください。
定義有効無効フラグ	この定義を無効にしたい時に"無効"を設定します。
選択 (F4)	
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)
シート名 ^{シート名} ^{選択(-4)}	データを展開するシート名を指定します。
セル指定属性	 パラメータの設定の仕方を、「直接」、「間接」、「間接アドレス」から
選択 (F4)	指定します。
	直接・・・・・・・定義内容をそのまま使用します。
	間接・・・・・・・定義内容にはセルを指定します。
	指定セルに格納された内容(値)を使用します。
	間接アドレス・・・定義内容にはセルを指定します。
	指定セルにはさらにセル(アドレス)を指定します。
	そのアドレスが示すセルに格納された内容(値)を
	使用します。
	(詳細は『タスクタイプリファレンスマニュアル「1.7 セルのアドレス指
	定について」』を参照してください。)
セル範囲	データを展開するセル範囲(または開始セル位置)を指定します。
定義名 選択(F4)	





項目名	内容
セル展開範囲定義名	データを展開した範囲に付ける名前(定義名)を指定します。
定義名 選択(F4)	省略時は、dbS_{データ展開シート名} が自動的に定義名として
	付けられます。
	「セル範囲」で定義する名前と同じにすると、展開するデータ量に
	応じて、名前が定義された領域を、自動的に拡張したり縮小したり
	することができます。
	※省略した時は、一つのシートに一つの展開範囲定義名が設定され
	ますので注意してください。
	※一度もデータを取得していない場合は、展開範囲定義名はまだ設定
	されません。このため、タスクタイプ「411. クリア」を先に実行
	するとエラーになります。
シート保護有無	シートに保護がかけられている時は、【有り】 を指定します。
選択 (F4)	
シート保護解除 PW	シートの保護解除に、パスワードが必要な時には、パスワードを
	入力します。
自動計算方法	展開直後に 再計算 を実行させたい時に、「再計算」を指定します。
選択 (F4)	
行列方向	データをシートにセットする行および列方向を指定します。
選択 (F4)	
	0001: 0002: 行
	0003:列
更新行 OR 列数指示セ 	クエリー定義(クエリータイプ(=タスクタイプ属性))で照会系(照会
定義名	/SQL 更新でデータ取得)処理の時は、取得データ件数を格納するセル
定義名 選択(F4)	(取得データ件数セル)として指定します。 クエリー定義(クエリータイプ(=タスクタイプ属性))で更新系(更新/
	ジェリーと義(ジェリーダイン(-ダスジダイン属性))
	定します。
先シート名	コピー先のシート名を指定します。
ジート名 選択(F4)	
先セル指定属性	コピー先のセル指定方式として 直接、間接、間接アドレス を
選択 (F4)	指定します。
先セル範囲	コピー先のセル範囲を指定します。
定義名 選択(F4)	
先シート保護有無	コピー先のシートに保護がかけられている時は、【有り】 を
選択 (F4)	指定します。
先シート保護解除 PW	コピー先のシートの保護解除に、パスワードが必要な時には、
	パスワードを入力します。





項目名	内容					
複数展開指定	タスクタイプ「414. 行列指定(複数指定)」の時に属性を指定します。					
	高さ・・・・・・指定範囲行の高さを設定します。					
	列幅・・・・・・ 指定範囲列の幅を設定します。					
	行表示しない・・・ 指定範囲行を非表示状態にします。					
	行再表示・・・・・ 指定範囲行を表示状態にします。					
	列表示しない・・・ 指定範囲列を非表示状態にします。					
	列再表示・・・・・ 指定範囲列を表示状態にします。					
高さ列幅設定	行列指定の時に行の高さ、列幅を指定します。					
	「AUTO」を指定すると数値が自動調整されて設定されます。					
開始位置	行表示、列表示の際の開始位置を、開始行列番号またはセルで					
運義名。 選択で4) 指定します。						
終了位置	行表示、列表示の際の開始位置を、終了行列番号またはセルで					
定義名 選択(F4)	指定します。					



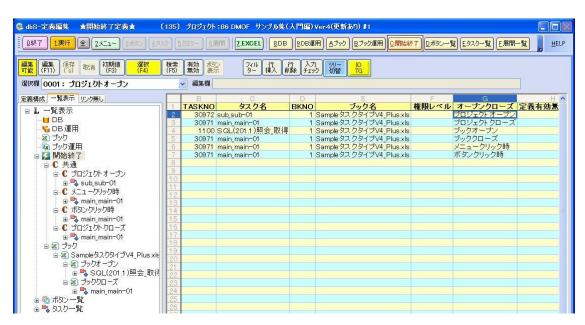


4.7.10. 開始終了定義

C開始終了

プロジェクトを実行する時などの開始処理や終了処理として実行するタスクを定義します。

- Excel ブックを開いた直後の開始処理、閉じた直後の終了処理として実行するタスクを定義します。
- ・メニュー領域やボタン領域をクリックした時に、開始処理として実行するタスクを定義します。



▲開始終了定義画面

▼注意

開始終了定義で使用したいタスクを、先に定義しておく必要があります。

[保存] ボタンをクリックしますと、タスクを登録した順番に並び変えられます。 タスクを登録した順番と実行したい順番が異なる場合は、サブタスクを定義し、 サブタスクに実行したい順番でタスクを指定してください。

- ◆ 新規にタスクを定義する方法
 - 「ツリー表示エリア」の「定義構成」タグの最上部の「メニュー」を、クリックします。
 「定義編集シートエリア」は、メニュー定義 になります。
 - 2. 「定義編集ボタンエリア」の 45xx を、クリックします。 「定義編集シートエリア」は、タスク定義 になります。
 - 3. を、クリックします。 TASKNO の一覧が表示されます。





4. **新規追加** を、クリックします。

新規タスク登録画面が表示されます。



- 5.「TASKNO」と「タスク名」を記入し、[OK] ボタンをクリックします。
 - 例) TASKNO 50000
- タスク名 起動時、ログON
- 6. タスクを定義します。
 - 例) ログ保存 ON



7. [保存] ボタンをクリックします。

項目名	内 容
TASKNO	実行するタスク定義を設定します。
タスク名	「TASKNO」を設定すると、タスク名が表示されます。
BKNO 運用ブック 選択(F4)	タスクを実行する時のブックを設定します。
ブック名 ^{選用プック} ^{選択(F4)}	「BKNO」を設定すると、ブック定義のブック名が表示されます。
権限レベル 機限レベル 機根(F4)	ログインユーザに対しメニュー実行の有無を設定します。





項目名	内 容
オープン・クローズ	処理を実行するタイミングを指定します。
選択 (F4)	
	プロジェクトオープン
	プロジェクトを実行した直後にタスクを実行します。
	プロジェクトクローズ
	プロジェクトを終了した直後にタスクを実行します。
	プックオープン
	Excel ブックを開いた直後にタスクを実行します。
	プッククローズ
	Excel ブックを閉じた直後にタスクを実行します。
	メニュークリック時
	メニュー領域をクリックした直後にタスクを実行します。
	メニューの前処理のタスクよりも前に実行します。
	ボタンクリック時
	ボタン領域をクリックした直後にタスクを実行します。
	ボタンで実行するタスクよりも前に実行します。
定義有効無効フラグ	この定義を無効にしたい時に"無効"を設定します。
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)

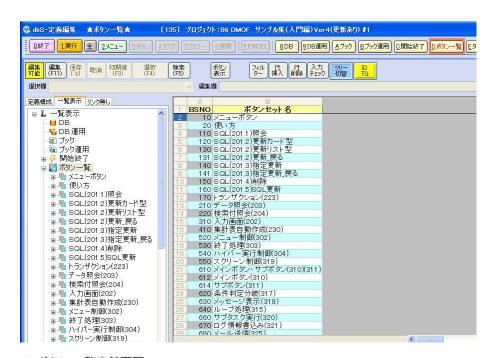




4.7.11. ボタン一覧定義 ①ボタン一覧

メニューが選択された時に表示するボタンのグループ(ボタンセット)を定義します。 ボタン定義で BSNO とボタンセット名の一覧を管理します。ボタン定義からリンクされます。

ボタン定義で、 をクリックして、新しいボタンセットを登録すると、自動的に定義内容が 追加されます。



▲ボタン一覧定義画面

項目名	内 容			
BSNO	ボタンセットを管理する番号です。			
ボタンセット名 ボタンセットに名前をつけることができます。				

◆ 「ボタンプレビュー画面」を表示する方法

をクリックすると、ボタンプレビュー画面が表示されます。
ボタン定義の各設定項目で設定した内容が、実行画面でどのように表示されるかを確認できます。

※なお、ボタンプレビュー画面には、ボタン定義で選択されている BSNO(カーソルが位置付けられているボタンセット NO)に関するボタンだけが表示されます。







4.7.12. タスク一覧定義 **E**タスク一覧

タスク定義のグループを定義します。

- タスク定義の一覧を管理します。
- ・タスク定義で、 をクリックして、新しいタスクを定義すると、自動的に定義内容が 追加されます。



▲タスク一覧定義画面

項目名	内 容
TASKNO	タスク定義を管理する番号です。
タスク名	タスク定義に名前をつけることができます。
BKNO 運用ブック 選択(F4)	ブック運用定義に登録されている管理番号を設定します。
ブック名 ^{運用ブック} _{選択(F4)}	「BKNO」を設定すると、ブック定義のブック名が表示されます。

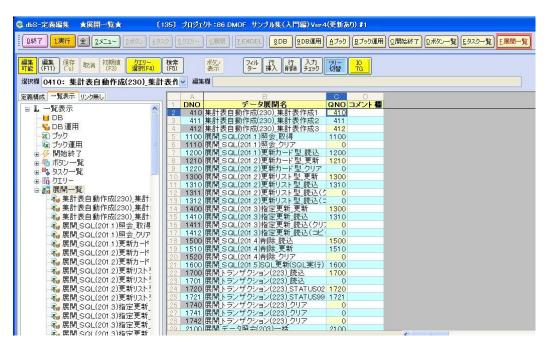




4.7.13. 展開一覧定義 **E展開一覧**

展開定義のグループを定義します。

- ・展開定義の一覧を管理します。
- ・展開定義で、「パラックして、新しい展開を定義すると、自動的に定義内容が追加されます。



▲展開一覧定義画面

項目名	内 容		
DNO	展開定義を管理する番号です。		
データ展開名	展開定義に名前をつけることができます。		
QNO	クエリー定義と関連がある時、クエリー番号を指定します。		
クエリー 選択(F4)	関連がない時は、「O」(ゼロ)を設定します。		
コメント欄	コメントを入力します。(最大文字数:半角 512 文字)		





4.8. IOTG (アイオーティージー)



4.8.1. IOTG の概要

IOTG機能では、データベースのテーブルのデータを読込/更新するタスクを、自動で作成することができます。

例えば、マスターデータを保守するために使用すると、下記の自動的に作成する内容を作成後、 すぐにマスターデータを読込/更新する機能が実行できるようになります。

◆ IOTG 機能で自動的に作成する内容

- Excel ブックに必要なシート(In シート、編集シート、Out シート)を追加します。
- ・メニュー定義、ボタン定義、タスク定義、クエリー定義、展開定義に必要な定義を作成します。

◆ 事前に準備する内容

- 1) データベース定義: IOTG 機能でアクセスするためのデータベースを定義します。
 - 例) 次項の操作手順で使用するデータベース定義の場合

1	タイトル	サブ	*	内容
2	DBMS		*	SQLSV
3	エイリアス 名		*	SampleDB
4	場所		*	Local
	サーバ名		*	^SYS_PcName^¥SQLEXPRESS
6	認証区分			
-7	データベース名		*	SampleDB
	DBMSバージョン			SQLSV2005
9	接続文字			
	スキーマ			
11	ポート番号			0
	ユーザID			
13	パスワード			
14	コメント 欄			

- 2) ブックファイル定義: IOTG 機能でデータ入出力用に使用する Excel ブックを定義します。
 - 例) 次項の操作手順で使用するブックファイル定義の場合

1	タイトル	サブ	*	内容
2	ブック名		*	新規Microsoft Excelワークシート.xls
3	ブック保護有無			
4	ブック読込解除PW			
5	ブック書込解除PW			
6	ホスト指定			
-7	リンク先			C:¥dbSheetClient¥Sample
8	コメント 欄			





4.8.2. IOTG の操作手順

IOTG 機能を実行する操作手順は、以下の手順でおこないます。

操作手順① : IOTG 機能を起動する

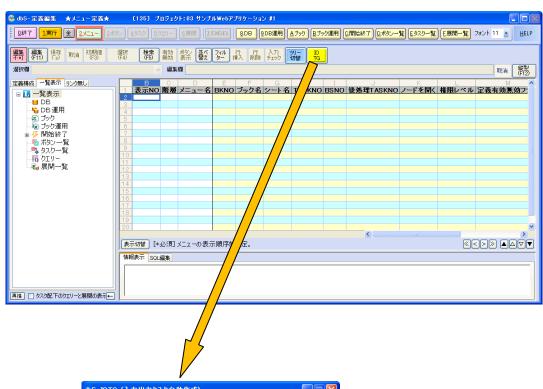
操作手順② : データベースのテーブルとレイアウト形式を選択する

操作手順③ : ブックファイルの選択と各シートの設定をおこなう 操作手順④ :編集する項目と順番の設定を行う(カード型のみ)

操作手順⑤ :メニューとボタンの設定をおこなう

■操作手順① : IOTG 機能を起動する

定義編集画面より をクリックすると、IOTGの実行画面が表示されます。

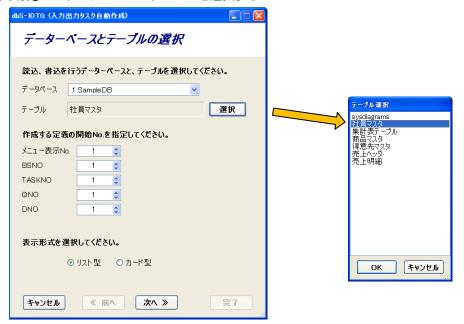








■操作手順② :データベースのテーブルを選択する



(1) データベースを指定します。

データベースの定義が複数ある場合、**[▼]** をクリックすると、データベース定義の一覧を表示しますので、そこから選択します。

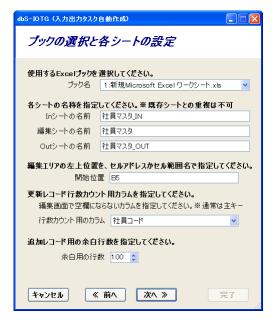
(2) テーブルを指定します。**[選択]** ボタンをクリックすると、テーブルの一覧が表示されます。 テーブルを選択して、**[OK]** ボタンをクリックします。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。

- (3) 定義開始番号を指定します。作成する定義の番号を指定します。
- (4) 画面レイアウトを「リスト型」「カード型」から選択します。
- (5) [次へ »] ボタンをクリックすると、次の設定画面へ進みます。
 [キャンセル] ボタンをクリックした場合は、IOTG の実行を中止します。

■操作手順③ :ブックファイルの選択と各シートの設定をおこなう

●リスト型の場合







(1) Excel ブックファイルを指定します。

ブックファイルの定義が複数ある場合、[▼] をクリックすると、ブックファイル定義の一覧を表示しますので、そこから選択します。

- (2) 追加するシートの名前を設定します。
 - In シートの名前
 - ・編集シートの名前
 - Out シートの名前
- (3) データを配置する開始位置(セルアドレスまたはセル範囲名)を設定します。
- (4) データの行数をカウントする項目を指定します。通常は、主キーの項目を選択します。 【▼】をクリックすると、テーブル内の項目の一覧を表示しますので、そこから選択します。
- (5) 追加レコード用の余白行数を設定します。 余白行数に基づき、編集シートに罫線などの書式がコピーされます。
- (6) [次へ >>] ボタンをクリックすると、次の設定画面へ進みます。

[(べ 前へ] ボタンをクリックした場合は、前の設定画面へ戻ります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、IOTG の実行を中止します。

●カード型の場合



(1) Excel ブックファイルを指定します。

ブックファイルの定義が複数ある場合、【▼】をクリックすると、ブックファイル定義の一覧を表示しますので、そこから選択します。

- (2) 追加するシートの名前を設定します。
 - ・編集シートの名前
 - Out シートの名前
- (3) データを配置する開始位置(セルアドレスまたはセル範囲名)を設定します。
- (4) [次へ >>] ボタンをクリックすると、次の設定画面へ進みます。

[((前へ] ボタンをクリックした場合は、前の設定画面へ戻ります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、IOTG の実行を中止します。





■操作手順④ :項目の設定をおこなう(カード型のみ)



(1)表示・編集する項目とその順番を設定します。

「非表示項目」と「表示項目」にある項目名をクリックすると、その項目が選択された状態になります。「非表示項目」にある項目を選択した状態で [表示] をクリックすると、選択された項目が「表示項目」に移動します。「表示項目」にある項目を選択した状態で [非表示] をクリックすると、選択された項目が「非表示項目」に移動します。

[全て表示]をクリックすると、全ての項目が「表示項目」へ移動します。**[全て非表示**]をクリックすると、全ての項目が「非表示項目」へ移動します。

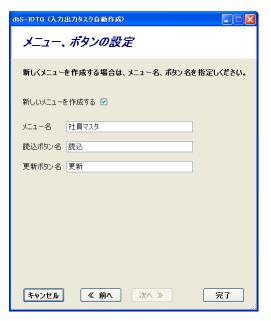
「表示項目」の中にある項目は Drag Drop 操作の要領で順番を変更することができます。

(2) [次へ >>] ボタンをクリックすると、次の設定画面へ進みます。

[(《前へ] ボタンをクリックした場合は、前の設定画面へ戻ります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、IOTG の実行を中止します。

■操作手順⑤ :メニューとボタンの設定をおこなう







- (1)新しいメニューを追加するかどうかを指定します。 チェックボックスを OFF にした場合は、メニュー定義とボタン定義は作成されません。 (メニュー名、読込ボタン名、更新ボタン名の入力欄が無効になります。)
- (2) 上記チェックボックスが ON の時は追加するメニュー名、ボタンの名前を設定します。
 - ・メニュー名
 - ・読込ボタン名
 - ・更新ボタン名
- (3) [完了] ボタンをクリックすると、設定した内容で IOTG を実行します。 IOTG の実行が終了すると、自動的に定義編集画面へ戻ります。

[《 前へ] ボタンをクリックした場合は、前の設定画面へ戻ります。

[キャンセル] ボタンをクリックした場合は、IOTG の実行を中止します。



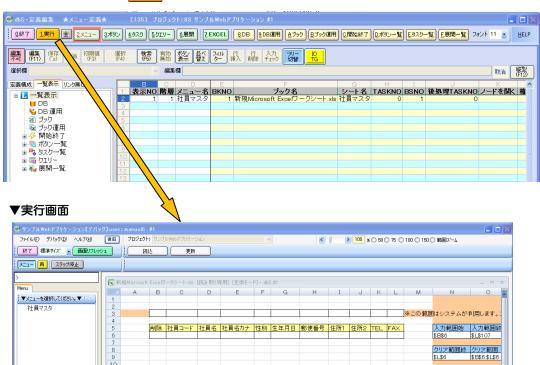


4.8.3. IOTG の動作確認

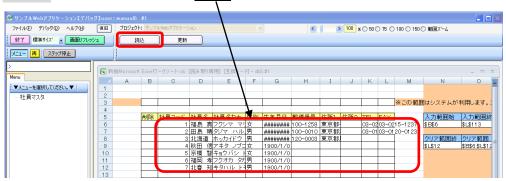
IOTG の実行後、自動的に作成されたデータベースのテーブルのデータの読込および更新機能の動作確認を行います。

〇リスト型の場合

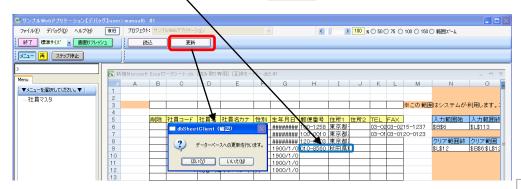
①定義編集画面より、 1実行 をクリックすると、実行画面が表示されます。



② [読込] ボタンをクリックすると、データを読み込みます。



③9 行目のデータ(<u>郵便番号と住所 1</u>)を入力し、**[更新]** ボタンをクリックすると、データベース 更新の確認ダイアログが表示されます。ここで、**[はい]** ボタンをクリックすると更新します。

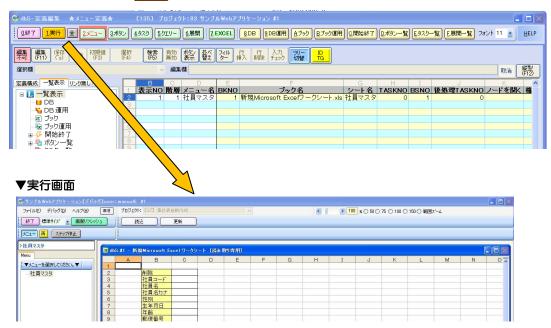




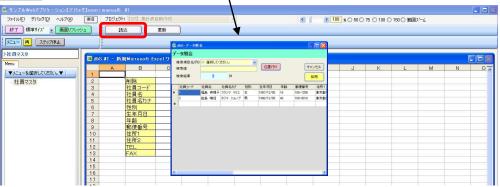


〇カード型の場合

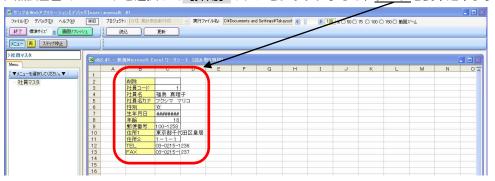
①定義編集画面より、 1実行 をクリックすると、実行画面が表示されます。



② [読込] ボタンをクリックすると、データ照会画面が表示されます。



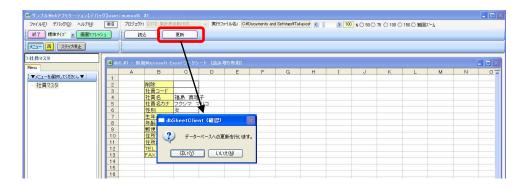
③データ照会画面でレコードを選択して [採用] ボタンをクリックすると、データを読み込みます。







[更新] ボタンをクリックすると、データベース更新の確認ダイアログが表示されます。ここで、**[はい]** ボタンをクリックすると更新します。







第5章 DB 自動作成と MDB アップロードの操作方法

本章では、Excel ブック内に保存しているデータからデータベースを作成する方法を説明します。

- 5.1 DB 自動作成画面の説明
- 5.2 MDB ファイルから DB サーバにデータをアップロードする手順





5.1. DB 自動作成画面の説明

5.1.1. DB 自動作成するための準備

※1. プロジェクト開始のための情報設定

サーバのプロジェクト登録とデータベースのスキーマ登録は、事前に行います。

『システム管理者用マニュアル』および、各社のデータベースのマニュアルを参照してください。

※2. 使用する Excel シートの条件

列や行の連結されたシートは使用できません。

フィールドと列の順番を同じ順に並べてください。

テーブルのフィールド配列は、シートの列順になります。

※3.「DBS 同時実行制御フィールド」の追加

使用するシートに、同時実行制御に必要なフィールドを DB に追加します。

フィールドの詳細は、『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「4.1. DBS 同時実行制御フィールド」』を参照してください。

※4. 複数のテーブル作成

Excel ブックにある複数シート上の情報から作成できます。

別々の Excel ブックから、一つの MDB ファイルにまとめることができます。

※5. 大量データをテーブルに登録

テーブルは「定義のみ」の作成にします。

データは CSV 出力しておき、タスクの「一括入出力」等を組合せて使用するプログラムを作成し、登録する方法があります。

※6. データのアップロード

「Null」のあるデータはテーブルに登録できません。

【 注意 】

- Excel ブックを編集するときは、編集したいファイルを原本として保管するために、 コピーしたファイルを作成し、コピーしたファイルを指定します。
- MDB 作成で使用する Excel ブックは終了していなければなりません。

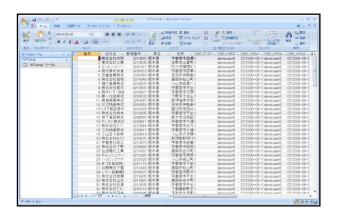




操作説明

DB 自動作成では下に示すデータベースファイルを作成します。

Excel ファイル上に展開されているデータを DB 化する時に便利です。

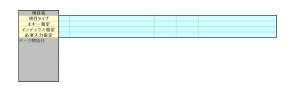


DB 自動作成する Excel ファイルは次のような形式で作成してください。 セル A1 から始めます。

1行目は項目名の行として作成。2行目からデータ行として作成します。



1列目2行目から次のようなテンプレートを挿入配置してDB 自動作成の準備をします。



DB 自動作成する Excel ファイルのシート上にテンプレートを配置します。

「項目名」、「項目タイプ」、「主キー指定」、「インデックス指定」、「必須入力指定」、「データ開始行」を設定します。



■主キーは、一つは必ず必要です。





DB 自動作成ではテンプレートに入力された設定内容に従って DB を作成していきます。 「項目タイプ」では dbSheetClient 対応の DB に従ったフィールドデータ型を設定します。

	A1	-	fk	項目名			
	- 4		В	С	D	Е	F
1	項目		番号	会社名	郵便番号	県名	住所
2	項目:	タイプ	支整表	テキスト(40)	長整数	- キスト(15	テキスト(60)
3	主 丰 -	指定	1	2			
4	インデック	ウス指定					
5	必須入	力指定		Υ			
6	データ開始	ŝíŦ	1	株式会社共栄青果	321 0933	栃木県	宇都宮市築瀬町1493
7			2	東京石灰工業株式会社	3270505	栃木県	佐野市山菅町3518
8			3	エリエールベーバーテック株式会社	3291411	栃木県	さくら市鷲宿4776-4
9			4	栃木県中央食販株式会社	3200072	栃木県	宇都宮市若草4丁目3番17号
10			5	志賀産業株式会社	3260054	栃木県	足利市伊勢南町9-3
11			6	株式会社協和製作所	3214346	栃木県	真岡市松山町18-2
12			7	雄大産業株式会社	3230807	栃木県	小山市城東7-6-3
13			8	株式会社栃木オリコミ・センター	321 0901	栃木県	宇都宮市平出町3734-4
14			9	栃木いすゞ自動車株式会社	3200827	栃木県	宇都宮市花房2-2-4
15			10	第一化成株式会社	3290502	栃木県	下野市下古山154
16			11	與島商事株式会社	3250047	栃木県	那須塩原市若葉町2-38
17			12	三王物産株式会社	3260054		足利市伊勢南町9-3
18			13	トヨタ部品栃木共販株式会社	3220026	栃木県	鹿沼市茂呂923
19			14	株式会社熊本商店	3210905	栃木県	宇都宮市平出工業団地7-1
20			15	岩下食品株式会社	3288555	栃木県	栃木市沼和田町23番5号
21			16	カンタッ株式会社	3200811	栃木県	宇都宮市大通54-3-18
22			17	株式会社フライルフな。フ	321.0954	振士思	字都宣志元今息6-4-9

テンプレートが配置されて各項目に必要事項が入力された状態です。 テンプレートの挿入位置は DB 自動作成操作の「項目定義」で指定されます。 (上級者は Excel ファイルの作り方、テンプレートの挿入位置を自由に変更できます。)

[実行] ボタンをクリックして、DB 自動作成を開始します。

挿入行[2行目]

開始列[1列目]

終了列は作成する項目列で変わります。





5.1.2. 【DB 自動作成】画面の説明

開発版メイン操作画面から [3.DB 自動作成] ボタンをクリックすると、「【DB 自動作成】 MDB の自動作成」画面が表示されます。



■プロジェクトタイトル表示/終了操作部

プロジェクトの ID と名前の表示および、終了操作を行います。

機能名/ボタン名	説明
プロジェクト	開発中のプロジェクト ID とプロジェクト名を表示します。
終了	「処理選択」ダイアログを表示します。
保存	データベースと Excel ブックを保存して MDB 自動作成を終了します。 開発版メイン操作画面になります。
廃棄	処理結果をすべて破棄して MDB 自動作成を終了します。
戻る	終了の「処理選択」を中止します。

※ MDB 自動作成で生成処理がなされなかった場合は [終了] と [戻る] を表示しますので、選択してください。



■MDBファイル設定部

作成するワーク MDB ファイルのフォルダとファイル名を指定します。

機能名/ボタン名	説明
≫選択	ファイル選択画面になります。
MDB フォルダ	MDB ファイルの保存先フォルダ名を表示します。
ワーク MDB	MDB ファイル名を表示します。

※ここで指定したファイル名.mdb でデータベースが作成されます。





■Excel ブック設定部

使用する Excel ブックのファイルを選択します。

機能名/ボタン名	説明			
≫選択	ファイル選択画面になります。 ファイルを選択するとフォルダの場所とファイル名がセットされます。			
ブックフォルダ名	Excel ブックの保存先フォルダ名を表示します。			
ワークブック名	Excel ブック名のファイル名を表示します。			
シート名(選択)	シートに選択 Excel ブックに格納されている全シート名を一覧表示します。			

ファイル選択後、ブックフォルダ名およびワークブック名をセットすると、選択された Excel ブックを 開きます。



【 注意 】

Excel ブックを編集するときは、編集したいファイルを原本として保管するために、コピーしたファイルを作成して、そのファイルを指定するようにします。

ロシート選択

シート一覧から、データベースとして作成するデータが格納されているシートを選択します。

シートの存在する Excel ブックには、 クリックされて が実行されると、先頭にシートを追加して 【dbS_CreateDBDef】: DB 作成インデックスシートを自動作成します。 当該シートは編集不可です。 Excel のシートが選択シートへ切り替わります。

機能名/ボタン名	説明
≫選択	シートを選択してクリックします。
選択シート名	選択シート名を表示します。
作成テーブル名	作成テーブル名を表示します。 特殊文字はテーブル名に使用できません。シートに特殊文字が使用されている場合は、ここで修正できます。



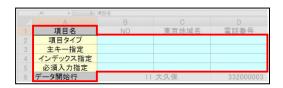




□項目定義挿入

機能名/ボタン名	説明
項目定義 持入	データベース自動作成のための定義を行います。
挿入行位置 🐤 行目	挿入する行を設定します。
開始列 🗘 (A)	挿入開始の列を設定します。
終了列 (D)	挿入終了の列を設定します

以下に示す6行とデータの存在するすべて項目列に属性定義を挿入していきます。



セル水色部分には挿入された後、データ属性を設定します。

※挿入行指定 Excel 2003 ファイル形式(xls)は、65,536 行までです。

※開始·終了列 Excel 2003 ファイル形式(xls)は、256 列までです。

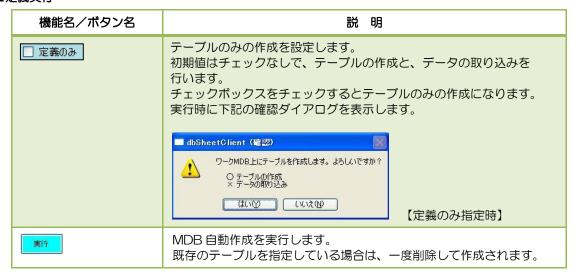
□属性定義

機能名/ボタン名	説明			
項目タイプ	フィールドのデータ型を設定します。 項目タイプ行にカーソルを位置づけるとリストボタンとコメント表示になります。 リスト選択ボタンで当該項目タイプを選択します。 ※テキストのみ文字数の設定が必要です。			
主キー	テーブルのプライマリキーを設定します。 1 から順に設定します。9 まで可能。			
インデックス指定	プライマリキー以外に索引キーが必要な場合に設定します。 A1、A2…のように 26 個の設定が可能です。			
必須入力指定	指定位置に Y を入力します。 指定された列位置のデータは必須とします。空白やゼロ以外のデータが 必ず存在すること。 実行時に空白やゼロを検出すると「必須入力項目なのに値がありません」 とエラーを表示して自動作成を終了します。シート内データを検証し、 再度実行してください。 ※Null データ(空白やゼロ)を許可しない制御はアプリケーション側 で行います。			





■定義実行



実行すると確認ダイアログを表示します。



【定義のみ指定時】

[はい]・・・・・定義に従ってデータベースを作成します。

Excel 非表示になり、処理中メッセージを表示します。

[いいえ]・・・・データベース作成を中止します。

※実行時には排他制御のための情報も取り込みます。

この情報は同時実行制御機能と呼んでいます。詳細は『開発版テクニカルリファレンスマニュアル「4.1 DBS 同時実行制御フィールド」』を参照してください。

口実行結果の表示

機能名/ボタン名	説明			
データの確認	正常終了時、取り込みデータを一覧表示します。 「定義のみ」の場合は表示しません。 ここでは確認のための表示になります。 [終了] - [保存] でデータベース作成完了となります。			
エラーメッセージ	実行エラー内容を表示します。			







5.1.3. DB 作成インデックスシートの説明

DB作成インデックスシートは、「dbS_CreateDBDef」というシート名で、Excel ブック内に挿入されます。(すでに存在する場合は、挿入されません。)

また、このシートは Excel ブック選択後に挿入し、「項目定義挿入」の実行時に指定シートの情報を自動的に設定します。

データベース作成のために、シート毎の項目定義情報の挿入状況を管理していますので、編集をしないで ください。

シート数:	2		DB作成インデックスシート
シート名	住所録_in	商品マスタ	
作成テーブル名		M01_商品	
項目名行番号	5	2	
項目名列番号FROM	3	2	
項目名列番号TO	24	6	
項目タイプ行番号	6	3	
主キー指定行番号	7	4	
インデックス指定行番号	8	5	
必須入力行番号	9	6	
データ開始行行番号	10	7	
データ終了行行番号	65536	65536	
定義のみ作成	0	0	
項目タイトル列列番号	2	1	

機能名	説明
シート数	項目定義の挿入を実行したシートの数です。
項目定義挿入情報	項目定義挿入を行うシートを追加する毎に、シートの情報を追加してい きます。
項目定義挿入情報	DB 自動作成時の指定内容が設定されます。

【 注意 】

DB 作成インデックスシートは、データベース作成のために、シート毎の項目定義情報の挿入状況を管理しています。このため、編集はしないでください。





5.2. MDB ファイルから DB サーバにデータをアップロードする手順

ここでは MDB ファイル (主キー必須) から DB サーバにデータをアップロードする手順を説明します。 DB アップロードは「DB 自動作成」で作成した MDB ファイルまたは、作成済みの MDB ファイルから、 DB サーバにテーブルおよびデータを作成・登録するための機能です。

テーブルのアップロードは3ステップです。

保守機能は、DB サーバのテーブルを一括削除します。

ユーザMDBの選択



アップロードする MDB ファイルを選択します。

テーブル情報の取り込み



MDB ファイル内のテーブル情報を取得し、テーブル毎にデータ件数を表示します。

DBサーバ送信

エイリアスの選択を行います。(DB サーバのデータベース情報を取得) テーブルおよびデータを DB サーバに登録します。

保守機能

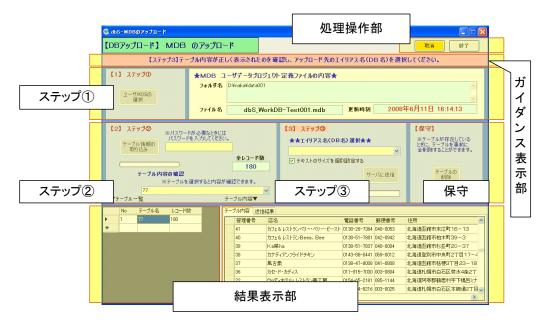
DB サーバに存在するテーブルを一括削除します。(MDB にあるテーブルのみ)





5.2.1. DB アップ (F3) の説明

開発版メイン操作画面から [DB アップ(F3)] ボタンをクリックすると、「MDB のアップロード」画面が表示されます。



機能名/ボタン名	説明
終了	開発メイン操作画面に戻ります。
取消	アップロードする MDB ファイルを変更する場合は、[取消] ボタンをクリックします。 「テーブル情報の取り込み」実行以後からボタンが使用できます。 「サーバに送信」後は、送信済のため使用できなくなります。

■ステップ①

機能名/ボタン名	説明
ユーザ MDB の選択	アップロードする MDB ファイルを選択します。 ファイル指定は表示されるダイアログ画面から行います。
フォルダ名	MDB ファイルが格納されているフォルダ名を表示します。
ファイル名	MDB ファイルのファイル名を表示します。
更新時刻	指定した MDB ファイルの更新日と更新時間を表示します。





■ステップ②

機能名/ボタン名	説明
テーブル情報の取り込み	MDB ファイル内にあるすべてのテーブル情報を取り込みます。 パスワード保護を掛けている場合は、パスワード入力してから取り込みをしてください。 パスワードの未入力や誤りがある場合は、エラーメッセージが表示されますので、正しいパスワードを入力し直してください。 dbSheetClient (確認) パスワードが正しいありません。 パスワードが要求されたときには、パスワードを入力したのち再実行してください。 OK
全レコード数	取得した全テーブルのレコード件数を表示します。
テーブル内容の確認	MDB ファイル内の表示テーブルを選択します。 結果表示部に選択テーブルと、テーブル内容を表示します。

■ステップ③

機能名	説明
エイリアス名(DB名)選択	dbSheetClient サーバに登録しているデータベースのエイリアス名を選択します。 ※データベースのエイリアス登録は、『システム管理者用マニュアル』 の以下を参照してください。 「2.5. データベース登録」 「2.7.3. プロジェクトへのエイリアス参加」
サーバに送信	DB サーバにテーブルおよびデータを一括登録します。 登録途中で異常が発生した場合は、すべての登録を破棄し、元に戻し ます。

■保守

機能名	説明
テーブルの削除	DB サーバのテーブルを破棄して、再作成する場合に使用します。 実行する場合は、②、③を行ってから[テーブルの削除]ボタンを クリックします。 対象となるテーブルは MDB ファイルに存在するテーブルのみです。 削除途中で異常が発生した場合は、すべての削除を破棄し、 元に戻します。 結果表示部に送信結果(削除結果)を表示します。

■結果表示部

機能名	説明
テーブル一覧	テーブル情報の取り込みの実行で取得したテーブル一覧を表示します。一覧表示する項目は No、テーブル名、レコード数です。
テーブル内容	選択したテーブルのデータを下枠に表示します。
送信結果	実行した結果を下枠に表示します。





■ガイダンス表示部

ステップ毎に主な操作内容をメッセージとして表示します。

【1】ステップ①

DB サーバにアップロードする MDB ファイルを選択してください。

【2】ステップ②

ユーザ MDB のテーブル情報を確認したのち、**[テーブル情報の取り込み]** ボタンをクリックしてください。

【3】ステップ③

・エイリアス名選択時

テーブル内容が正しく表示されたのを確認し、アップロード先のエイリアス名(DB名)を選択してください。

サーバ送信時

テーブル内容と DB 内容を確認したのち、[サーバに送信] ボタンをクリックしてください。





第6章 デバッグのためのテスト環境

dbSheetClient では定義編集の動作確認を行うための支援プログラムを用意しております。

「デバッグ実行」では、通常実行とステップ実行で動作確認を行います。

「リファレンス作成」では、プロジェクト定義編集情報を Excel ファイルにすべて出力したドキュメントを作成します。

「SQL テスト実行」では、選択 DB に対して動作の確認を行います。 本章では、これらの支援プログラムについて説明します。

- 6.1 デバッグ実行
- 6.2 SQLテスト実行
- 6.3 リファレンス作成





6.1. デバッグ実行

定義情報が正しいかどうかをデバッグモードで確認することができます。 デバッグの実行方法には、以下の方法があります。

- ①開発版メイン操作画面の[デバッグ]メニューから[デバッグ実行]を選択 ②開発版メイン操作画面の[4.デバッグ実行]ボタンをクリック
- ③ 定義編集画面の [1.実行] ボタンをクリック デバッグ操作自体はどこから実行しても同じです。



デバッグが実行されると、最初に以下のダイアログが表示されます。



[通常実行]・・・・・・実際の操作に従ってデバッグできます。

[ステップ実行]・・・・・定義情報のタスク毎に区切ってデバッグできます。

[キャンセル]・・・・・・デバッグを実行せず、元の画面に戻ります。

6.1.1. 通常実行

ます。



【通常実行画面】

定義編集で定義された通りに実行してデバッグします。

※ デバッグ実行中に、DB 定義、DB 運用定義、ブック定義、ブック運用定義、メニュー定義を変更した場合は、定義情報を再取得し直す必要があるため「再」(再読込)ボタンを必ずクリックしてください。 ※ 元の Excel ファイルを変更した場合は、デバッグ実行を一度終了してから再度実行する必要があり





6.1.2. ステップ実行



【ステップ実行画面】

定義編集のタスク定義で定義された処理をステップ単位で停止させながらデバッグします。

例)ボタン定義ータスク定義情報



[読込] ボタンが押された時、DB からデータを読み込んで処理用のシートに展開します。 あらかじめシート上に登録していた数式をコピーするように定義しています。



上記内容をステップ実行で確認。

当該 [読込] ボタンが押されると dbSheetClient 画面上にステップ実行画面が表示されます。 カーソル位置のタスク (TASKNO: 1700、処理順 No: 1、タスク名: トランザクション(223)読込) がこれから開始 (実行) するステップになります。





6.1.3. ステップ実行の操作

ここではステップ実行画面に出てくるボタンの操作などについて解説します。

機能名	説明
次のタスクまで>	単体でステップ実行させたい時に指定します。 カーソルの位置する、タスクのみを実行し次のタスクの開始位置で 停止します。
選択タスクまで>	複数行にまたがるタスクをステップ実行時に指定します。 選択反転した末尾ステップの手前まで処理して停止します。 選択は左端の選択レーンでマウス左ボタンを押しながらステップ実行 させたいタスクの次のタスクまでスライドさせます。 マウスボタンを離して選択終了です。
中断する ■	処理を中断し、タスク内の処理一覧を終了します。
ロタスク処理内で自動 計算をONに変更する	デバッグ実行時の自動計算は OFF になっています。 デバッグで自動計算も行いたい場合は、口にチェック(レ点)を 入れてください。自動計算を行います。
ロステップ実行のリス トを出力する	C:\fooksheetClient\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\fookshop\
最後まで実行>>>	タスク内の処理一覧に表示されているタスクをすべて実行します。 ステップ実行が終了します。
デバッグエラー・ 画面表示	デバッグ時に発生したエラーメッセージを表示します。







6.2. SQLテスト実行

SQL テスト実行では、DB 定義で定義した DB との接続確認を行います。

SQL テスト実行は

[エイリアス (DB) の選択] — [①FROM 句] — [②SELECT 句] — [SQL 文の自動生成] — [SQL テスト実行] の手順で確認します

機能名	説明
[エイリアス(DB) の選択]	DB 定義で定義したエイリアスを選択します。 定義したエイリアスの一覧をリスト表示します。 当該エイリアスを選択します。 DB 定義が正常に成され DB が接続できていると [①FROM 句] の エリア内に DB 内に存在するテーブル名を表示します。 この段階で SQL テスト実行での DB 接続確認はできました。
[①FROM 句]	DB 定義で接続した DB 内に存在するテーブルを表示します。 当該テーブルを選択します。 選択されたテーブル名が処理エリアに転記されます。
[②SELECT 句]	FORM 句で選択テーブルのフィールド名を一覧表示します。 [全] をクリック。処理対象のフィールド名をすべて選択します。 フィールド名一覧の下枠の処理対象選択エリアに全てのフィールド名が 表示されます。
[SQL 文の自動生成]	[SQL 文の自動生成] をクリックすると SQL 文を自動的に作成します。
[SQL テスト実行]	[SQL テスト実行] で自動生成された SQL 文を実行します。 実行エリアに実行結果を表示します。

DB に存在するデータが読み込まれて表示されれば確認終了です。

読み込まれない場合は定義方法の誤り、DB の中味が存在しないなどの可能性があります。

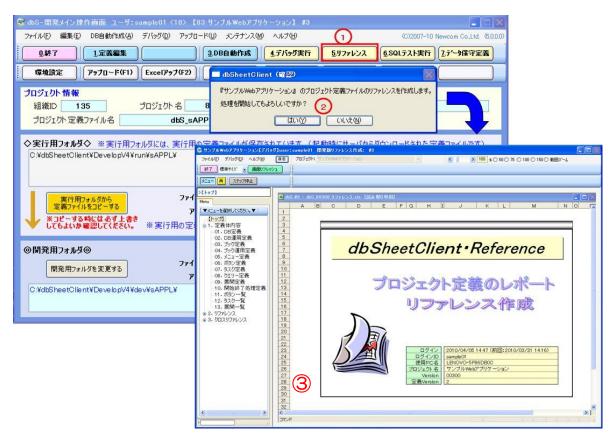
確認修正後、再度 DB 定義から、SQL テスト実行を行う必要があります。





6.3. リファレンス作成

リファレンス作成では、定義編集した定義内容のすべてを Excel ファイル上に自動作成します。



操作手順

- ①開発版メイン操作画面から [5.リファレンス] ボタンをクリックします。
- ②リファレンス作成開始の確認ダイアログが表示されます。

[はい] ボタンをクリックします。

[いいえ] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。

- ③dbSheetClient を起動し、Excel ファイル上にリファレンスを自動作成します。
- [定義体内容]、[リファレンス]、「クロスリファレンス」

機能名	説明
[定義体内容]	各定義シートの内容を展開します。
[リファレンス]	各リファレンスを展開します。
「クロスリファレンス」	各クロスリファレンスを展開します。



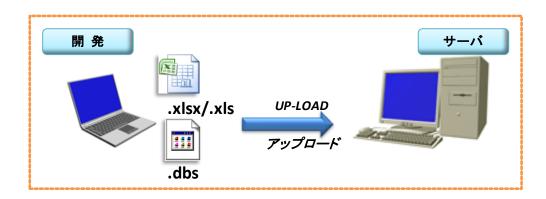


第7章 プロジェクト定義情報と Excel ブックのアップロード

本章では、開発した定義情報(以降プロジェクト定義情報)と、プロジェクトで使用する Excel ブックファイルをサーバにアップロードする機能について説明します。

- 7.1 プロジェクト定義情報をアップロードするための前提条件
- 7.2 プロジェクト定義情報のアップロード
- 7.3 Excel ブックのアップロード

dbSheetClient は、開発したプロジェクト定義情報(.dbs)と Excel(.xls/.xlsx)ブックファイルをサーバにアップロードする必要があります。これにより、プロジェクトに参加する全ユーザがプロジェクトを利用できるようになります。







7.1. プロジェクト定義情報をアップロードするための前提条件

プロジェクト定義情報をサーバにアップロードすると、アップロード後にプロジェクトを実行したユーザには、プロジェクトの変更内容が直ちに反映されるようになります。

プロジェクト開発中に、誤って古いバージョンのプロジェクト定義情報がアップロードされると、プロジェクト定義情報のデグレードなどのトラブルが発生してしまいます。このようなトラブルを防止するために、dbSheetClientでは、プロジェクト定義情報をアップロードする際に、以下の2点をチェックしています。

- ①プロジェクト定義情報の「システム仕様 Ver.」と「定義アップ Ver.」のチェック
- ②プロジェクト定義情報の変更レコードが1件以上あるかのチェック

以降に、各チェックの詳細について説明します。

■①プロジェクト定義情報の「システム仕様 Ver.」と「定義アップ Ver.」のチェック

実行用フォルダの情報に表示されたサーバのプロジェクト定義情報と、開発用フォルダの情報に表示される編集中のプロジェクト定義情報の「システム仕様 Ver.」と「定義アップ Ver.」が一致するかをチェックします。両方が一致したとき、アップロードができるようになります。

両方が一致しない時は、エラーメッセージを表示して、アップロードできないようにしています。







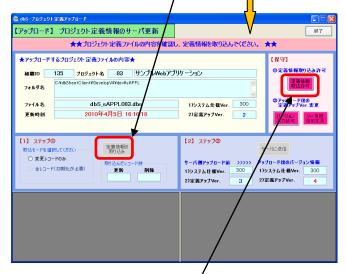
※プロジェクト定義情報が一致しないでエラーメッセージが表示される例

下記例では、「定義アップ Ver.」が一致しておらず、そのような場合、開発用フォルダの「定義アップ Ver.」欄に背景色がつきます。この状態で [アップロード(F1)] ボタンをクリックすると、エラーメッセージが表示されます。





エラーメッセージダイアログで**[OK]**ボタンたクリックすると、「プロジェクト定義アップロード」画面が表示されますが、**[定義情報の取り込み]**ボッンが無効状態になっており、このままではアップロードできません。



※上記のように「定義アップ Ver.」が不一致状態でも、強制的にアップロードを行いたい場合は、 【保守】エリアにある[**定義情報取込許可**]ボタンにより、アップロードすることが可能です。 詳細は『第2部 7.2.3 プロジェクトアップロード内の保守機能について』を参照してください。





■②プロジェクト定義情報の変更レコードが1件以上あるかのチェック

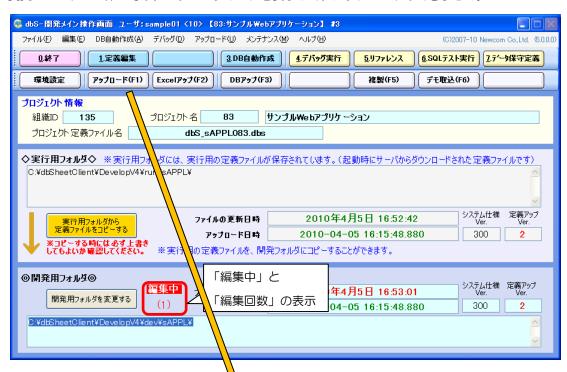
定義編集されたプロジェクト定義情報の中で、変更レコードが1件以上あるかをチェックします。

定義編集で編集した後に開発版メイン操作画面へ戻ると、開発用フォルダの情報表示エリアには、

「編集中」と「編集回数」が表示されます。編集回数が1回以上であり、この状態で[アップロード(F1)] ボタンをクリックして、「プロジェクト定義アップロード」画面を表示します。

ここで、**[定義情報の取り込み]**ボタンをクリックして、定義情報を取り込み時に変更レコードが1件以上ある時、アップロードできます。

変更レコードが〇件の時は、エラーメッセージを表示して、アップロードはできません。



「プロジェクト定義アップロード」画面で、「定義情報の取り込み」ボタンをクリックして、定義情報を取り込み時に変更レコードが1件以上あると、「サーバに送信」ボタンが有効になり、アップロードができるようになります。

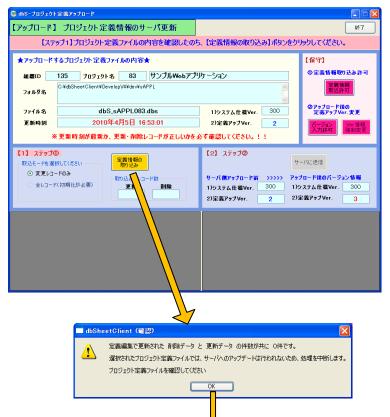






※プロジェクト定義情報の変更レコードが〇件でエラーメッセージが表示される例

「プロジェクト定義アップロード」画面で、**[定義情報の取り込み]**ボタンをクリックして、定義情報を取り込み時に変更レコードがO件だった場合は、エラーメッセージが表示されます。



エラーメッセージダイアログで[OK] 「タンをクリックすると、「プロジェクト定義アップロード」画面に戻りますが、<u>「サーバに送信] ボタン: が無効状態</u>になっており、アップロードはできません。





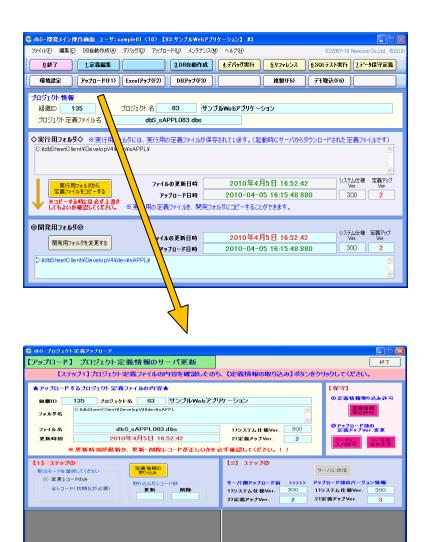


7.2. プロジェクト定義情報のアップロード

7.2.1. プロジェクト定義情報のアップロード画面の起動

本機能を利用して、プロジェクト定義情報を Web サーバにアップロードします。 サーバにアップロードすることで、実行ユーザは最新のプロジェクトを利用できるようになります。

開発メイン操作画面から [アップロード(F1)] ボタンをクリックすると、「プロジェクト定義アップロード」 画面が表示されます。







▼プロジェクト定義アップロード画面の説明

機能/項目名	説 明
[終了]ボタン	アップロード処理を終了しメイン操作画面に戻る。
組織 ID	組織 ID を表示。
プロジェクト名	プロジェクト番号とプロジェクト名を表示。
フォルダ名	更新用定義ファイルが格納されているフォルダ(開発用)を表示。
ファイル名	定義ファイル名を表示。
更新日時	更新処理実施する年月日と時間を表示。
1)システム仕様 Ver.	dbSheetClient のバージョンを表示。
2)定義アップ Ver.	現在の定義ファイルバージョンを表示。
【保守】	
[定義取込許可]ボタン	定義アップ Ver の不一致を許可しアップロード可能にする。
[バージョン入力]ボタン	アップロード後のバージョンを手動で入力する。
[Ver 情報強制変更]ボタン	アップロード後のバージョンを手動で入力後強制変更する。
【1】ステップ①	
[変更レコードのみ] ラジオボタン	更新対象のレコードを変更レコードのみとする。
[全レコード]ラジオボタン	更新対象のレコードを全レコードとする。
[定義情報の取り込み]ボタン	定義情報の取り込みを開始する。
取り込んだレコード数	更新のために取り込んだレコード数。
更新	更新のために取り込んだ更新レコード数を表示。
削除	更新のために取り込んだ削除レコード数を表示。
【2】ステップ②	
[サーバに送信]ボタン	サーバへの送信を開始する。
サーバ側アップロード前	アップロード前のバージョン情報。
1)システム仕様 Ver.	アップロード前の dbSheetClient のバージョンを表示。
2)定義アップ Ver.	アップロード前の定義ファイルバージョンを表示。
アップロード後	アップロード後のバージョン情報。
1)システム仕様 Ver.	アップロード後の dbSheetClient のバージョンを表示。
2)定義アップ Ver.	アップロード後の定義ファイルバージョンを表示。





7.2.2. プロジェクト定義情報のアップロード操作手順

プロジェクト定義情報のアップロードは、プロジェクト定義情報を確認したのちに、 以下の手順でおこないます。

【1】ステップ① :プロジェクト定義情報を取り込み、変更レコード件数を確認する

【2】ステップ② : サーバにプロジェクト定義情報を送信する

■【1】ステップ①:プロジェクト定義情報を取り込み、変更レコード件数を確認する



(1) 取込モードを選択します。

通常は、「変更レコードのみ」を選択してください。「全レコード」は、サーバのプロジェクト 情報を全て置き換える時のみ選択してください。

(2) [定義情報の取り込み] ボタンをクリックします。

取込モードに従って、定義情報を取り込みます。

- (3) 取り込んだレコード件数が表示されます。
- (4) 定義シート毎の「更新」件数と「削除」件数が表示されます。

以下の画面では「メニュー定義」テーブルに、更新レコードが1件含まれていることがわかります。







■【2】ステップ②:サーバにプロジェクト定義情報を送信する

[サーバに送信] ボタンをクリックすると、ステップ①で取り込まれたプロジェクト定義情報をサーバに送信します。正常完了すると、サーバのプロジェクト定義情報の「定義アップ Ver.」は送信前から、一つカウントアップされます。

アップロードが正常完了すると、サーバで管理されているプロジェクト定義情報が更新されます。そして、 最新のプロジェクト定義ファイルがサーバからダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。





7.2.3. プロジェクトアップロード内の保守機能について

プロジェクトアップロード内の保守機能として、以下の2つの機能があります。

- 定義情報取り込み許可
- ・アップロード後の定義アップ Ver.変更

■定義情報取り込み許可の機能

複数のメンバーによる同時開発中には、一人がプロジェクト定義をアップロードすると、サーバ側の定義アップ Ver.がカウントアップされるため、他のメンバーがアップロードする際には、必ず定義アップ Ver.の不一致が発生します。

定義アップ Ver.の不一致が発生すると、下図のように、ステップ①の [定義情報の取り込み] ボタンが 無効になります。



このとき、**[定義情報取込許可]** ボタンをクリックすると、**[定義情報取り込み]** ボタンが有効となり、アップロードが可能になります。







■アップロード後の定義アップ Ver.変更の機能

アップロードをおこなうと定義アップ Ver.がカウントアップされるため、プロジェクトの開発が完了してユーザに公開する時には、定義アップ Ver.の値が大きくなります。これを目的の定義アップ Ver.や初期値に強制変更する場合に利用します。





(1) [バージョン入力許可] ボタンをクリックします。

アップロード後のバージョン情報の定義アップ Ver.欄が入力できるようになります。

- (2)「定義アップ Ver.」に入力します。
 - この説明では、「100」を入力しました。
- (3) [サーバに送信] ボタンをクリックします。

Ver 情報がサーバに送られ、変更されます。

(4)変更が正常終了すると、最新情報がダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。







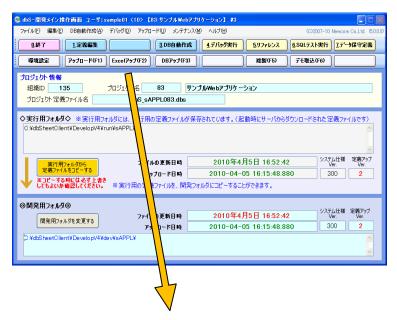


7.3. Excel ブックのアップロード

7.3.1. Excel ブックのアップロード画面の起動

本機能を利用して、プロジェクトで利用する Excel ブックを Web サーバにアップロードします。 サーバにアップロードした Excel ブックはインターネット経由で利用することができるようになります。

開発版メイン操作画面から [Excel アップ(F2)] ボタンをクリックすると、「Excel ブックのアップロード」画面が表示されます。









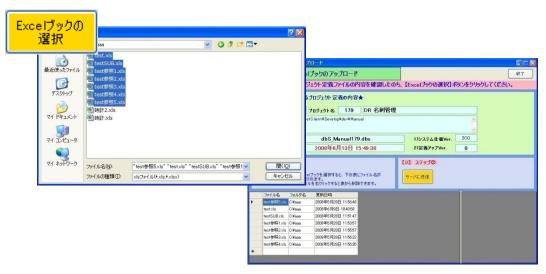
7.3.2. Excel ブックのアップロード操作手順

Excel ブックのアップロードは、プロジェクト定義情報を確認したのちに、以下の手順でおこないます。

【1】ステップ① : Excel ブックを選択する

【2】ステップ② : サーバに Excel ブックを送信する

■【1】ステップ①: Excel ブックを選択する



(1) [Excel ブックの選択] ボタンをクリックします。

ファイル選択画面が表示されます。ここで、サーバにアップロードしたい Excel ブックを 選択してください。Excel ブックは一度に複数選択してアップロードすることができます。

※選択したファイルを一覧から削除したい時

削除したいファイルを選んで右クリックすると、「削除」メニューが表示されます。 「削除」メニューをクリックすると、削除されます。





■【2】ステップ②:サーバに Excel ブックを送信する

【サーバに送信】 ボタンをクリックすると、選択した Excel ブックがサーバに送信されます。 dbSheetClient では、Excel ブックファイルの送信先はあらかじめ以下のように固定になっています。 詳細は、『システム管理者用マニュアル「第 1 章 動作環境とサーバシステムの設定」』を参照してください。

サーバの送信先フォルダ名: {サーバのシステムフォルダ} ¥Project¥ {プロジェクト識別記号}

例) ドメイン名 : abcdefg.co.jp

プロジェクト識別記号 : test

Excel ブック名 : sample.xls

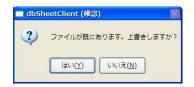
の時に、Excel ブックを呼び出すためのアドレスは次のようになります。

アドレス: http://abcdefg.co.jp/dbSClient/Project/test/sample.xls

【アップロードが正常に実行された時のメッセージ画面】



【既にファイルがサーバにあった時の確認画面】



定義編集のブックファイル定義シートおよびメニュー定義シートの「リンク先」の設定項目に、プロジェクトで利用する Excel ブックファイルが保存されているアドレスを指定することによって、プロジェクトの実行時にサーバから Excel ブックがダウンロードされて開くようになります。

ブックファイル定義シートとメニュー定義シートの設定については、『第2部 4.7.3 ブックファイル定義』と『第2部 4.7.5 メニュー定義』を参照してください。

※注意 本機能を利用しないで、直接、サーバのフォルダに保存は可能ですが、本機能からそのファイルを上書きできなくなりますので、**直接サーバに保存しないようにしてください。**





第8章 データ保守定義

本章では、サーバ側のデータベースに対し、データのメンテナンス(新規登録、修正、削除)作業が可能になるデータ保守定義(プログラム)について説明します。

- 8.1 データ保守定義のための準備
- 8.2 データ保守定義の登録
- 8.3 データ保守定義を実行する手順





8.1. データ保守定義のための準備

■DB 定義への登録

dbSheetClient サーバ版に登録された DB の中で、データのメンテナンス作業をしたい DB を、DB 定義編集画面で定義します。



上の図では、DBNO 2番の定義が定義例です。

【 注意 】

- DB 定義の「場所」が「Local」と定義されている DB は、対象外です。
- ・データ保守のための DB は、DB 運用定義に定義する必要はありません。



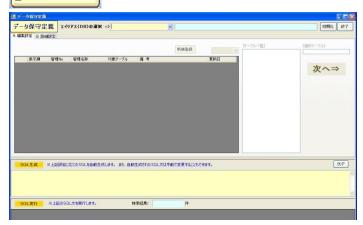


8.2. データ保守定義の登録

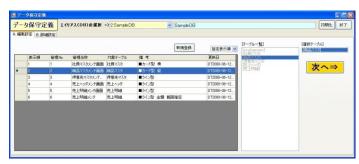
8.2.1. データ保守定義画面の起動

開発版メイン操作画面から **[7.データ保守定義]** ボタンをクリックすると、「データ保守定義」画面が表示されます。

2.データ保守定義



8.2.2. データ保守定義画面の説明



【A編集設定】

機能名/ボタン名	説 明
エイリアス(DB)	データ保守する対象のエイリアス(DB)を選びます。
A編集設定	既に登録された定義情報が表示されます。 表示されている定義情報を選択すると、修正・削除することができます。
新規登録	新たに、定義情報を登録する時に、このボタンをクリックします。
表示順	定義情報の表示するキーを切り替えます。
指定表示順	「表示順」列をキーにします。「B詳細設定」で変更することができます。
管理 No	「管理 No」列をキーにします。登録した順番で番号が決まるため、 変更できません。
テーブル一覧	エイリアス(DB)に含まれるテーブルが表示されます。
選択テーブル	テーブル一覧から選ばれたテーブル名が表示されます。
次へ⇒	選ばれたテーブルについて、詳細に設定するため、「B詳細設定」に移ります。
初期化	設定した内容を破棄します。
終了	データ保守定義を終了します。





【B詳細設定】

16詳細設定】	
機能名/ボタン名	説明
B詳細設定	選ばれたテーブルについて、詳細に設定します。
全	フィールド一覧のすべてのフィールドを、選択フィールド一覧に追加します。
選択テーブル名	選ばれたテーブル名が、表示されます。 例)[商品マスタ]
フィールド一覧	選ばれたテーブルに含まれるフィールドが一覧表示されます。フィールド名 をクリックすると、選択フィールド一覧に追加します。 例)[商品コード]
選択フィールド一覧	選ばれたフィールド名が、表示されます。 選ばれたフィールドの数が、[フィールド数] 欄に表示されます。 主キー(この場合は[得意先コード])は自動的に追加され、「除外」はできません。同じ項目を2回選択することはできません。 例)[商品マスタ] [商品コード]
「管理 No」	登録する順番で管理する番号です。変更することはできません。
↑	選択フィールドー覧のフィールド名をクリックした後に、[↑] [↓] ボタンをクリックすると、フィールド名の並び順が変更されます。
除外	選択フィールドー覧のフィールド名をクリックした後に、[除外] ボタンをクリックすると、フィールド名が削除されます。
カード型用フィールド 属性定義エリア	フィールドごとに、以下の3つの属性を定義することができます。 リスト型の時は、編集する必要がありません。
IME	日本語全角文字で入力する時は、ONにします。 半角文字で入力する時は、OFFにします。
文字幅	文字幅はピクセル値で数値を設定します。 デフォルトは 200pixel です。▲、▼設定します。
テキストモード	「シングル行」を選択すると、1行だけ入力できます。 「マルチ行」を選択すると、縦スクロールバーが付き、複数行入力できます。
SQL生成	「B.詳細設定」画面で編集対象となるフィールドを選択した後、[SQL 生成] ボタンをクリックすると、"SELECT"から始まる SQL 文を自動生成します。
SQL実行	SQL の実行結果が表示されます。同時に件数も表示されます。 この結果は、「カード型」データ保守定義の各入カテキストボックスの文字列 幅や IME の ON/OFF を決める際に参考にすることができます。
[確定] ボタン	データ保守画面について、詳細に設定します。
管理名称	データ保守画面のタイトルです。 例)社員マスタメンテ
表示順	A編集設定の一覧リストに表示する順番を設定します。 デフォルトの表示順は、管理 No と同じ数値です。
背景色	データ保守画面にあるテキストボックス等の背景色を設定します。設定する 項目は次の通りです。 ・全体背景、・入力項目、・DB編集テーブル、・「検索」ボタン、 ・「更新」ボタン、・「削除」ボタン、・「新規」ボタン、・「クリア」ボタン

(次ページにつづく)





(前ページからつづき:B詳細設定)

機能名/ボタン名		説明				
編集形式						
カード型	B編集テー 容が表示さ 「新規登録	、修正のためのテキストボックスを配置します。画面下部に、D ブルを配置します。DB編集テーブルには、DBのテーブルの内 れます。この表から修正するレコードを選びます。 」が可能です。				
リスト型	テーブルの	B編集テーブルが配置されます。DB編集テーブルには、DBの内容が表示されます。この表に対して、直接、修正できます。				
主キー		·ブルの主キーが自動的に表示されます。 ません。主キーは、最大5つまで使用できます。				
表示方向と折り返し	「編集形式	「編集形式」を「カード型」にした場合の設定です。				
縱方向	修正のため	のテキストボックスが縦一列に並びます。				
横方向	設定した列	トボックスが横に並びます。一行に並べる列数を設定します。 数の次のテキストボックスは、折り返して、次の行に並びます。				
改ページ行	表示データ	ーブルの 1 ページ分の行数を指定します。 数より少ない場合は、すべてのデータを表示するために必要なペ 表示されます。ページ番号をクリックで、表示が切り替わります。				
テーブル幅	DB編集テ	ーブルを表示する幅(Pixel)を指定します。				
新規登録		」を「カード型」にした時の設定です。 !」ボタンを追加する場合、「ON」にします。				
削除機能	レコード [削除] ボタンを追加する場合は「ON」にします。				
備考	A編集設定	の一覧にある備考欄に表示されます。				
URL	データ保守	画面の URL が表示されます。編集できません。				
検索条件エリア	DB編集テーブルのデータを絞り込むための検索条件を設定します。					
検索キー	設定したキ 最大3つま	ーブルのデータを絞り込むための検索キー項目を設定します。 一項目を解除する時は、「DEL」キーを押してください。 で設定できます。2つ以上設定した時は、検索条件は AND 条件 ます。[検索キー1]の設定は必須です。				
IME		日本語全角文字で入力する時は、ONにします。 半角文字で入力する時は、OFFにします。				
文字幅(Pixel)	文字幅はピ	プクセル値で数値を設定します。デフォルトは 200pixel です。				
検索モード	次の5種類	から設定できます。				
	完全一致	検索キーと(検索)対象データが完全に一致するデータが対象				
	前方一致	文字列の先頭部分が検索キーと一致するデータが対象				
	後方一致	文字列の末尾部分が検索キーと一致するデータが対象				
	中間一致	文字列のどこかに検索キーと一致する部分があれば対象				
	範囲指定	From~To~で範囲を指定し、その間のデータが対象(指定したデータを条件に含めます。 例)2~4:2以上4以下) [検索キー1]に限り設定できます。「範囲指定」を設定すると、「検索キー2]、「検索キー3]には検索条件を設定できません。				
Excel 出力ボタン		'実行画面から Excel ファイルを出力する際、チェックします。 xcel2000 以前のバージョンには未対応です。				
テスト実行	設定した属 ▼注意 実	性値を使って、データ保守画面を表示します。 に際のデータベースのデータに反映します。「更新」 ボタンや [削除] リックする時は、注意してください。				
更 新	設定した属	性値を保存します。				
削除	定義を削除	・ します。				





8.2.3. データ保守画面サンプルの説明

■カード型 縦方向



機能名/ボタン名	説明
検索エリア	検索結果が、1件の場合は、自動でデータが選ばれます。 入力エリアにデータが表示されます。
新規作成ボタン	データを新規に作成します。
入力エリア	テキストボックスで、データを入力・修正します。
変更ボタン	レコードにデータが登録されます。
削除ボタン	レコードが削除されます。
DB編集テーブル	
選択ボタン	クリックすると、このレコードのデータが、入力エリアの テキストボックスに表示されます
フィールド名	クリックすると、このフィールド名をキーとしてソートします。
表示ページ	クリックすると、そのページのデータが表示されます。
Excel 出力ボタン	チェックを入れると、データ保守実行時に Excel ファイル保存するための「Excel 出力」ボタンを表示します。 ▼注意 Excel2000 以前のバージョンには未対応です。





■リスト型



機能名/ボタン名	説 明
検索クリアボタン	検索条件をクリアします。 DB編集テーブルには、全てのデータが表示されます。
DB編集テーブル	
編集	このレコードについて、データを編集します。 [更新] ボタンと [キャンセル] ボタンが表示されます。
更新	このレコードのデータが登録されます。
キャンセル	データを破棄します。
削除	レコードが削除されます。
フィールド名	クリックすると、このフィールド名をキーとしてソートします。
表示ページ	クリックすると、そのページのデータが表示されます。

■他のユーザが編集中の時の処理

[選択] ボタンや [編集] ボタンをクリックした時、既に他のユーザが同じレコードについて編集している場合は、「他のユーザが編集中です」というメッセージが表示されます。

他のユーザが編集中にトラブルが発生しても、編集時刻から3時間を過ぎると、レコードを編集できるようになります。



db

8.2.4. データ保守定義の手順(新規登録)

下図のようなデータ保守画面を新規登録する手順を説明します。





■エイリアス(DB)を選びます。

この説明では、「SampleDB」を例として選びます。

既に定義が登録されていれば、一覧に表示されます。

■ [新規登録] ボタンをクリックします。

[新規登録] ボタンに背景色が付き、新規登録の状態であることがわかります。

[テーブル一覧] が、選ぶことができるようになります。

■テーブルを選びます。

この説明では、「商品マスタ」をクリックします。

[選択テーブル] エリアに「商品マスタ」と表示されます。

[次へ⇒] ボタンに背景色が付き、「B詳細設定」に移ることができるようになります。

■ [次へ⇒] ボタンをクリックします。

「B詳細設定」に移ります。



■フィールドを選びます。

[全] ボタンをクリックし、全てのフィールドを選びます。

■ [確定] ボタンをクリックします。

詳細設定エリアが編集できるようになります。





■詳細設定を定義します。

次の項目を変更します。

・管理名称 商品マスタメンテ画面

• 背景色 **[col]** ボタンをクリックすると、

ダイアログが表示されます。

色を選び [OK] ボタンをクリック

します。

・ 改ページ行

•新規登録 ON

・テーブル幅 1000

検索キー2 商品名 [IME] ON [検索モード] 中間一致

検索キー3 分類 [IME] ON [検索モード] 中間一致

・Excel 出力ボタン データ保守実行画面で Excel 出力する場合は、チェックします。

■ [テスト実行] ボタンをクリックします。

テスト実行画面が表示されます。定義した内容を確認します。

■ [閉じる] ボタンをクリックします。

テスト実行画面が閉じます。

■ [登録] ボタンをクリックします。

登録の確認ダイアログで、[OK] ボタンをクリックします。

A編集設定に移ります。

一覧に、登録した定義が追加されています。









8.2.5. データ保守定義の手順(編集)

新規登録した定義に対して、カード型からリスト型に変更する手順を説明します。





■エイリアス(DB)を選びます。

この説明では、「SampleDB」を例として選びます。

既に定義が登録されていれば、一覧に表示されます。

■ [編集] ボタンをクリックします。

[編集] ボタンに背景色が付き、編集の状態であることがわかります。

保守一覧が、選ぶことができるようになります。

■定義を選びます。

この説明では、商品マスタメンテ画面をクリックします。

選択テーブルエリアに商品マスタと表示されます。

「次へ⇒」ボタンに背景色が付き、B詳細設定に移ることができるようになりました。

■ [次へ⇒] ボタンをクリックします。

B詳細設定に移ります。





■詳細設定を定義します。

次の項目を変更します。

・編集形式 リスト型



■ [テスト実行] ボタンをクリックします。

テスト実行画面が表示されます。定義した内容を確認します。

■ [閉じる] ボタンをクリックします。

テスト実行画面が閉じます。

■ [更新] ボタンをクリックします。

更新の確認ダイアログで、[OK] ボタンをクリックします。

A編集設定に移ります。





8.3. データ保守定義を実行する手順

8.3.1. タスク定義

■データ保守定義を実行するには、タスク定義編集で以下のように設定します。

管理NO(汎用パラメータ1)を指定する時は [データ保守選択] ボタンをクリックすると、データ保守定義画面の、A編集設定画面にある保守一覧と同じ定義リストが表示されます。



■データ保守定義を終了するには、タスク定義編集で以下のように設定します。

- ■データ保守定義を実行中に、別のメニューを起動したり、ボタンをクリックして、Excel シートを表示した場合は、データ保守定義を終了します。
- ■この説明では、保守メニューの [商品マスタ保守] ボタンにデータ保守定義の実行タスク(200)を定義し、 [戻る] ボタンに終了タスク(210)を定義しています。

	A	В	С	D	Е	
1	BSNO	ボタンNO	ボタン名表示名	TASKNO	タスク名	権限
8	5	1	商品マスタ 保守	200	データ保守実行	
9	5	2	戻る(閉じる)	210	データ保守実行	
4.00				7,000,000		





8.3.2. タスクを実行

タスクを実行してみましょう。



[商品マスタ 保守] ボタンをクリックすると、データ保守定義が実行されます。



[戻る(閉じる)] ボタンを、クリックすると、データ保守定義を終了します。









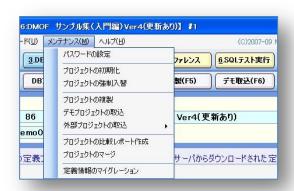


第9章 メンテナンス機能

本章では、プロジェクトに関連する各種メンテナンス機能について説明します。

- 9.1 パスワードの設定
- 9.2 プロジェクトの初期化
- 9.3 プロジェクトの強制入替
- 9.4 プロジェクトの複製
- 9.5 デモプロジェクトの取込
- 9.6 外部プロジェクトの取込
- 9.7 プロジェクトの比較レポート作成
- 9.8 プロジェクトのマージ
- 9.9 定義情報のマイグレーション
- ※メンテナンス機能を利用するには、一定以上の開発権限レベルが必要になります。

開発権限レベルについては、『3.1 dbSheetClientメイン操作画面の説明』に記載していますので、 そちらを参照してください。



【メンテナンスの機能と開発権限レベル】

			開発権限→		_				_	_			10
No.	メニュー	コマンド	機能	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ALL
1		パスワードの設定	プロジェクト定義情報に「パス ワード」を設定します。	×	×	×	0	0	0	0	0	0	0
2		プロジェクトの初期化	プロジェクト定義情報をサーバ上 から消去して「初期化」します。	×	×	×	×	0	0	0	0	0	0
3		プロジェクトの強制入替	サーバ上のプロジェクト情報を一 旦消去して、選択したプロジェクト 情報に強制的に置き換えます。	×	×	×	×	0	0	0	0	0	0
4		プロジェクトの複製	開発用フォルダで編集中のプロ ジェクトを別のプロジェクトに複製 します。	×	×	×	×	×	0	0	0	0	0
5	メンテナンス(M)	デモプロジェクトの取込	(株)ニューコムが提供するデモプロ ジェクトを取り込みます。	×	×	×	×	×	×	0	0	0	0
6		外部プロジェクトの取込	サードパーティ(他社)が開発した プロジェクトを取り込みます。	×	×	×	×	×	×	×	0	0	0
7		プロジェクトの 比較レポート作成	2つのプロジェクト定義情報を比較したレポートを作成します。	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8		プロジェクトのマージ	2つ以上の複数のプロジェクト定 義情報をマージして、1つの統合 したプロジェクトを作成します。	×	×	×	×	×	0	0	0	0	0
9		定義情報の マイグレーション	システムがバージョンアップされ たときに、旧プロジェクト情報のマ イグレーション(データ移行)をお こないます。	×	×	×	×	×	×	×	×	0	0





9.1. パスワードの設定

9.1.1. パスワードの設定の概要

プロジェクト定義ファイルにパスワードを設定することができます。パスワードを設定すると、「定義編集」を開始するときにパスワードの入力が要求されるようになります。また、dbSheetClient で開発したアプリケーション(プロジェクト)は第三者に提供することができますが、このとき、第三者のサーバにプロジェクトを取り込む際にはパスワードを設定しておく必要があります。

※ パスワード設定後にパスワードを忘れると定義編集ができなくなりますので注意してください。

9.1.2. パスワードの設定の操作手順

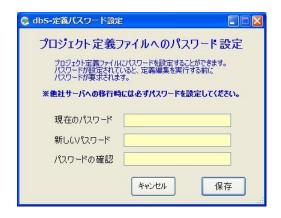
パスワードの設定は、以下の手順でおこないます。

操作手順① : パスワード設定画面を起動する 操作手順② : パスワードを入力して保存する

■操作手順① :パスワード設定画面を起動する

開発版メイン操作画面から「メンテナンス」-「パスワードの設定」メニューをクリックするとパスワード設定画面が表示されます。

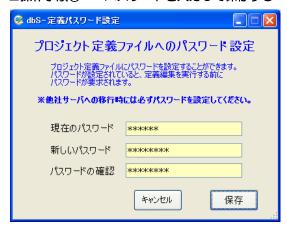
0.047 1定数数数 3.06	デナンス000 ヘルプ位 バスワードの配定	פינועם	SOLテスト実行	Newcom Co.11d GG 27~知守定義
環境設定 アップロード(F1) Exce(アップ(F2) DB	プロジェクトの43期化 プロジェクトの強制入替	#(F5)	デモ取込(F6)	
プロジェか 情報 組織D 135 プロジェか名 83 プロジェか 安養ファイル名 dkS sAPPLOS	プロジェクトの発製 デモプロジェクトの取込 外部プロジェクトの取込			
	プロジェクトの比較レポート作成 プロジェクトのマージ			
◆実行用フォルダ◆ ※実行用フォルダには、実行用の定義: C ¥dtSheetClientVDevelogV4VrunVsAPPLV	立葉佳器のマイグレーション	サーバからダウン	ロードされた定	表ファイルです)
実内用ウェルジから 字案ファイルをフピーマる	The second secon		V	ム仕様 定義アップ or Ver.
アップロード日和	2010-04-05 1 開発フォルダにコピーすることがで	the same of the same of	3	00 2
		A (
◎開発用フォルダ◎	2010年4月5日	F 16 52 42	529	ム仕種 定義アップ er Ver
ファイルの更新日輪		6:15:48.880	9000	00 2
開発用フォルダを支更する アップロード日時				







■操作手順② : パスワードを入力して保存する



- (1) 現在のパスワードを入力します。(パスワード未設定の場合は入力不要です。)
- (2) 新しいパスワードを入力します。
- (3) パスワードの確認で、新しいパスワードを再入力します。
- (4) [保存] ボタンをクリックすると、新しいパスワードが保存されます。 [キャンセル] ボタンをクリックした場合は、保存せずに元の画面へ戻ります。
- ※ パスワードが設定されると、「定義編集」を開始するときに、以下のようにパスワードの入力画面が表示されるようになります。



※ パスワード設定後は、『7.2 プロジェクト定義情報のアップロード』を必ず実施してください。 アップロードがおこなわれるまでは、サーバのプロジェクト定義情報には反映されません。





9.2. プロジェクトの初期化

9.2.1. プロジェクトの初期化の概要

サーバにアップロードしたサーバ側のプロジェクト定義情報を削除し、初期化することができます。 テスト用として作成したプロジェクト定義情報を初期化して、最初からプロジェクト定義編集をおこなう 時などに利用することができます。また、プロジェクトの複製、デモプロジェクトの取込、外部プロジェ クトの取込をおこなう時には、事前に取込先のプロジェクトを初期化しておく必要があります。

※ プロジェクト定義情報の初期化は、サーバ側のプロジェクト自体が削除されるのではなく、 プロジェクト定義情報だけが初期化されて、中身の無い初期状態になります。 プロジェクト自体を削除する場合は、サーバ版でおこなってください。

9.2.2. プロジェクトの初期化の操作手順

プロジェクトの初期化は、以下の手順でおこないます。

操作手順① :プロジェクトの初期化画面を起動する

操作手順②(ステップ①):プロジェクト定義情報を取り込んで定義情報を確認する

操作手順③ (ステップ②): プロジェクトの初期化を実行する

■操作手順① :プロジェクトの初期化画面を起動する

ログイン画面で、初期化したいプロジェクトを選択して開発版を起動したのち、開発版メイン操作画面から「メンテナンス」--「プロジェクトの初期化」メニューをクリックすると「プロジェクトの初期化」画面が表示されます。









© dbS−プロジェクトの初期化			
【メンテナンス】 プ	ロジェクトの初期化		89.7
【ステップ1】プロジェクト定義ファイルの内容を確認したのち、【定義情報の確認】ポタンをクリックしてください。			
★初期化したいプロジェクト定義ファイルの内容★			
組織ID 135 プロジェクト名 83 サンブルWebアブリケーション			
フォルダ名 C:VdbSheetClientVDevelopV4VdevVsAPPL			
ファイル名	dbS_sAPPL083.dbs		1)システム仕様Ver. 300
更新時刻	2010年4月5日 16:52:42		2)定義アゥブVer. 2
※ 更新時刻が最新かを必ず確認してください。!!			
【1】 ステップの		【2】 ステップの	
容楽性機の	取り込んだレコード数		初期化铼のバージョン情報
定義情報の確認		初期化実行	1)システム仕様Ver. 300
		7JJ9J1C,32,FT	2)定義アゥフVer. 0

■操作手順②(ステップ①):プロジェクト定義情報を取り込んで定義情報を確認する



- (1)表示されているプロジェクトの定義ファイルを初期化しても問題ないか確認します。
- (2) [定義情報の確認] ボタンをクリックすると、定義情報が取り込まれ、各定義シートのレコード数が表示されます。ここで、初期化して問題ないかを再度確認してください。
- ■操作手順③ (ステップ②): プロジェクトの初期化を実行する







- (1) [初期化実行] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。 ここで、[はい] ボタンをクリックすると、サーバ内のプロジェクト情報が初期化されます。 [いいえ] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
- ※プロジェクトの初期化を実行すると、開発用フォルダのプロジェクト定義ファイルは、() 内に「初期化前の定義アップ Ver.」番号が追加された名称で、バックアップファイルとして保存されます。
- ※初期化が正常終了すると、サーバ側のプロジェクト情報の「定義アップ Ver.」はOに変更されます。 サーバから初期化されたプロジェクト定義ファイルがダウンロードされ、開発用フォルダに コピーされた後初期化状態から開発することができるようになります。

【参考】

初期化直前のプロジェクト定義ファイル名は、開発用フォルダにバックアップファイル用としてリネームされて保存されます。上記の例では、ファイル名が dbS_sAPPLO83.dbs で、直前の定義アップ Ver.が 2 なので、バックアップファイル名は、dbS_ sAPPLO83 (2).dbs になります。誤って初期化したときや同時開発中にデグレードしたときに、バックアップファイルを利用して、プロジェクトをアップロードしたり、プロジェクトの強制入替をして、元に戻すことができます。バックアップファイルは不要であれば削除してください。





9.3. プロジェクトの強制入替

9.3.1. プロジェクトの強制入替の概要

初期化処理で間違って別のプロジェクトを初期化または、同時開発中にデグレードした場合には、プロジェクトを元の状態に戻す必要があります。

本機能を利用すると、バックアップされているプロジェクト定義ファイルから元の状態に戻すことができます。

9.3.2. プロジェクトの強制入替の操作手順

プロジェクトの強制入替は、以下の手順でおこないます。

操作手順① :プロジェクトの強制入替画面を起動する

操作手順②(ステップ①):強制入替用定義ファイルから定義情報を取り込む

操作手順③(ステップ②): 定義アップ Ver.を入力してサーバにプロジェクト情報を送信する

※プロジェクトの強制入替を行う前に、サーバ側の定義アップ Ver のバージョンをメモしておいてください。強制入替初期化後にサーバ側の定義アップ Ver の入力操作があります。

■操作手順① :プロジェクトの強制入替画面を起動する

ログイン画面で、強制入替したいプロジェクトを選択して開発版を起動したのち、開発版メイン操作画面から「メンテナンス」-「プロジェクトの強制入替」メニューをクリックすると「プロジェクトの強制入替」画面が表示されます。



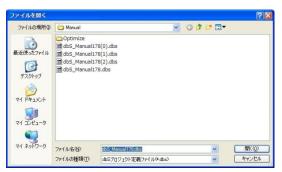






■操作手順②(ステップ①):強制入替用定義ファイルから定義情報を取り込む





- (1) [強制入替用定義ファイルの選択] ボタンをクリックすると、ファイル選択の画面が表示されます。
- (2) 初期化処理で作成されたバックアップファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックします。 定義情報が取り込まれます。
- (3) 定義情報が取り込まれると、プロジェクト情報と各定義シートのレコード件数が表示されます。









■操作手順③ (ステップ②): 定義アップ Ver.を入力してサーバにプロジェクト情報を送信する





- (1) 送信後の、定義アップ Ver.を入力します。(この説明では、2を入力しています。)
- (2) [サーバに送信] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (3) **[はい]** ボタンをクリックすると、サーバにプロジェクト定義情報が送信されます。 **[いいえ]** ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
 - ※プロジェクトの強制入替処理では、サーバ内のプロジェクト情報を一度初期化してから プロジェクトを全て送信します。
 - この送信処理は時間を要します。送信処理中の画面操作は不可となりますので、送信処理が終了するまでお待ちください。
- (4) 強制入替処理が正常に終了すると、復旧したプロジェクト定義ファイルがサーバからダウンロードされます。

「定義アップ Ver.」が、入力したバージョンに変更され、そのまま開発用フォルダにコピーされます。









9.4. プロジェクトの複製

9.4.1. プロジェクトの複製の概要

本稼働中のプロジェクトを再利用して、次期改良版を別プロジェクトとして開発し、テストが完了した 段階でリリースしたい場合などがあります。

本機能を利用すると、選択したプロジェクトを別プロジェクトとして複製することができます。

※ 有効なプロジェクトを誤って上書きしてしまうといったトラブル防止のため、コピー先として選択できるプロジェクトは、サーバ版で登録した直後の初期状態か、初期化したプロジェクトのみとなっています。

9.4.2. プロジェクトの複製の操作手順

プロジェクトの複製は、以下の手順でおこないます。

操作手順① :プロジェクトの複製画面を起動する

操作手順②(ステップ①):選択されているプロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む

操作手順③ (ステップ②): コピー先のプロジェクトを選択する

操作手順④ (ステップ③): プロジェクト ID を変更する

操作手順⑤ (ステップ④): サーバにプロジェクト定義情報を送信する

■操作手順① :プロジェクトの複製画面を起動する

ログイン画面で、複製したいプロジェクトを選択して開発版を起動したのち、開発版メイン操作画面から「メンテナンス」--「プロジェクトの複製」メニューをクリックすると「プロジェクトの複製」画面が表示されます。













- (1) **[定義情報の取り込み]** ボタンをクリックすると、開発フォルダに表示されているプロジェクト 定義情報が取り込まれます。
- ■操作手順③ (ステップ②): コピー先のプロジェクトを選択する



(1) **リストボックス**をクリックして、リストボックスからコピー先プロジェクトを選択してください。 初期化されたプロジェクトを選択すると、[プロジェクト ID の変更] ボタンが有効になります。 (初期化されていないプロジェクトを選ぶと、右下のようなエラーメッセージが表示されます。)











■操作手順④ (ステップ③): プロジェクト ID を変更する



(1) **[プロジェクト ID の変更]** ボタンをクリックして、選択したプロジェクトのプロジェクト ID を、 コピー先のプロジェクト ID に変更します。

変更後は、定義シートごとのプロジェクト定義情報が下部に表示されますので、正しくプロジェクト情報が取り込まれているかを確認してください。

(2) コピー先の定義アップ Ver.は、デフォルトで1に設定されますが、必要に応じて任意の値に変更することができます。

※上記の例では、

コピー元のプロジェクト ID:178 DR 勤怠管理

コピー先のプロジェクト ID: 177 DR 人事管理

に複製され、プロジェクトIDが177に変換されています。





■操作手順⑤ (ステップ④):サーバにプロジェクト定義情報を送信する



- (1) [サーバに送信] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、サーバにプロジェクト定義情報が送信されます。 **[いいえ]** ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
 - ※プロジェクトの送信処理には、容量により時間を要しますので、処理中は画面操作を おこなわないようにしてください。
- (3) 送信処理が正常に終了すると、複製されたプロジェクト定義ファイルがサーバからダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。









9.5. デモプロジェクトの取込

9.5.1. デモプロジェクトの取込の概要

本機能は、弊社で作成したデモプロジェクトをユーザ様のサーバにプロジェクトとして取り込む機能です。

※ プロジェクトの複製と同様に、取込側のプロジェクトはサーバ版で登録した直後の初期状態か、 事前に初期化しておく必要があります。

9.5.2. デモプロジェクトの取込の操作手順

デモプロジェクトの取込は、以下の手順でおこないます。

操作手順① : デモプロジェクトの取込画面を起動する

操作手順②(ステップ①):デモプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する操作手順③(ステップ②):選択したデモプロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む

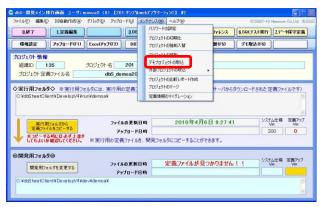
操作手順④ (ステップ③): 取込先のプロジェクトを選択する

操作手順⑤ (ステップ④): プロジェクト ID を変更する

操作手順⑥(ステップ⑤):サーバにプロジェクト定義情報を送信する

■操作手順① :デモプロジェクトの取込画面を起動する

ログイン画面で、デモプロジェクトとして取込先のプロジェクトを選択し開発版を起動したのち、開発版メイン操作画面から「メンテナンス」ー「デモプロジェクトの取込」メニューをクリックすると「デモプロジェクトの取込」画面が表示されます。









【 注意 】

「定義ファイルが見つかりません」のダイアログが表示されたときは、処理できません。

[実行用フォルダから定義ファイルをコピーする] ボタンをクリックして、開発用フォルダに初期化されたプロジェクト定義ファイルをコピーしてください。





■操作手順②(ステップ①):デモプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する



- (1)[デモプロジェクトの選択] ボタンをクリックすると、ファイル選択の画面が表示されます。
- (2) デモプロジェクト定義ファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックします。 デモプロジェクト定義ファイルの内容が表示されます。



■操作手順③(ステップ②):選択したデモプロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む



(1) **[定義情報の取り込み]** ボタンをクリックすると、選択したデモプロジェクト定義ファイルから 定義情報が取り込まれます。







■操作手順④ (ステップ③): 取込先のプロジェクトを選択する



(1) **リストボックス**をクリックして、リストボックスから取込先プロジェクトを選択してください。 初期化されたプロジェクトを選択すると、「プロジェクト ID の変更」ボタンが有効になります。 (初期化されていないプロジェクトを選ぶと、右下のようなエラーメッセージが表示されます。)









■操作手順⑤ (ステップ④): プロジェクト ID を変更する



(1) **[プロジェクト ID の変更]** ボタンをクリックして、選択したプロジェクトのプロジェクト ID を、 取込先のプロジェクト ID に変更します。

変更後は、定義シートごとのプロジェクト定義情報が下部に表示されますので、正しくプロジェクト情報が取り込まれているかを確認してください。

(2) 取込先の定義アップ Ver.は、デフォルトでは、デモプロジェクトと同じ番号に設定されますが、 必要に応じて任意の値に変更することができます。

※上記の例では、

デモプロジェクトID : 142 文具発注照会

取込先プロジェクトID : 201 サンプル web アプリケーション C に取り込まれて、プロジェクトID が、201に変換されています。





■操作手順⑥ (ステップ⑤): サーバにプロジェクト定義情報を送信する



- (1) **[サーバに送信]** ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、サーバにプロジェクト定義情報が送信されます。 **[いいえ]** ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
 - ※プロジェクトの送信処理には、容量により時間を要しますので、処理中は画面操作を おこなわないようにしてください。
- (3) 送信処理が正常に終了すると、取り込まれたデモプロジェクト定義ファイルがサーバから ダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。



- ※取り込まれたデモプロジェクトが正しく実行するかを、デバッグ実行や定義編集などを実行して確認してください。
- ※デモプロジェクトを実行するには、事前にデータベースの設定や Excel ブックファイルの設定も 必要になります。デモプロジェクトに関しての説明にしたがって設定をしてください。





9.6. 外部プロジェクトの取込

9.6.1. 他社製品プロジェクトの取込の概要

本機能は、サードパーティ(他社)が作成したプロジェクトをユーザ様のサーバにプロジェクトとして 取り込む機能です。

- ※ プロジェクトの複製、デモプロジェクトの取込と同様に、取込先のプロジェクトはサーバ版で登録 した直後の初期状態か、事前に初期化しておく必要があります。
- ※ DB 定義のパスワードを設定している場合、再設定する必要があります。

9.6.2. 他社製品プロジェクトの取込の操作手順

他社製品プロジェクトの取込は、以下の手順でおこないます。

操作手順① : 他社製品プロジェクトの取込画面を起動する

操作手順②(ステップ①):他社製品プロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する操作手順③(ステップ②):選択した他社製品プロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む

操作手順④ (ステップ③): 取込先のプロジェクトを選択する

操作手順⑤ (ステップ④): プロジェクト ID を変更する

操作手順⑥ (ステップ⑤): サーバにプロジェクト定義情報を送信する

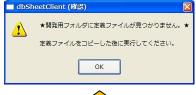
操作手順⑦ (ステップ⑥): DB定義のパスワードを再設定する

■操作手順① :他社製品プロジェクトの取込画面を起動する

ログイン画面で、他社製品を取込む側のプロジェクトを選択して開発版を起動したのち、開発版メイン操作画面から「メンテナンス」-「外部プロジェクトの取込」-「他社製品の取込」メニューをクリックすると「他社製品の取込」画面が表示されます。









【 注意 】

「定義ファイルが見つかりません」という 画面が表示されたときは、処理することが できません。「実行用フォルダから定義ファ イルをコピーする」をクリックします。開 発用フォルダに初期化された定義ファイル をコピーしてください。





■操作手順②(ステップ①):他社製品プロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する



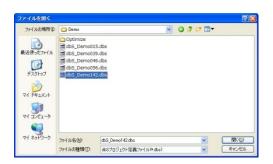


(1) 製品パスワードを入力します。

【 注意 】

他社製品プロジェクトには、不正コピーを防止するために、パスワードがあらかじめ設定されています。パスワードを入力しないで「他社プロジェクトの選択」ボタンをクリックすると、エラーメッセージが表示されます。

(2) [他社プロジェクトの選択] ボタンをクリックします。ファイルを選ぶ画面が表示されます。



(3) 他社提供のプロジェクト定義ファイルを選び、[**開く**] ボタンをクリックすると、 プロジェクト情報が表示されます。









■操作手順③ (ステップ②): 選択した他社製品プロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む



(1) [定義情報の取り込み] ボタンをクリックすると、選択した他社製品プロジェクト 定義ファイルから定義情報が取り込まれます。









■操作手順④ (ステップ③): 取込先のプロジェクトを選択する



(1) **リストボックス**をクリックして、リストボックスから取込先プロジェクトを選択してください。 初期化されたプロジェクトを選択すると、「プロジェクト ID の変更」ボタンが有効になります。 (初期化されていないプロジェクトを選ぶと、右下のようなエラーメッセージが表示されます。)











■操作手順⑤ (ステップ④): プロジェクト ID を変更する



(1) **[プロジェクト ID の変更]** ボタンをクリックして、選択したプロジェクトのプロジェクト ID を、 取込先のプロジェクト ID に変更します。

変更後は、定義シートごとのプロジェクト定義情報が下部に表示されますので、正しくプロジェクト情報が取り込まれているかを確認してください。

(2) 取込先の定義アップ Ver.は、デフォルトでは、他社製品プロジェクトと同じ番号に設定されますが、必要に応じて任意の値に変更することができます。

※上記の例では、

他社製品プロジェクトID: 142 文具発生照会取込先のプロジェクトID: 177 DR 人事管理

に取り込まれて。プロジェクトIDが 177 に変更されます。





■操作手順⑥ (ステップ⑤):サーバにプロジェクト定義情報を送信する



- (1) **[サーバに送信]** ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、サーバにプロジェクト定義情報が送信されます。 **[いいえ**] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
 - ※プロジェクトの送信処理には、容量により時間を要しますので、処理中は画面操作を おこなわないようにしてください。
- (3) 送信処理が正常に終了すると、取り込まれた他社製品プロジェクト定義ファイルがサーバから ダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。



- ※取り込まれた他社製品プロジェクトが正しく実行するかを、デバッグ実行や定義編集などを実行して 確認してください。
- ※他社製品プロジェクトを実行するには、事前にデータベースの設定や Excel ブックファイルの設定も 必要になります。他社製品プロジェクトに関しての説明にしたがって設定をしてください。

■操作手順⑦ (ステップ⑥): DB定義のパスワードを再設定する

DB定義にパスワードを定義されている場合は、dbSheetClient側のパスワード保護のため、DBのパスワードを再度設定する必要があります。本書第2部の「第4章 定義編集画面の操作方法の4.7. 各定義の編集方法の4.7.1. データベース定義」も参照して下さい。





9.7. プロジェクトの比較レポート作成

9.7.1. プロジェクト定義情報の比較レポート作成の概要

本機能は、2つのプロジェクト定義情報を比較したレポートを作成するための機能です。 比較レポートを、Excel ファイルとして保存することができます。 サーバのプロジェクト定義情報と、開発版で更新したプロジェクト定義情報を比較できます。 複数回にわたり、開発版で更新したプロジェクト定義情報をサーバにアップロードした時なども、 2つのプロジェクト定義情報を比較できます。

※ 比較する2つのプロジェクト定義情報(ファイル)は、両方とも同じ組織 ID になっている必要があります。組織 ID の異なるプロジェクト定義情報の比較はできませんので、注意してください。

9.7.2. プロジェクト定義情報の比較レポート作成の操作手順

プロジェクト定義情報の比較レポート作成は、以下の手順でおこないます。

操作手順① :プロジェクト定義情報の比較レポート作成画面を起動する

操作手順②(ステップ①):新旧、2つのプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する

操作手順③ (ステップ②): 比較処理を実行する

操作手順④ (ステップ③):比較レポート作成を実行する

ここでは、異なるバージョンを比較する手順を説明します。

Ver 1 dbS_sSeminar057(1).dbs

Ver 2 dbS_sSeminar057(2).dbs

◆ 補足

サーバのプロジェクト定義情報と、開発版で更新したプロジェクト定義情報を比較には、 次のファイルを比較します。

実行用フォルダ C:\footnote{Client\footnote{DevelopV5\footnote{run}\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\footnote{sseminar\foot





■操作手順① :プロジェクト定義情報の比較レポート作成画面を起動する

開発版メイン操作画面 から 「メンテナンス」 — 「プロジェクトの比較レポート作成」メニューをクリックすると「プロジェクト定義情報の比較レポート作成」画面が表示されます。









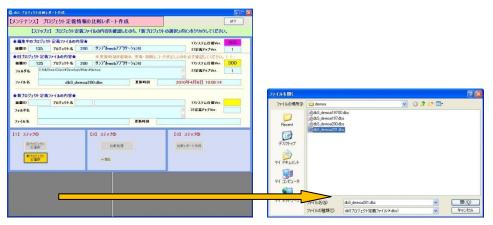


■操作手順②(ステップ①): 新旧、2つのプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する



- (1) [旧プロジェクトの選択] ボタンをクリックします。ファイルの選択画面が表示されます。
- (2) 旧プロジェクト定義ファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックすると、 プロジェクト情報が表示されます。





- (3) [新プロジェクトの選択] ボタンをクリックします。ファイルの選択画面が表示されます。
- (4) 新プロジェクト定義ファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックすると、 プロジェクト情報が表示され、 [**比較処理**] ボタンが有効になります。

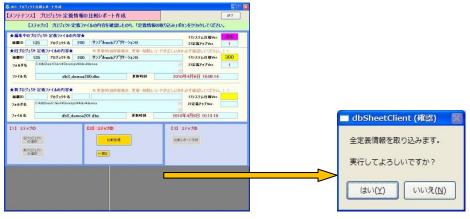






(the

■操作手順③ (ステップ②):比較処理を実行する



- (1) [比較処理] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、選んだ2つのプロジェクト定義ファイルから定義情報を 取り込みます。取込後、**[比較レポート作成**] ボタンが有効になります。

[いいえ] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。





■操作手順④ (ステップ③): 比較レポート作成を実行する



(1) [比較レポート作成] ボタンをクリックすると、比較レポート作成が実行され、作成されたレポート情報が表示されます。





9.7.3. プロジェクト定義情報の比較レポートの読み方

プロジェクト定義情報の比較レポートには、新旧の定義情報が、上下に配置されています。 新旧の異なる部分が、オレンジの背景色になります。



この例では、ボタン定義を表示しています。

旧プロジェクト定義情報では、ボタンは2つ定義されています。

新プロジェクト定義情報では、ボタンは4つ定義されています。

まず、旧プロジェクト定義情報が表示され、次の行に新プロジェクト定義情報が表示されます。

旧プロジェクト定義情報のボタンNOが3と4には、定義されていませんのでボタン名表示名には 「追加」と表示されています。

新プロジェクト定義情報のボタンNOが3と4には、ボタン名表示名、TASKNO、タスク名が 異なりますので、セルの背景色がオレンジになっています。

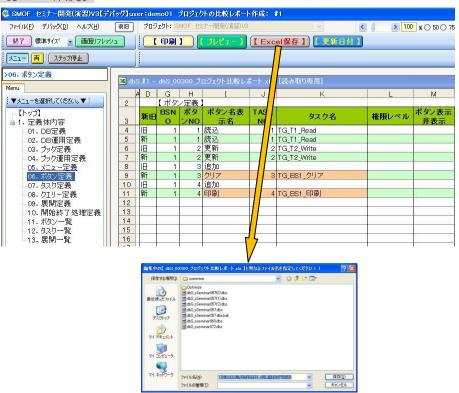




9.7.4. プロジェクト定義情報の比較レポートを Excel ファイルとして保存する操作手順

プロジェクト定義情報の比較レポートを Excel ファイルとして保存できます。

[【Excel 保存】] ボタンをクリックすると、ファイルを保存する画面が表示されます。



【保存】ボタンをクリックすると、Excel ファイルが作成されます。

【 注意 】

ファイルを保存する時は、編集中のファイルと異なるファイル名にしてください。

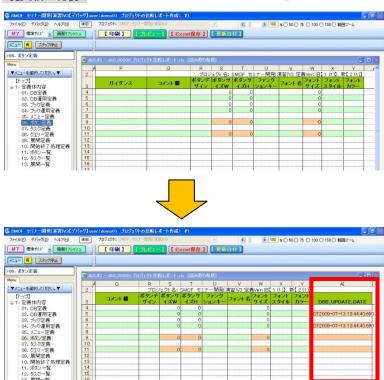




9.7.5. プロジェクト定義情報の比較レポートに「更新日付」を表示させる操作手順

プロジェクト定義情報の比較レポートには、「更新日付」が非表示の状態になっています。

[【更新日付】] ボタンをクリックすると、「更新日付」を表示させます。



再び、[【更新日付】] ボタンをクリックすると、「更新日付」を非表示にします。





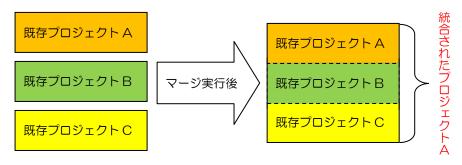
9.8. プロジェクトのマージ

9.8.1. プロジェクト定義情報のマージの概要

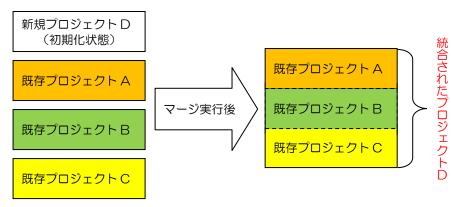
本機能は、2つ以上の複数のプロジェクト定義情報をマージして、1つの統合したプロジェクトを作成するための機能です。複数のプロジェクトを1つにまとめて、新たなプロジェクトを作成したり、複数の人数で分散して開発したプロジェクトを、最終的に1つのプロジェクトにまとめたい場合などに利用することができます。

※プロジェクトをマージする方法としては、以下のようなマージができるようになっています。

- 1) 既存のあるプロジェクトをベースにして、他の既存プロジェクトをマージする。
 - 例) 既存プロジェクト A をベースにして既存プロジェクト B、C をマージする場合



- 2) 新規の初期化プロジェクトをベースにして、他の既存プロジェクトをマージする。 (既存のベースとなるプロジェクトをそのまま残しておきたい場合などに有効です。)
 - 例)新規プロジェクトDに既存プロジェクトA、B, Cをマージする場合



【 注意 】

- ※マージするプロジェクトのデータベース(DB定義、運用DB定義)と、Excel ブック (ブック定義、運用ブック定義) の環境は合わせるようにしてください。
- ※開発途中のプロジェクトはマージしないようにしてください。(マージ後プロジェクトの定義 No.等が採番し直されて、元の定義 No.が変更となり混乱する可能性があるため。)
- ※各プロジェクトの定義名(タスク名、クエリー名、展開名、ボタンセット名等)の重複が発生 した場合、後から重複した定義名の最後に括弧付番号 '(1),(2)…'を付加するようになってい ます。
- ※マージ後の統合されたプロジェクトの調整(タスク処理の共通化や各定義名の変更等)は、 必要に応じておこなってください。





9.8.2. プロジェクト定義情報のマージの操作手順

プロジェクト定義情報のマージは、以下の手順でおこないます。

操作手順① :「マージするプロジェクトの選択」画面を起動する

操作手順② :マージするプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する

(マージするプロジェクトの数分選択を繰り返します)

操作手順③ : データベースのマージの設定をおこなう

操作手順④ : ブックのマージの設定をおこなう

操作手順⑤ : プロジェクトの定義 No.の設定をおこなう

操作手順⑥ :プロジェクトのマージを実行する

■操作手順① :「マージするプロジェクトの選択」画面を起動する

ログイン画面で、マージのベースとなるプロジェクトを選択して開発版メイン操作画面を起動し、「メンテナンス」-「プロジェクトのマージ」 メニューをクリックすると「マージするプロジェクトの選択」画面が表示されます。

例)マージのベースとなるプロジェクトが「テスト マージProj」の場合

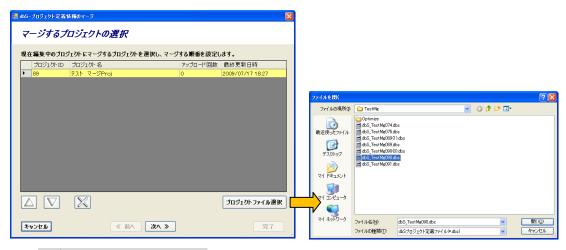
© dbS-開発メイン排作画面 ユーザ: manual1 〈9〉 【200:ザシフルweb7フリケーションB】 #2								
ファイル(E) 編集(E) DB自動作成(A) デバッグ(D) アップロード(U) メンテナンス(M) ヘルプ(H) (C)2007-10 Newcom Co.,Ltd. (5.0.0.0)								
<u>0</u> 終了 <u>1</u> 定義編集 <u>3</u> DE	K	スワードの設定		ァレンス	6.SQLFX	実行 7.7	*外保守定義	
環境設定 アップロード(F1) Excelアップ(F2) DB		ロジェクトの初期化 ロジェクトの強制入替		빛(F5)	デモ取込の	F6)		
プロジェクト 情報 組織D 135 プロジェクト名 200 プロジェクト 全機 dbs demoa20	₹.	ロジェクトの複製 モプロジェクトの取込 部プロジェクトの取込	•					
SISTST XE4X57/17/18 GLOS_GOINGLES	ブロ	ロジェクトの比較レポート作成	戏					
◇実行用フォルダ◇ ※実行用フォルダには、実行用の定義	ブロ	ロジェクトのマージ		ナーバから	ダウンロードされ	れた定義フ	ァイルです)	
C:¥dbSheetClient¥DevelopV4¥run¥demoa¥ 定義情報のマイグレーション				<u> </u>				
実行用フォルダから 定義ファイルもコピーする アゥブロード		2010年4	月6日	3 10:13:29 システム仕様 定義アップ Ver. Ver.				
		2010-04-05 17:53			87	300	1	
※コピーする時にな必ず上書き してもよいか確認してください。 ※実行用の定義ファイルを、開発フォルダにコピーすることができます。								
◎開発用フォルダ◎						システム仕様	第一定義アップ	
開発用フォルグを変更する ファイルの更新	日時	2010年4	月6日	10:09:1	4	Ver.	Ver.	
アップロード	日時	2010-04-	-05 17:	53:55.7	87	300	1	
C:¥dbSheetClient¥DevelopV4¥dev¥demoa¥								





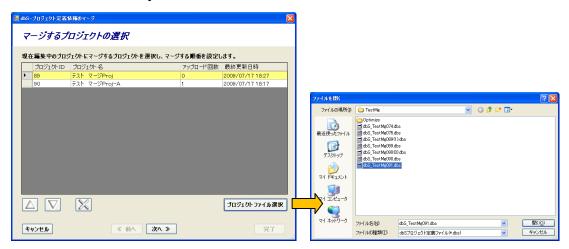


■操作手順② :マージするプロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する



- (1) [プロジェクトファイル選択] ボタンをクリックします。ファイルを選ぶ画面が表示されます。
- (2) マージするプロジェクト定義ファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックすると、マージ するプロジェクトの一覧 (グリッドビュー) にプロジェクト情報が表示されます。





(3) マージするプロジェクトが複数ある場合は、同様にして再度 [プロジェクトファイル選択] ボタンをクリックしてファイルを選択します。(マージするプロジェクトの数分選択を繰り返します。)





例)ベースとなるプロジェクト「テスト マージProj」に、マージするプロジェクトとして 「テスト マージProj-A」と「テスト マージProj-B」を選択した場合の画面



- (4) 次操作手順③の「データベースのマージ設定」画面を表示するには、**[次へ >>]** ボタンを クリックします。
- マージする順番は、マージするプロジェクト一覧の表示順(上から下へ)になります。(一番上のプロジェクトはベースとなるプロジェクトのため、順番は変更できません。)
- マージする順番を変更するには、プロジェクト一覧で目的のプロジェクトを選択(行の背景色が黄)して、【△】ボタン(順番を上位変更)または【▽】ボタン(順番を下位変更)をクリックします。
- ◎ マージするプロジェクト一覧から除外するには、目的のプロジェクトを選択(行の背景色が黄)して、【※】ボタンをクリックします。
- ◎ 処理を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。





■操作手順③ : データベースのマージの設定をおこなう

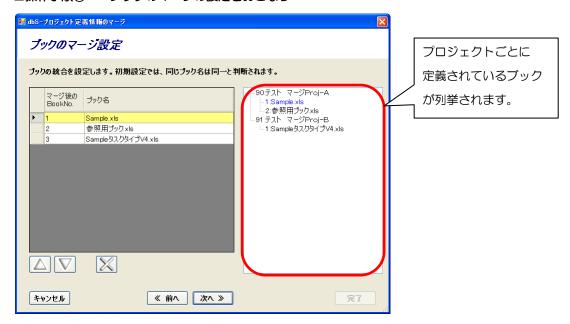


- (1) 次操作手順④の「ブックのマージ設定」画面を表示するには、[次へ >>] ボタンをクリックします。
- ◎ デフォルトでは、同じエイリアス名のデータベースは同一と判断され、マージ後のDB定義の DBNO も同じ番号として設定されます。
- ◎ エイリアス名が同じでも別のDB定義に変更したい場合など、左側に表示されているデータベース一覧の統合内容を変更するには、右側に表示されているプロジェクトごとのデータベースで、目的のデータベースを選択して、左側のデータベース一覧へドラッグアンドドロップします。別のDB定義として設定する場合は、左側のデータベース一覧の空欄(灰色)部分へドラッグアンドドロップします。
 - 同じDB定義として設定する場合は、左側のデータベース一覧の統合するデータベースの行へ ドラッグアンドドロップします。
- ◎ マージ後の DBNO を変更するには、データベース一覧で目的のデータベースを選択(行の背景色が黄)して、 [△] ボタン(DBNO を上位変更)または 【▽】 ボタン(DBNO を下位変更)を クリックします。
- ◎ マージするデータベース一覧から除外するには、目的のデータベースを選択(行の背景色が黄)して、[X] ボタンをクリックします。
 なお、除外して、右側のプロジェクトごとのデータベースで、どこにも割り付けられていないデータベース(赤字)が残っている場合は、エラーとなり次のステップへは進めません。
- ◎ 処理を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。
- ◎ 前ステップ①へ戻るには、[《 前へ] ボタンをクリックします。





■操作手順④ :ブックのマージの設定をおこなう



- (1) 次操作手順⑤の「定義 No.の設定」画面を表示するには、[次へ »] ボタンをクリックします。
- ◎ デフォルトでは、同じブック名は同一と判断され、マージ後のブック定義の BKNO も同じ番号として設定されます。
- ◎ ブック名が同じでも別のブック定義に変更したい場合など、左側に表示されているブック一覧の 統合内容を変更するには、右側に表示されているプロジェクトごとのブックで、目的のブック を選択して、左側のブック一覧へドラッグアンドドロップします。

別のブック定義として設定する場合は、左側のブック一覧の空欄(灰色)部分へドラッグアンド ドロップします。

同じブック定義として設定する場合は、左側のブック一覧の統合するブックの行へドラッグアンドドロップします。

- マージ後の BKNO を変更するには、ブック一覧で目的のブック名を選択(行の背景色が黄)して、[△] ボタン(BKNO を上位変更)または「▽] ボタン(BKNO を下位変更)をクリックします。
- ◎ マージするブック一覧から除外するには、目的のブック名を選択(行の背景色が黄)して、[X] ボタンをクリックします。

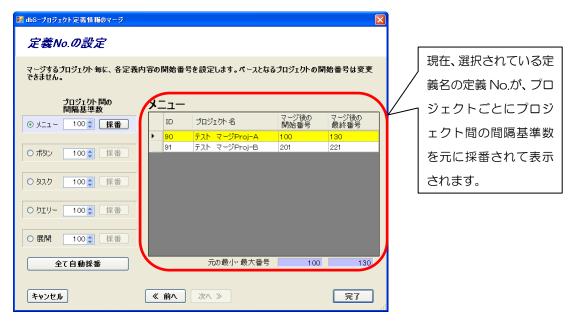
なお、除外して、右側のプロジェクトごとのブックで、どこにも割り付けられていないブック (赤字)が残っている場合は、エラーとなり次のステップへは進めません。

- ◎ 処理を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。
- ◎ 前ステップ②へ戻るには、[((前へ)] ボタンをクリックします。





■操作手順⑤ : プロジェクトの定義 No.の設定をおこなう

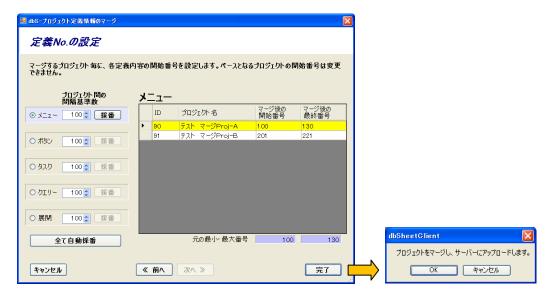


- (1) 次操作手順⑥の「プロジェクトのマージを実行する」には、[完了] ボタンをクリックします。
- ◎ マージする各プロジェクトの定義 No.は重複しないように、自動で採番をおこないますが、以下に示す定義 No.は、各プロジェクト間の間隔基準数(加算数)を任意に変更できるようになっています。(デフォルトのプロジェクト間の間隔基準数は 100 になっています。)
 - ●メニュー定義 No. (MNO)
 - ●ボタンセット定義 No. (BSNO)
 - ●タスクー覧定義 No. (TASKNO)
 - ●クエリー定義 No. (QNO)
 - ●展開定義 No. (DNO)
 - ◇各定義名(メニュー/ボタン/タスク/クエリー/展開)のコンボボックスに表示されている プロジェクト間の間隔基準数で、全ての定義 No.を一括して採番するには、**「全て自動採番**」 ボタンをクリックします。
 - ◇各定義 No.を個別に採番するには、目的の定義名のラジオボタンをクリックし、コンボボックスで間隔基準数を変更した後、右側にある[採番]ボタンをクリックします。
 - ◇また、右側に表示されているプロジェクト毎の「マージ後の開始番号」は、直接入力が可能になっており、1つ前(上の行)のプロジェクトの「マージ後の最終番号」より大きい値であれば、ここで任意の値に変更することもできるようになっています。
- ◎ 処理を中止するには、[キャンセル] ボタンをクリックします。
- ◎ 前ステップ③へ戻るには、[《 前へ] ボタンをクリックします。

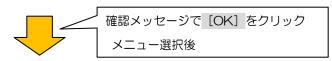




■操作手順⑥ :プロジェクトのマージを実行する



(1) [完了] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。 ここで、[OK] ボタンをクリックすると、プロジェクトのマージを実行します。 [キャンセル] ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。





(2) プロジェクトのマージが実行されると、マージ処理終了後(マージする容量により処理時間がかかります)、マージ後のプロジェクトを自動的にサーバにアップロードし、開発版メイン操作画面へ戻ります。





9.9. 定義情報のマイグレーション

9.9.1. プロジェクト定義情報のマイグレーションの概要

本機能は、dbSheetClient のメジャーバージョンアップ(V2→(V3~V5)など)がおこなわれた時に、 プロジェクト定義情報の管理テーブルに新たなフィールドが追加となったり、定義シートが追加された場 合など、旧仕様から新仕様にプロジェクト定義情報をマイグレーション(移行)するための機能です。

9.9.2. プロジェクト定義情報のマイグレーションの操作手順

プロジェクト定義情報のマイグレーションは、以下の手順でおこないます。

操作手順① :プロジェクト定義情報のマイグレーション画面を起動する

操作手順②(ステップ①):旧プロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する

操作手順③(ステップ②):選択した旧プロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む

操作手順④ (ステップ③):マイグレーションを実行する

操作手順⑤ (ステップ④): サーバにプロジェクト定義情報を送信する

■操作手順① :プロジェクト定義情報のマイグレーション画面を起動する

ログイン画面で、マイグレーション先の初期化されているプロジェクトを選択して開発版を起動したのち、 開発版メイン操作画面 から 「メンテナンス」-「定義情報のマイグレーション」 メニューをクリック すると「定義情報のマイグレーション」画面が表示されます。









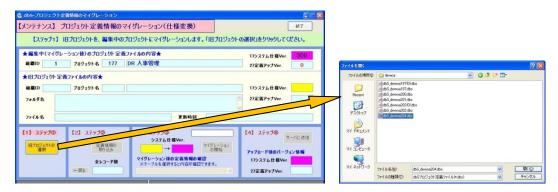
【 注意 】

「定義ファイルが見つかりません」という画面が表示されたときは、処理することができません。「実行用フォルダから定義ファイルをコピーする」をクリックします。 開発用フォルダに初期化された定義ファイルをコピーしてください。





■操作手順②(ステップ①):旧プロジェクト定義ファイルをファイル選択画面から選択する



- (1) [旧プロジェクトの選択] ボタンをクリックします。ファイルの選択画面が表示されます。
- (2) 旧プロジェクト定義ファイルを選択して [**開く**] ボタンをクリックすると、プロジェクト情報が表示され、 [**定義情報の取り込み**] ボタンが有効になります。









■操作手順③ (ステップ②):選択した旧プロジェクト定義ファイルから定義情報を取り込む



- (1) [定義情報の取り込み] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、旧プロジェクトの定義情報が読み込まれ表示されます。 取込後、**[マイグレーションの開始]** ボタンが有効になります。

[いいえ] をクリックした場合は、元の画面へ戻ります。









■操作手順④ (ステップ③):マイグレーションを実行する



(1) **[マイグレーションの開始]** ボタンをクリックすると、マイグレーションが実行され、マイグレーション後の定義情報が確認できるようになります。









■操作手順⑤ (ステップ④):サーバにプロジェクト定義情報を送信する



- (1) [サーバに送信] ボタンをクリックすると、確認メッセージのダイアログが表示されます。
- (2) **[はい]** ボタンをクリックすると、サーバにプロジェクト定義情報が送信されます。 **[いいえ]** ボタンをクリックした場合は、元の画面へ戻ります。
 - ※プロジェクトの送信処理には、容量により時間を要しますので、処理中は画面操作を おこなわないようにしてください。
- (3) 送信処理が正常に終了すると、マイグレーションされたプロジェクト定義ファイルがサーバから ダウンロードされ、開発用フォルダにコピーされます。









§ 付録





A. 改版履歴

バージョン	改版年月日	項番	変更内容
5.0.0.0	2010年5月20日		Ver.5 対応マニュアル公開
5.0.3.2	2010年7月20日		環境設定へ外部 URL 起動の Excel ブックへの対応方法を追加









本 社 〒330-0061

埼玉県さいたま市浦和区常盤 7-3-16 ジブラルタ生命浦和ビル

TEL: 048-815-8460 FAX: 048-825-5518

